



MICRO CADAM~AutoCAD®ダイレクト変換

お助けシリーズ
とろ
DWGえもん

操作手順書



ASA Systems Inc.

第 18 版 2014 年 9 月

Windows は、米国 Microsoft Corporation の登録商標、または商標です。
MICRO CADAM または MICRO CADAM Helix は、日本アイ・ビー・エム・サービス株式会社(ISC-J) が専用使用権を所有する登録商標です。
Autodesk、AutoCAD は、米国オートデスク社およびその他の国における登録商標です。
その他、記載されている会社名、商品名は、各社の商標および登録商標です。

この解説書は、プログラムの改良および記載内容の改善のために適宜変更されることがあります。
この変更は、改訂版の発行によりお知らせします。

© 1987-1999 Adobe Systems Incorporated. All rights reserved. Adobe, Acrobat, および Acrobat
ロゴは、Adobe Systems Incorporated の商標(地域によっては登録商標)です。
© Copyright 株式会社 エーエスエー・システムズ 2000-2014

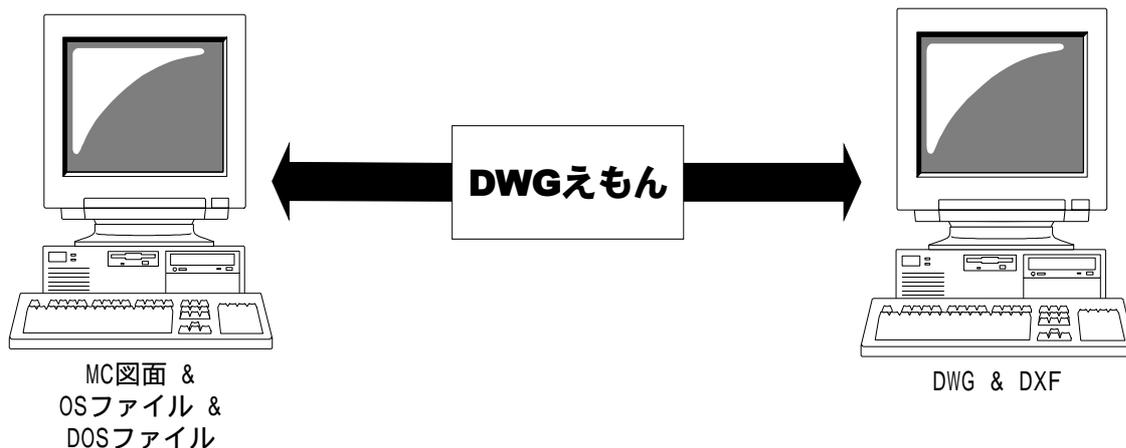
まえがき

このマニュアルは、MICRO CADAM とアプリケーション・プログラムとの間で、CAD データを相互に交換するためのインターフェースお助けツール DWG えもん(以降、DWG えもんといいます)について解説したものです。

DWG えもんは、次のような機能をもっています。

- ・ MICRO CADAM の図面(以降、MC 図面といいます)のデータを DWG/DXF ファイル(以降、DWG といいます)に変換する機能。
- ・ DWG を MC 図面のデータに変換する機能。
- ・ MICRO CADAM の OS ファイル(以降、OS ファイルといいます)のデータを DWG に変換する機能。
- ・ DWG を OS ファイルに変換する機能。
- ・ MICRO CADAM の DOS ファイル(以降、DOS ファイルといいます)のデータを DWG に変換する機能。
- ・ DWG を DOS ファイルに変換する機能。

注) OS ファイルの変換は、V4R3 以上用の DWG えもんで対応します。



なお、このマニュアルは、下記の4部構成になっています。

また、ネットワークライセンスの対話モード版(以降、対話モード版といいます)を購入された方は、対話モード版の欄を、ネットワークライセンスのバッチモード版(以降、バッチモード版といいます)を購入された方は、バッチモード版の欄を参照してください。

	対話モード版を購入	バッチモード版を購入
第I部 概要	○	○
第II部 対話モード版	○	
第III部 バッチモード版		○
第IV部 共通	○	○

目次

第Ⅰ部 概要	1
1. 概要.....	2
1) 特記事項.....	2
(1) 実行可能環境.....	2
(2) 使用上の注意事項.....	3
2) 機能概要.....	4
(1) 対話モード版.....	4
(2) バッチモード版.....	5
第Ⅱ部 対話モード版.....	6
2. 実行前の準備	7
1) MC ベースモジュールのメニュー・ボタンの導入	7
3. DWG ⇒ 図面変換手順.....	8
1) 変換手順.....	8
2) 変換条件変更手順.....	10
(1) デフォルトディレクトリー変更手順	11
(2) その他変更手順	11
(3) 設定内容保存手順.....	11
3) カラーテーブル設定変更手順.....	12
(1) カラー番号変更手順	12
(2) カラーテーブル設定内容保存手順	12
4) オプション設定変更手順.....	13
(1) gtcoll.def 設定変更手順.....	13
(2) gtlin.def 設定変更手順.....	14
(3) gtarw.def 設定変更手順	15
(4) gtdel.def 設定変更手順	16
(5) dwgenv.sys 設定変更手順	17
5) ペーパー空間設定変更手順	18
(1) ペーパー空間変更手順.....	18
(2) ペーパー空間ビュー名変更手順.....	18

4. 図面 ⇒ DWG 変換手順	19
1) 変換手順.....	19
2) 変換条件変更手順.....	21
(1) デフォルトディレクトリー変更手順.....	22
(2) その他変更手順.....	22
(3) 設定内容保存手順.....	22
3) カラー・レイヤーテーブル設定変更手順.....	23
(1) 線種別カラーテーブル設定変更手順.....	23
(2) カラー別カラーテーブル設定変更手順.....	25
(3) 線種別レイヤーテーブル設定変更手順.....	26
(4) カラー別レイヤーテーブル設定変更手順.....	27
4) オプション設定変更手順.....	28
(1) spcchr.tbl 設定変更手順.....	28
(2) mkcol.def 設定変更手順.....	29
(3) mklin.def 設定変更手順.....	30
(4) mkarw.def 設定変更手順.....	31
(5) mkdel.def 設定変更手順.....	32
(6) dwgenv.sys 設定変更手順.....	33
5) ペーパー空間設定変更手順.....	34
(1) ペーパー空間変更手順.....	34
(2) ペーパー空間ビュー名変更手順.....	34
 第Ⅲ部 バッチモード版	 35
5. 環境設定ファイル	36
1) 実行前の準備.....	36
(1) 環境設定ファイルの設定.....	36
 6. DWG ⇒ 図面変換手順	 37
1) 変換手順.....	37
(1) ワイルドカード検索手順.....	45
(2) 一時的な設定変更.....	46
2) 変換条件変更手順 (DWG ⇒ MC 図面変換).....	47
(1) デフォルトディレクトリー変更手順.....	48
(2) デフォルト区画変更手順.....	49
(3) デフォルトグループ変更手順.....	49
(4) デフォルトユーザー変更手順.....	50
(5) その他変更手順.....	50
(6) 設定内容保存手順.....	50

3) 変換条件変更手順 (DWG ⇒ OS ファイル変換)	51
(1) デフォルト入力先ディレクトリー変更手順	52
(2) デフォルト出力先ディレクトリー変更手順	53
(3) その他変更手順	53
(4) 設定内容保存手順	54
4) 変換条件変更手順 (DWG ⇒ DOS ファイル変換)	55
(1) デフォルトディレクトリー変更手順 (入出力共通)	56
(2) デフォルト区画変更手順	57
(3) デフォルトグループ変更手順	57
(4) デフォルトユーザー変更手順	58
(5) その他変更手順	58
(6) 設定内容保存手順	58
5) カラーテーブル設定変更手順	59
(1) カラー番号変更手順	59
(2) カラーテーブル設定内容保存手順	59
6) 結果確認手順	60
7) オプション設定変更手順	61
(1) gtcoll.def 設定変更手順	61
(2) gtlin.def 設定変更手順	62
(3) gtarw.def 設定変更手順	63
(4) gtdel.def 設定変更手順	64
(5) dwgenv.sys 設定変更手順	65
8) ペーパー空間設定変更手順	66
(1) ペーパー空間変更手順	66
(2) ペーパー空間ビュー名変更手順	66
7. 図面 ⇒ DWG 変換手順	67
1) 変換手順	67
(1) ワイルドカード検索手順	75
(2) 一時的な設定変更	76
2) 変換条件変更手順 (MC 図面 ⇒ DWG 変換)	77
(1) デフォルト区画変更手順	78
(2) デフォルトグループ変更手順	78
(3) デフォルトユーザー変更手順	78
(4) デフォルトディレクトリー変更手順	78
(5) その他変更手順	78
(6) 設定内容保存手順	79
3) 変換条件変更手順 (OS ファイル ⇒ DWG 変換)	80
(1) デフォルト入力先ディレクトリー変更手順	81
(2) デフォルト出力先ディレクトリー変更手順	81
(3) その他変更手順	81
(4) 設定内容保存手順	82

4) 変換条件変更手順 (DOS ファイル ⇒ DWG 変換)	83
(1) デフォルトディレクトリー変更手順 (入出力共通)	84
(2) デフォルト区画変更手順	84
(3) デフォルトグループ変更手順	84
(4) デフォルトユーザー変更手順	84
(5) その他変更手順	85
(6) 設定内容保存手順	85
5) カラー・レイヤーテーブル設定変更手順	86
(1) 線種別カラーテーブル設定変更手順	86
(2) カラー別カラーテーブル設定変更手順	88
(3) 線種別レイヤーテーブル設定変更手順	89
(4) カラー別レイヤーテーブル設定変更手順	90
6) 結果確認手順	91
7) オプション設定変更手順	92
(1) spcchr.tbl 設定変更手順	92
(2) mkcol.def 設定変更手順	93
(3) mklin.def 設定変更手順	94
(4) mkarw.def 設定変更手順	95
(5) mkdel.def 設定変更手順	96
(6) dwgenv.sys 設定変更手順	97
8) ペーパー空間設定変更手順	98
(1) ペーパー空間変更手順	98
(2) ペーパー空間ビュー名変更手順	98

第Ⅳ部 共通 99

8. 設定項目詳細説明	100
1) 図面および DWG 設定項目事項 (対話モード版の場合)	100
(1) DWG ⇒ 図面変換	100
(2) 図面 ⇒ DWG 変換	101
2) 図面および DWG 設定項目事項 (バッチモード版の場合)	102
(1) DWG ⇒ MC 図面変換	102
(2) DWG ⇒ OS ファイル変換	102
(3) DWG ⇒ DOS ファイル変換	103
(4) DWG ⇒ 図面変換共通	104
(5) MC 図面 ⇒ DWG 変換	105
(6) OS ファイル ⇒ DWG 変換	105
(7) DOS ファイル ⇒ DWG 変換	106
(8) 図面 ⇒ DWG 変換共通	107
3) その他設定項目事項	108

(1) DWG ⇒ 図面変換	108
(2) 図面 ⇒ DWG 変換	111
4) カラー・レイヤーテーブル設定項目事項	116
(1) DWG ⇒ 図面変換	116
(2) 図面 ⇒ DWG 変換	117
5) オプション設定項目事項	120
(1) DWG ⇒ 図面変換	120
(2) 図面 ⇒ DWG 変換	121
9. エラーメッセージ説明	123
1) DWG ⇒ 図面変換	123
2) 図面 ⇒ DWG 変換	126
10. 付録	128
1) 対応要素一覧表	128
(1) DWG ⇒ 図面変換表	128
(2) 図面 ⇒ DWG 変換表	130
(3) カラー対応表 (DWG ⇒ 図面)	135
(4) カラー対応表 (図面 ⇒ DWG)	136
(5) 線種対応表 (DWG ⇒ 図面)	137
(6) 線種対応表 (図面 ⇒ DWG)	138
(7) 特殊記号変換表 (DWG ⇒ 図面)	140
(8) 特殊記号変換表 (図面 ⇒ DWG)	140
(9) 寸法矢印形状対応表 (DWG ⇒ 図面)	141
(10) 寸法矢印形状対応表 (図面 ⇒ DWG)	143
(11) ビュースケール反映図 (図面 ⇒ DWG)	144
2) 制約事項	147
(1) DWG ⇒ 図面変換	148
(2) 図面 ⇒ DWG 変換	157
3) dwgenv.sys の設定	163
4) 線種について	176
(1) gtlin.def の設定	176
(2) mklin.def の設定	177
(3) ltyp.def、ltyp1314.def、ltyp12.def の設定	178
(4) MC の線種 No.表	182
(5) DWG 線種表	184
5) 矢印について	186
(1) gtarw.def の設定	186
(2) mkarw.def の設定	187

6) 要素の削除について	188
(1) gtdel.def の設定	188
(2) mkdel.def の設定	189
7) asagaiji.tbl の設定	190
8) ペーパー空間設定について	191
(1) DWG ⇒ 図面変換	191
(2) 図面 ⇒ DWG 変換	196
9) 導入時の変換条件設定	200
(1) DWG ⇒ 図面変換	200
(2) 図面 ⇒ DWG 変換	201
10) トラブル調査依頼について	202

第 I 部 概要

1. 概要

1) 特記事項

(1) 実行可能環境

MC ベースモジュール	V3.18, V4R1, V4R2, V4R3, V5R1, V5R2 (20XX) ※お持ちの製品がどの MC バージョンに対応しているかは、CD-ROM をご覧ください。
メモリー	128MB 以上(推奨)*)
仮想メモリーサイズ	データにより異なる

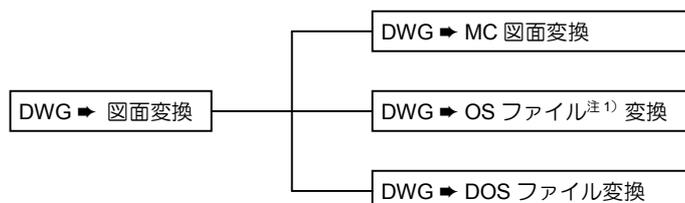
オペレーティングシステム
Windows 8.1 Pro
Windows 8 Pro
Windows 7 Professional
Windows Vista Business 以上
Windows Server 2012 R2
Windows Server 2012
Windows Server 2008 R2
Windows Server 2008
Windows Server 2003 R2
Windows Server 2003

(2) 使用上の注意事項

DWG ➡ 図面変換^{注)}では、
DWGのサイズ、数、要素により、必要なディスク空領域は異なります。

注) **DWG ➡ MC 図面変換**と **DWG ➡ OS ファイル^{注1)} 変換**と **DWG ➡ DOS ファイル変換**を総称して、**DWG ➡ 図面変換**と呼びます。

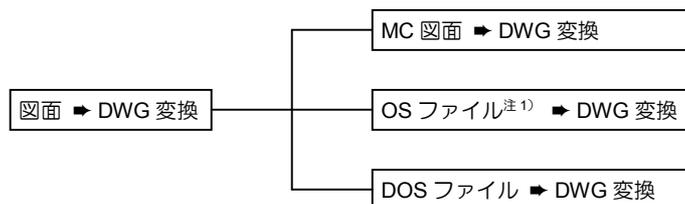
注) 変換元ファイルの拡張子が **DXF** の場合、**DXF ファイル**として変換します。



図面 ➡ DWG 変換^{注)}では、
図面のサイズ、数、要素により、必要なディスク空領域は異なります。

注) **MC 図面 ➡ DWG 変換**と **OS ファイル^{注1)} ➡ DWG 変換**と **DOS ファイル ➡ DWG 変換**を総称して、**図面 ➡ DWG 変換**と呼びます。

注) 変換後ファイルの拡張子が **DXF** の場合、**DXF ファイル**として変換します。



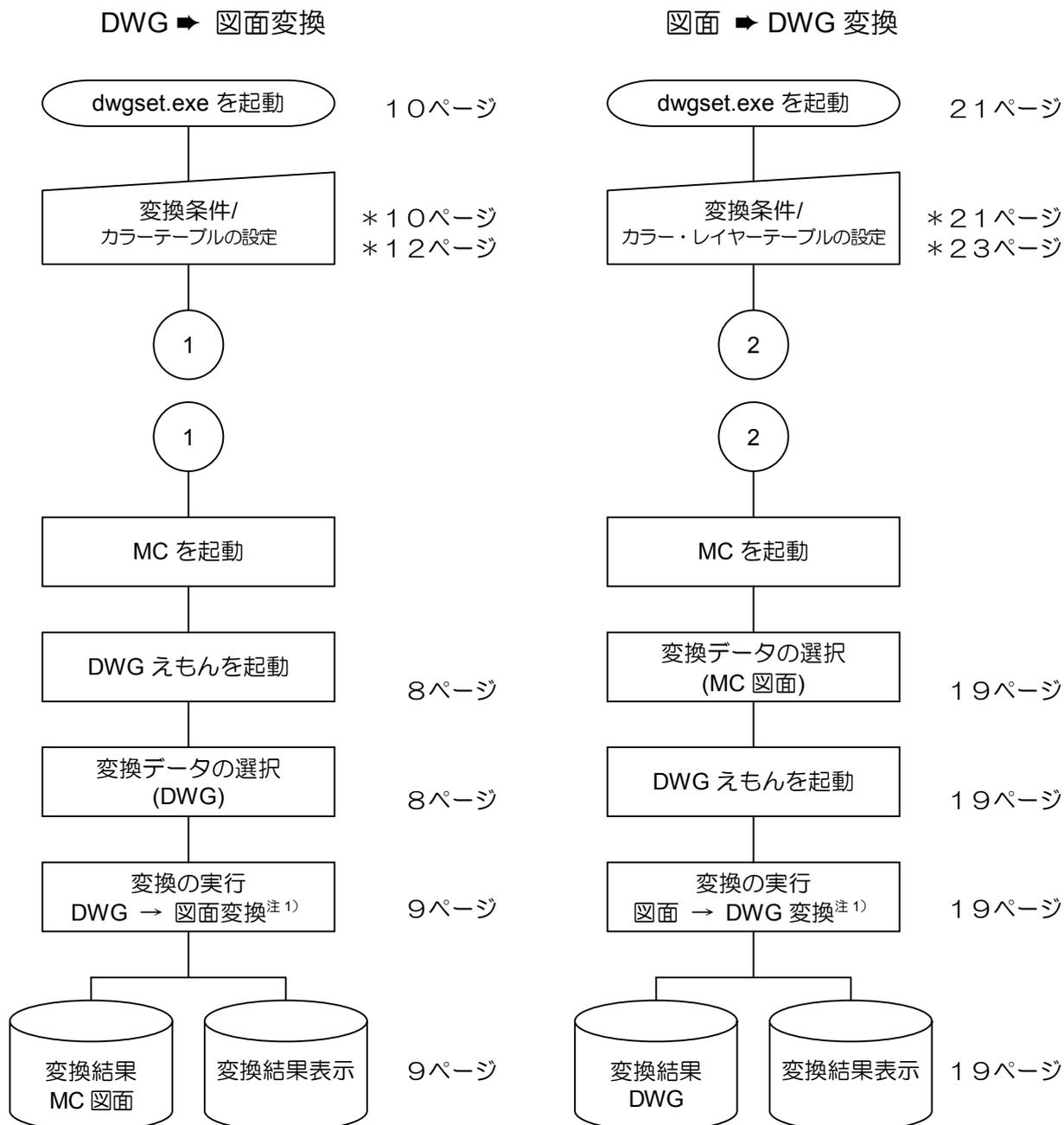
注 1) V4R3 以上用の DWG えもんで対応します。

2) 機能概要

DWG えもんは、MC 付属の ACCESS core を使用して、図面と DWG とのデータ変換を行ないます。

操作の流れ(1 例)を以下に示します。

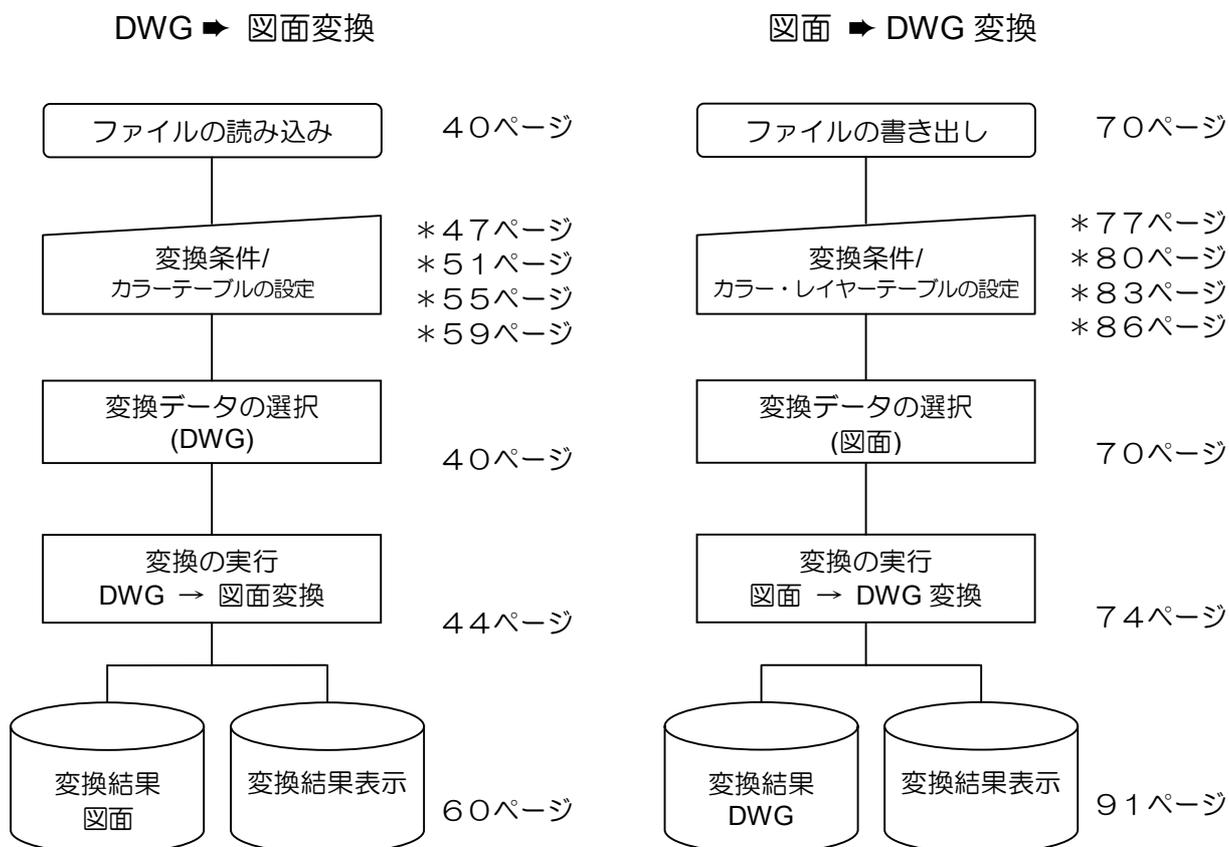
(1) 対話モード版



*) 変換条件の設定内容を保存すると、次回実行時の初期値になります。

注1) DWG ➡ DOS ファイル変換、DOS ファイル ➡ DWG 変換は除く。

(2) バッチモード版



*) 変換条件の設定内容を保存すると、次回実行時の初期値になります。

第Ⅱ部 対話モード版

2. 実行前の準備

1) MC ベースモジュールのメニュー・ボタンの導入

MC ベースモジュールのメニュー・ボタンに DWG えもんの実行プログラムを導入します。

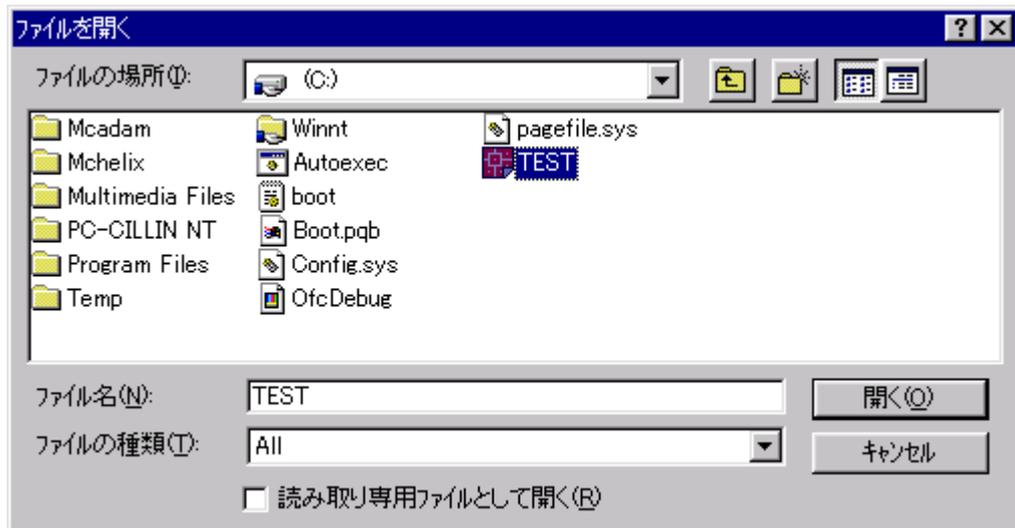
- ・ スタンドアロンタイプをインストールした場合
DWG ➡ **図面変換**では、メニュー・ボタンに『**dwggtis.dll**』を導入してください。
図面 ➡ **DWG 変換**では、メニュー・ボタンに『**dwgmkis.dll**』を導入してください。
- ・ ネットワークライセンスタイプをインストールした場合
DWG ➡ **図面変換**では、メニュー・ボタンに『**dwggtil.dll**』を導入してください。
図面 ➡ **DWG 変換**では、メニュー・ボタンに『**dwgmkil.dll**』を導入してください。

詳細は、別冊『メニュー・ボタンの導入手順書』を参照してください。

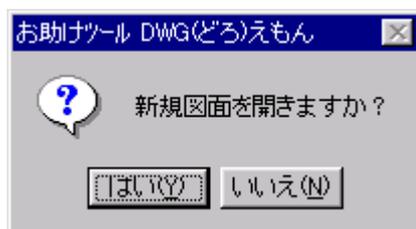
3. DWG ⇒ 図面変換手順

1) 変換手順

MC ベースモジュール起動後、DWG ➡ 図面変換のメニューを選択して実行します。



変換対象となる AutoCAD の図面を選択して、**【開く】** を押します。



新規図面に、AutoCAD の図面を作成する場合は、**【はい】** を押します。
 カレント図面にビューを追加して、AutoCAD の図面を追加したビューに作成する場合は、**【いいえ】** を押します。

注) 新規図面に図面を作成する場合は、デフォルトの図面名(TMPTMPTMP ,ASA)になっています。したがって、図面名を変更し、保存してください。

[はい] または [いいえ] を押すと、変換処理を実行します。



変換処理が全て終了すると、上記画面を表示します。
結果表示の内容については、**9. エラーメッセージ説明**を参照してください。

プロテクトをセットしていない場合、エラーメッセージを表示します。



2) 変換条件変更手順

Windows の【スタート】から【プログラム】【ASA GROUP】内の【DWG えもん 対話モード 設定】を選択して実行します。



メニューの【設定】を選択し、【dwggt.sys】を選択します。



ここで、現在のデフォルトの設定内容を上記のように表示します。

(1) デフォルトディレクトリー変更手順

【参照】を押します。



ここで、フォルダの参照画面を表示します。
変更したいドライブ、ディレクトリーを選択した後、【OK】を押します。

(2) その他変更手順

設定内容の詳細は、8. 設定項目詳細説明を参照してください。

(3) 設定内容保存手順

保存する場合は、【OK】を押します。【キャンセル】を押した場合は、保存されません。

3) カラーテーブル設定変更手順

メニューの【カラーテーブル】を選択し、【gtcol.tbl】を選択します。

注) カラーテーブルの設定内容は、変換条件設定の『カラーテーブル』を**使用**にした場合のみ有効です。



ここで、現在のデフォルトのカラーテーブル設定内容を上記のように表示します。

(1) カラー番号変更手順

太線・中線・細線の DWG カラーの**入力域**を選択します。
DWG のカラー番号をキー入力します。

カラーテーブル設定内容の詳細は、8. 4) (1) a) カラーテーブルを参照してください。

(2) カラーテーブル設定内容保存手順

保存する場合は、【OK】を押します。【キャンセル】を押した場合は、保存されません。

別の名前で保存する場合は、【別名保存】を押し、任意のファイル名を設定します。保存されたファイルは、【参照】で呼び出すことができます。

4) オプション設定変更手順

(1) gtcol.def 設定変更手順

メニューの【オプション】を選択し、【gtcol.def】を選択します。
現在のデフォルトの gtcol.def 設定内容を表示します。

注) gtcol.def の設定内容は、変換条件設定の『カラーテーブル』の設定に関係なく常時有効です。

a) カラー番号変更手順

変更したいカラー番号を選択リストから選択します。



MC のカラー番号をプルダウンリストから選択してください。
保存する場合は、【登録】を押します。ただし、登録済みの場合は、この操作は無効です。
また、削除する場合は、【削除】を押します。

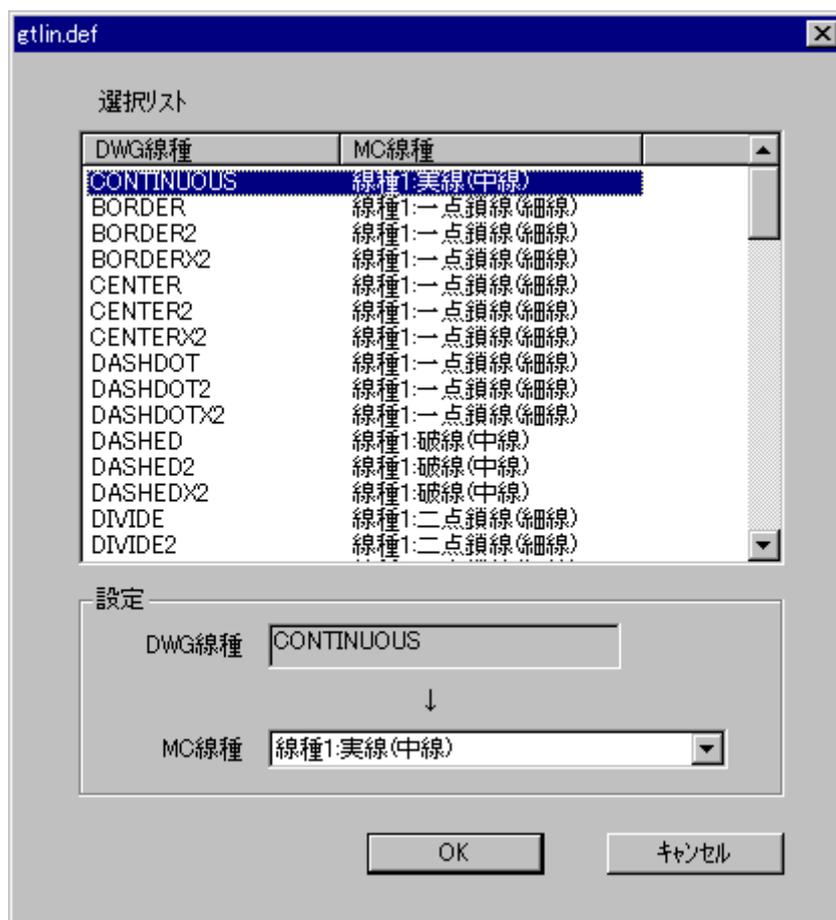
gtcol.def 設定内容の詳細は、8. 5) オプション設定項目事項を参照してください。

(2) gtlin.def 設定変更手順

メニューの【オプション】を選択し、【gtlin.def】を選択します。
現在のデフォルトの gtlin.def 設定内容を表示します。

a) 線種変更手順

変更したい DWG 線種を選択リストから選択します。



DWG 線種に対応する MC 線種をプルダウンリストから選択します。
保存する場合は、【OK】を押します。【キャンセル】を押した場合は、保存されません。

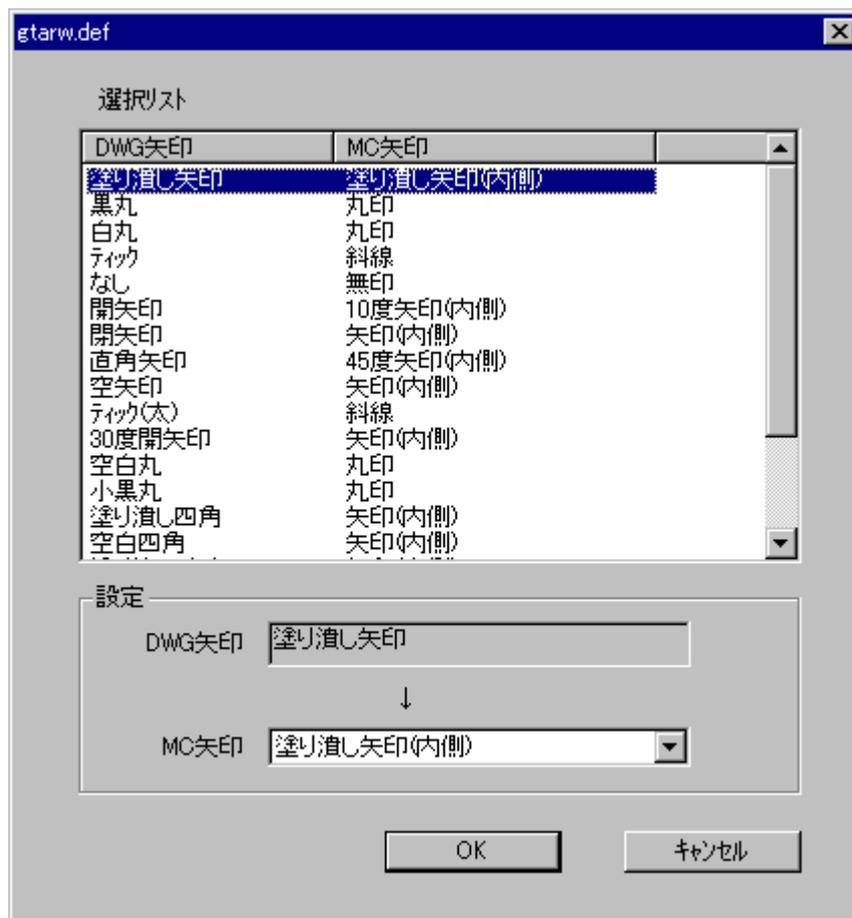
gtlin.def 設定内容の詳細は、8. 5) オプション設定項目事項を参照してください。

(3) gtarw.def 設定変更手順

メニューの【オプション】を選択し、【gtarw.def】を選択します。
現在のデフォルトの gtarw.def 設定内容を表示します。

a) 矢印変更手順

変更したい DWG 矢印を選択リストから選択します。



DWG 矢印に対応する MC 矢印をプルダウンリストから選択します。
保存する場合は、【OK】を押します。【キャンセル】を押した場合は、保存されません。

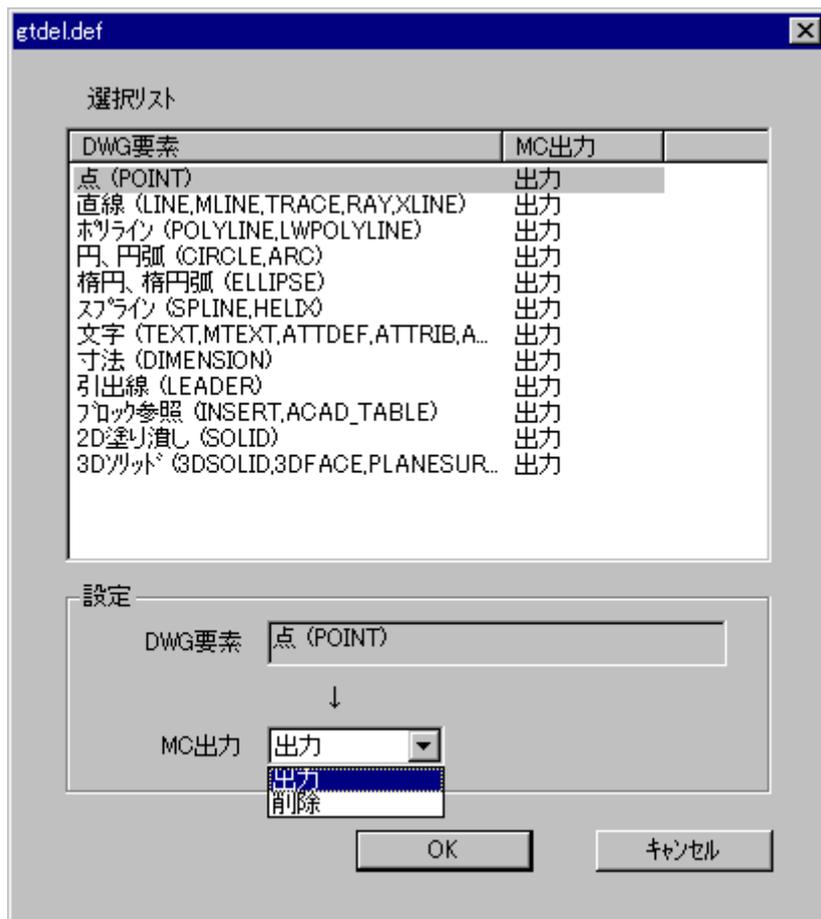
gtarw.def 設定内容の詳細は、8. 5) オプション設定項目事項を参照してください。

(4) gtdel.def 設定変更手順

メニューの【オプション】を選択し、【gtdel.def】を選択します。
現在のデフォルトの gtdel.def 設定内容を表示します。

a) 削除要素設定手順

変換時に削除したい DWG 要素を選択リストから選択します。



MC 出力のプルダウンリストから削除を選択します。

保存する場合は、【OK】を押します。【キャンセル】を押した場合は、保存されません。

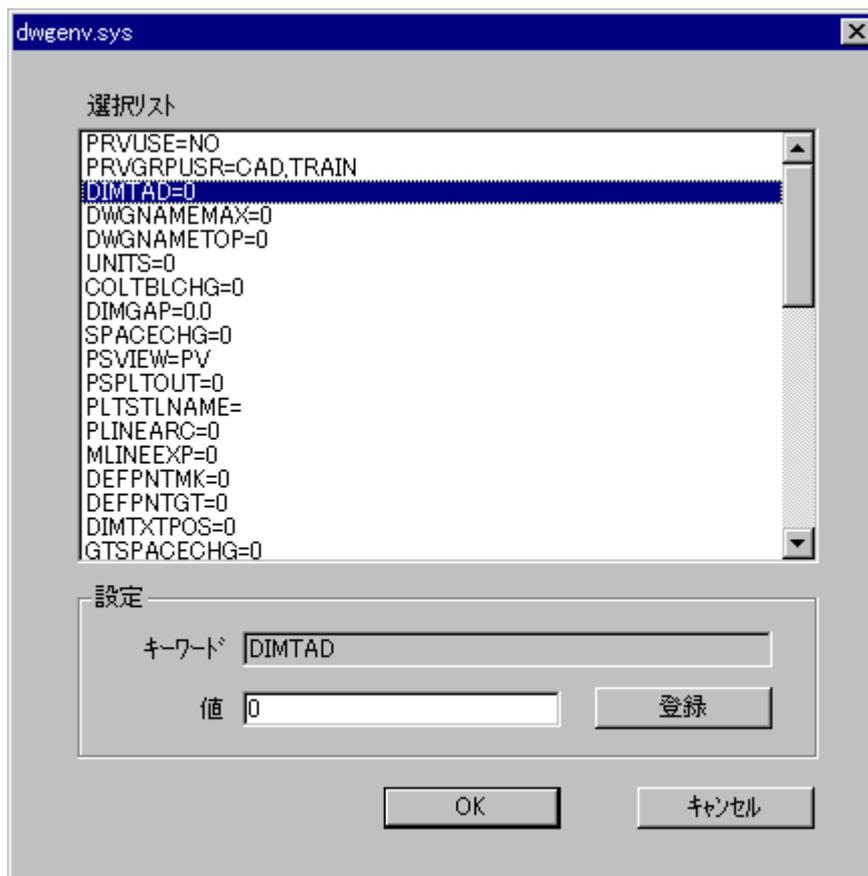
gtdel.def 設定内容の詳細は、8. 5) オプション設定項目事項を参照してください。

(5) dwgenv.sys 設定変更手順

メニューの【オプション】を選択し、【dwgenv.sys】を選択します。
現在のデフォルトの dwgenv.sys 設定内容を表示します。

a) 設定変更手順

変更したいキーワードを選択リストから選択します。



値の入力域を選択します。

キーワードに対応する値をキー入力して、【登録】を押します。

保存する場合は、【OK】を押します。【キャンセル】を押した場合は、保存されません。

dwgenv.sys 設定内容の詳細は、10.3) dwgenv.sys の設定を参照してください。

5) ペーパー空間設定変更手順

メニューの【オプション】を選択し、【ペーパー空間設定】を選択します。
現在のデフォルトのペーパー空間設定内容を表示します。

注) ペーパー空間設定は、オプションの『ペーパー空間サポート』を追加されている場合にご使用いただけます。



(1) ペーパー空間変更手順

ペーパー空間の見た目で変換する場合は、【オン】を選択してください。
モデル空間の見た目で変換する場合は、【オフ】を選択してください。

(2) ペーパー空間ビュー名変更手順

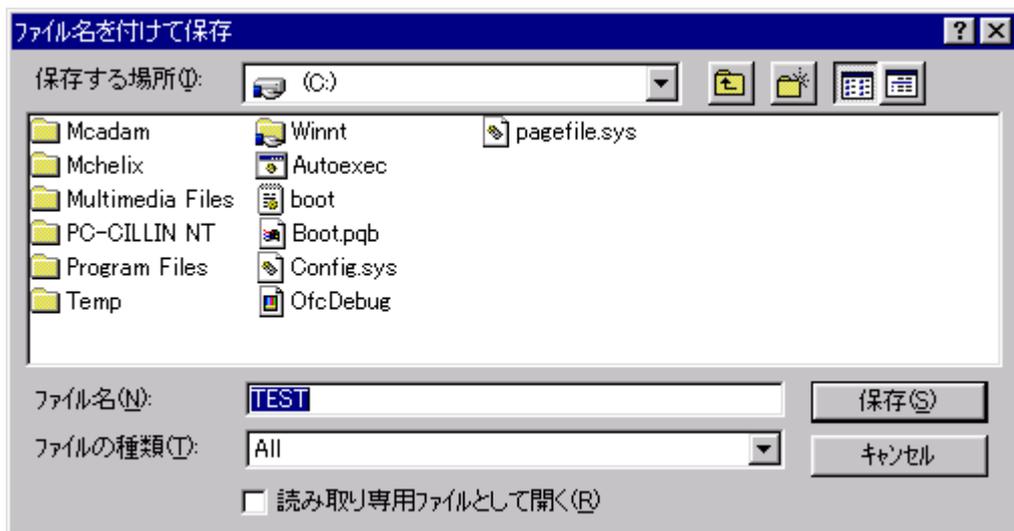
ペーパー空間の要素を、設定したビュー名に変換します。

ペーパー空間設定内容の詳細は、10. 8) ペーパー空間設定についてを参照してください。

4. 図面 ⇒ DWG 変換手順

1) 変換手順

MC ベースモジュール起動後、変換対象となる MC 図面を開きます。DWG ⇨ 図面変換のメニューを選択して実行します。



ファイル名の領域にデフォルトの AutoCAD 図面名を表示します。この図面名を使用する場合は、**[保存]** を押します。図面名を変更する場合は、図面名をキー入力して、**[保存]** を押します。

注) デフォルトの図面名は、spcchr.tbl の設定に依存します。詳細は、8. 5) (2) e) spcchr.tbl を参照してください。

注) 入力できる図面名は、ピリオド(.), 拡張子を含め 32 桁までです。

[保存] を押すと、変換処理を実行します。



変換処理が全て終了すると、上記画面を表示します。
結果表示の内容については、**9. エラーメッセージ説明**を参照してください。

プロテクトをセットしていない場合、エラーメッセージを表示します。



2) 変換条件変更手順

Windows の【スタート】から【プログラム】【ASA GROUP】内の【DWG えもん 対話モード 設定】を選択して実行します。



メニューの【設定】を選択し、【dwgmk.sys】を選択します。



ここで、現在のデフォルトの設定内容を上記のように表示します。

(1) デフォルトディレクトリー変更手順

【参照】 を押します。

DWG ▶ 図面変換と同様に**フォルダーの参照画面**を表示します。

ここで、変更したいドライブ、ディレクトリーを選択します。

(2) その他変更手順

設定内容の詳細は、8. 設定項目詳細説明を参照してください。

(3) 設定内容保存手順

保存する場合は、**【OK】** を押します。**【キャンセル】** を押した場合は、保存されません。

3) カラー・レイヤーテーブル設定変更手順

(1) 線種別カラーテーブル設定変更手順

メニューの【カラーテーブル】を選択し、【mkcol.tbl (線種別)】を選択します。

注) 線種別カラーテーブルの設定内容は、変換条件設定の『カラー・レイヤーテーブル』を線種別カラーテーブルにした場合のみ有効です。

線種	DWGカラー	DWGレイヤー
実線(太線)	1	LAYER001
実線(中線)	2	LAYER002
実線(細線)	3	LAYER003
破線(中線)	4	LAYER004
破線(細線)	5	LAYER005
一点鎖線	6	LAYER006
二点鎖線	7	LAYER007
NCライン	8	LAYER008
破断線	9	LAYER009
注記	10	LAYER010
寸法	11	LAYER011

ここで、現在のデフォルトの線種別カラーテーブル設定内容を上記のように表示します。

注) 線種別カラーテーブルを使用する場合、変換条件設定の『ビュー』を無効に指定すると、線種別カラーテーブルのレイヤー名で出力します。

a) MC 線種に対する DWG カラー変更手順

各 MC 線種・注記・寸法の DWG カラーの**入力域**を選択します。
DWG のカラー番号をキー入力します。

b) MC 線種に対する DWG レイヤー変更手順

各 MC 線種・注記・寸法の DWG レイヤーの**入力域**を選択します。
レイヤー名をキー入力します。

線種別カラーテーブル設定内容の詳細は、8. 4) (2) a) 線種別カラーテーブルを参照してください。

c) 線種別カラーテーブル設定内容保存手順

保存する場合は、**[OK]** を押します。**[キャンセル]** を押した場合は、保存されません。

別の名前で保存する場合は、**[別名保存]** を押し、任意のファイル名を設定します。保存されたファイルは、**[参照]** で呼び出すことができます。

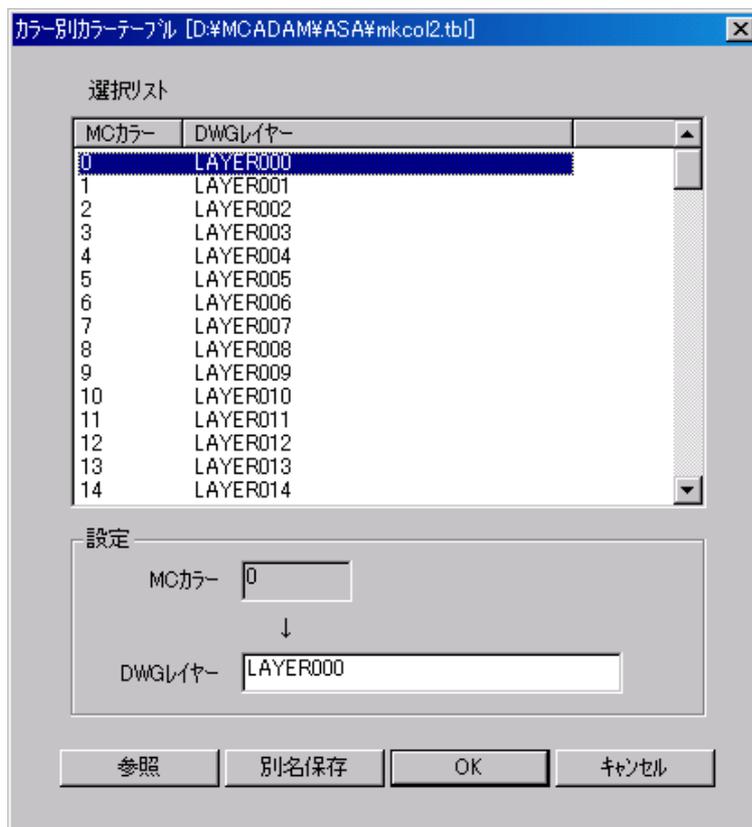
(2) カラー別カラーテーブル設定変更手順

メニューの【カラーテーブル】を選択し、【mkcol2.tbl (カラー別)】を選択します。

注) カラー別カラーテーブルの設定内容は、変換条件設定の『カラー・レイヤーテーブル』をカラー別カラーテーブルにした場合のみ有効です。

a) MC カラーに対する DWG レイヤー変更手順

変更したい MC カラーを選択リストから選択します。



DWG レイヤーの入力域を選択します。
MC カラーに対応するレイヤー名をキー入力します。

保存する場合は、【OK】を押します。【キャンセル】を押した場合は、保存されません。

別の名前で保存する場合は、【別名保存】を押し、任意のファイル名を設定します。保存されたファイルは、【参照】で呼び出すことができます。

カラー別カラーテーブル設定内容の詳細は、8. 4) (2) b) カラー別カラーテーブルを参照してください。

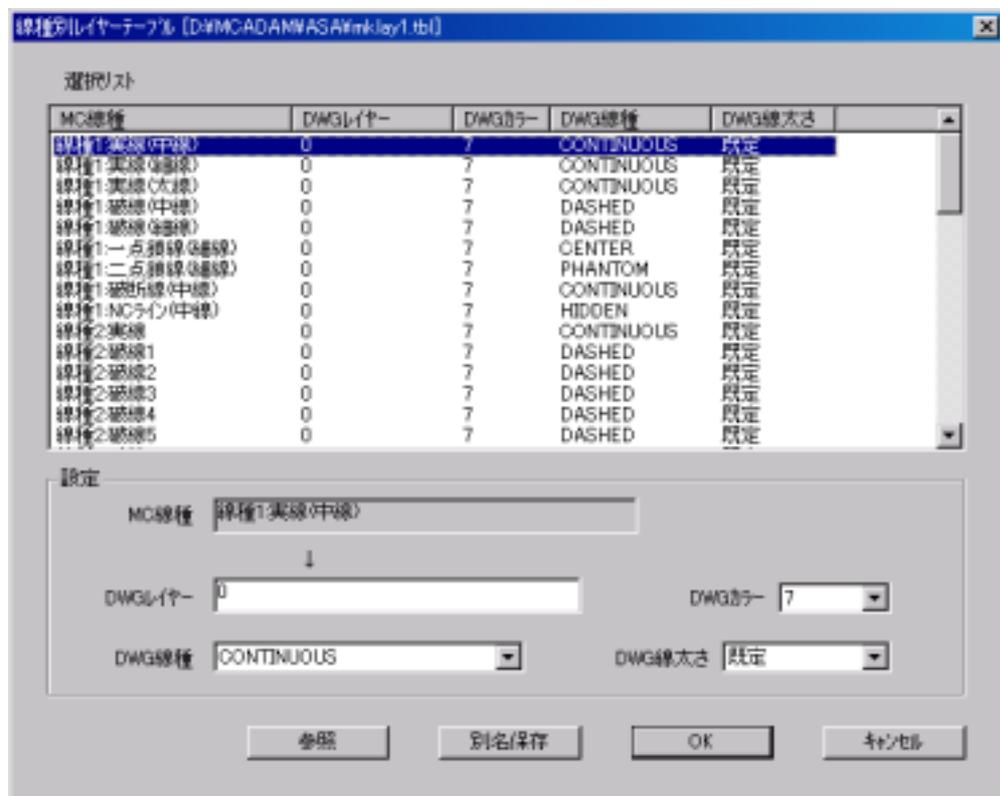
(3) 線種別レイヤーテーブル設定変更手順

メニューの【レイヤーテーブル】を選択し、【mklay1.tbl (線種別)】を選択します。

注) 線種別レイヤーテーブルの設定内容は、変換条件設定の『カラー・レイヤーテーブル』を線種別レイヤーテーブルにした場合のみ有効です。

a) MC 線種に対するレイヤー情報変更手順

変更したい MC 線種・MC 要素を選択リストから選択します。



DWG レイヤーの入力域を選択し、MC 線種・MC 要素に対応するレイヤー名をキー入力します。

DWG カラー、DWG 線種、DWG 線太さのプルダウンリストから、レイヤーに付加する情報を選択します。

保存する場合は、【OK】を押します。【キャンセル】を押した場合は、保存されません。

別の名前でも保存する場合は、【別名保存】を押し、任意のファイル名を設定します。保存されたファイルは、【参照】で呼び出すことができます。

線種別レイヤーテーブル設定内容の詳細は、8. 4) (2) c) 線種別レイヤーテーブルを参照してください。

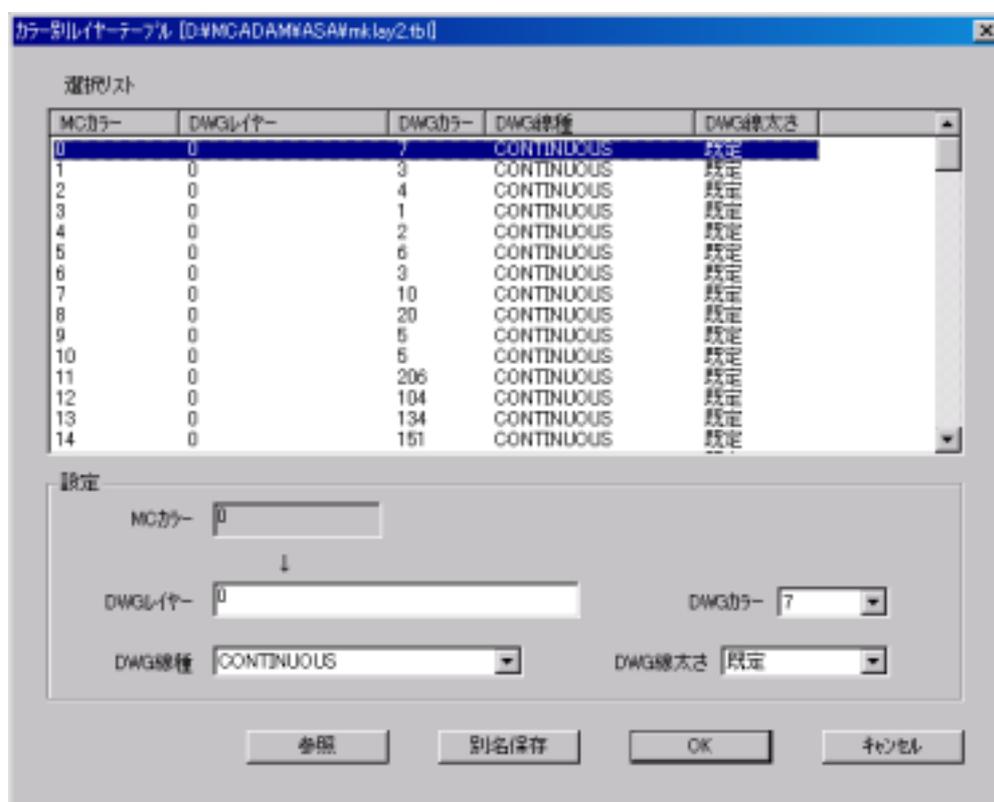
(4) カラー別レイヤーテーブル設定変更手順

メニューの【レイヤーテーブル】を選択し、【mklay2.tbl (カラー別)】を選択します。

注) カラー別レイヤーテーブルの設定内容は、変換条件設定の『カラー・レイヤーテーブル』をカラー別レイヤーテーブルにした場合のみ有効です。

a) MC カラーに対するレイヤー情報変更手順

変更したい MC カラーを選択リストから選択します。



DWG レイヤーの入力域を選択し、MC カラーに対応するレイヤー名をキー入力します。

DWG カラー、DWG 線種、DWG 線太さのプルダウンリストから、レイヤーに付加する情報を選択します。

保存する場合は、【OK】を押します。【キャンセル】を押した場合は、保存されません。

別の名前で保存する場合は、【別名保存】を押し、任意のファイル名を設定します。保存されたファイルは、【参照】で呼び出すことができます。

カラー別レイヤーテーブル設定内容の詳細は、8. 4) (2) d) カラー別レイヤーテーブルを参照してください。

4) オプション設定変更手順

(1) spcchr.tbl 設定変更手順

メニューの【オプション】を選択し、【spcchr.tbl】を選択します。
現在のデフォルトの spcchr.tbl 設定内容を表示します。

a) DWG 名の代替文字変更手順

変更したい代替文字を**選択リスト**から選択してください。



置換前の文字と置換後の文字の制御コードをキー入力してください。
保存する場合は、【登録】を押します。ただし、登録済みの場合は、この操作は無効です。
また、削除する場合は、【削除】を押します。

spcchr.tbl 設定内容の詳細は、8. 5) オプション設定項目事項を参照してください。

(2) mkcol.def 設定変更手順

メニューの【オプション】を選択し、【mkcol.def】を選択します。
現在のデフォルトの mkcol.def 設定内容を表示します。

注) mkcol.def の設定内容は、変換条件設定の『カラー・レイヤーテーブル』を未使用もしくはカラー別カラーテーブルにした場合のみ有効です。

a) カラー番号変更手順

変更したいカラー番号を選択リストから選択します。



DWG のカラー番号をプルダウンリストから選択してください。
保存する場合は、【登録】を押します。ただし、登録済みの場合は、この操作は無効です。
また、削除する場合は、【削除】を押します。

mkcol.def 設定内容の詳細は、8. 5) オプション設定項目事項を参照してください。

(3) mklin.def 設定変更手順

メニューの【オプション】を選択し、【mklin.def】を選択します。
現在のデフォルトの mklin.def 設定内容を表示します。

a) 線種変更手順

変更したい MC 線種を選択リストから選択します。



MC 線種に対応する DWG 線種をプルダウンリストから選択します。
保存する場合は、【OK】を押します。【キャンセル】を押した場合は、保存されません。

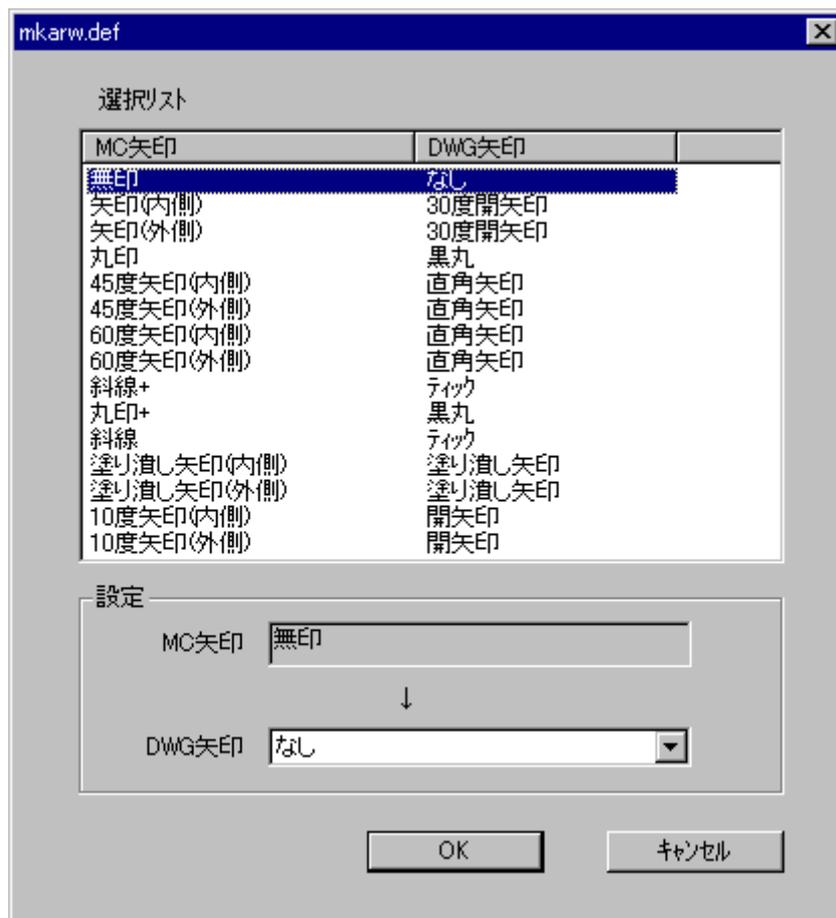
mklin.def 設定内容の詳細は、8. 5) オプション設定項目事項を参照してください。

(4) mkarw.def 設定変更手順

メニューの【オプション】を選択し、【mkarw.def】を選択します。
現在のデフォルトの mkarw.def 設定内容を表示します。

a) 矢印変更手順

変更したい MC 矢印を選択リストから選択します。



MC 矢印に対応する DWG 矢印をプルダウンリストから選択します。
保存する場合は、【OK】を押します。【キャンセル】を押した場合は、保存されません。

mkarw.def 設定内容の詳細は、8. 5) オプション設定項目事項を参照してください。

(5) mkdel.def 設定変更手順

メニューの【オプション】を選択し、【mkdel.def】を選択します。
現在のデフォルトの mkdel.def 設定内容を表示します。

a) 削除要素設定手順

変換時に削除したい MC 要素を選択リストから選択します。



DWG 出力のプルダウンリストから削除を選択します。

保存する場合は、【OK】を押します。【キャンセル】を押した場合は、保存されません。

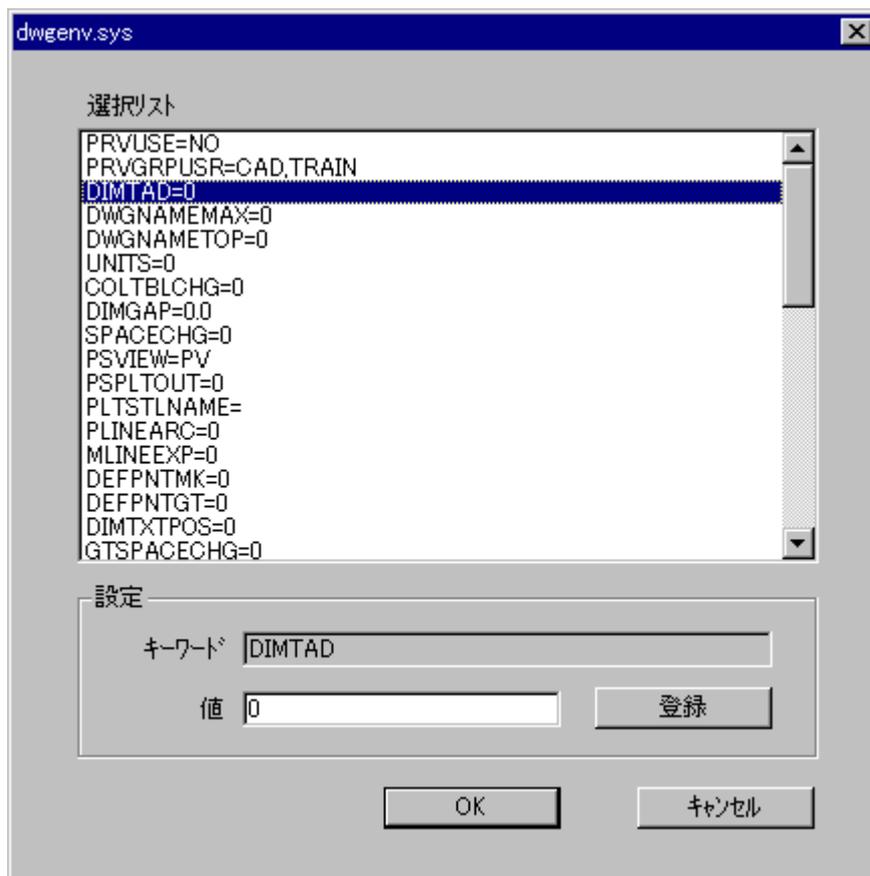
mkdel.def 設定内容の詳細は、8. 5) オプション設定項目事項を参照してください。

(6) dwgenv.sys 設定変更手順

メニューの【オプション】を選択し、【dwgenv.sys】を選択します。
現在のデフォルトの dwgenv.sys 設定内容を表示します。

a) 設定変更手順

変更したいキーワードを選択リストから選択します。



値の入力域を選択します。

キーワードに対応する値をキー入力して、【登録】を押します。

保存する場合は、【OK】を押します。【キャンセル】を押した場合は、保存されません。

dwgenv.sys 設定内容の詳細は、10.3) dwgenv.sys の設定を参照してください。

5) ペーパー空間設定変更手順

メニューの【オプション】を選択し、【ペーパー空間設定】を選択します。
現在のデフォルトのペーパー空間設定内容を表示します。

注) ペーパー空間設定は、オプションの『ペーパー空間サポート』を追加されている場合にご使用いただけます。



(1) ペーパー空間変更手順

ペーパー空間の要素として変換する場合は、【オン】を選択してください。
モデル空間の要素として変換する場合は、【オフ】を選択してください。

(2) ペーパー空間ビュー名変更手順

ペーパー空間の要素として変換するビュー名を設定します。
設定しているビューの要素は、モデル空間の要素として変換しません。
また、複数のビューを設定可能です。複数のビューを設定する場合は、カンマ(,)で区切ってください。

注) 図面に、プロットデータがある場合、プロットデータ内の要素は、ペーパー空間の要素として変換します。プロットデータ外の要素は、モデル空間の要素として変換します。

注) ビュー名を設定していない場合は、全てモデル空間の要素として変換します。

ペーパー空間設定内容の詳細は、10. 8) ペーパー空間設定についてを参照してください。

第Ⅲ部 バッチモード版

5. 環境設定ファイル

1) 実行前の準備

起動時に必要なファイルを以下に示します。

- ・ `dwgenv.sys` (環境設定ファイル)

(1) 環境設定ファイルの設定

a) ファイル概要

このファイルは、DWG えもん起動時に使用します。

b) ファイル設定内容

環境設定ファイルの1例を以下に示します。

PRVUSE=NO	-----	①
PRVGRPUSR=CAD, TRAIN	-----	②

(a) 設定内容(半角文字で設定します)

① PRVUSE=【プリビリッジのログイン処理】

プリビリッジのログイン処理について設定します。

値	説明
NO	プリビリッジのログイン処理をしない。
YES	プリビリッジのログイン処理をする。

注) 必ずファイルは左詰めで入力し、途中にスペースは入力しないでください。

1行に1項目のみ入力できます。

② PRVGRPUSR=【プリビリッジのグループ名、ユーザー名】

プリビリッジで登録したグループ、ユーザーを設定します。

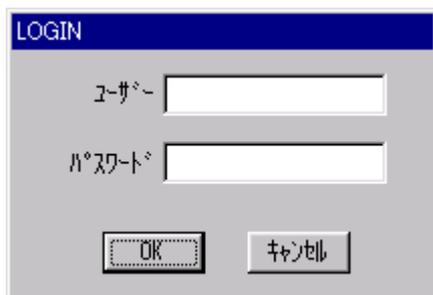
値	説明
グループ,ユーザー	設定したグループ,ユーザーでログイン処理をする。

注) プリビリッジのログイン処理をする場合のみ有効です。

6. DWG ⇒ 図面変換手順

1) 変換手順

Windows の【スタート】から【プログラム】【ASA GROUP】内の【DWG えもん バッチモード】を選択して実行します。

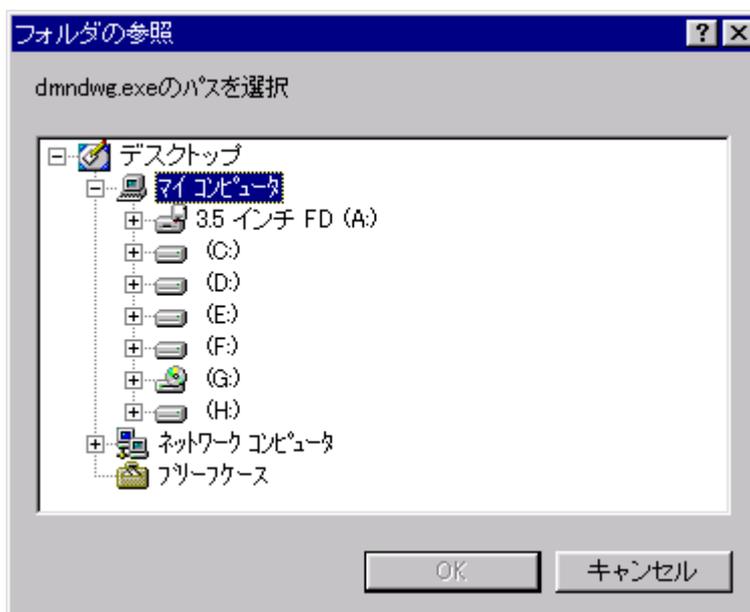


プリビレッジで登録したユーザーとパスワードをキー入力してください。

注) 環境設定ファイル(dwgenv.sys)のプリビレッジのログイン処理の設定が“YES”の場合のみ、上記の画面を表示しません。

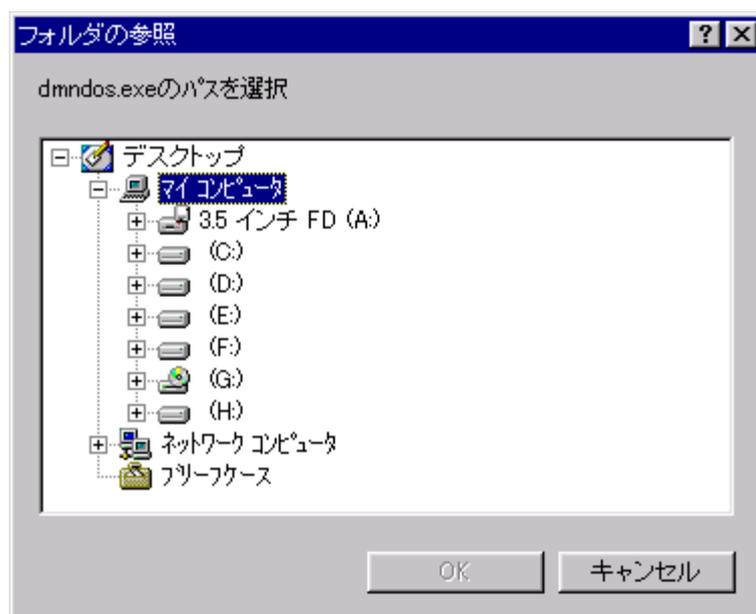
dmndwg.exe のパスを設定してください。

注) MC ベースモジュール導入先を設定してください。また、1つのマシンに2つ以上のMC ベースモジュールをインストールしている場合は、ご購入された DWG えもんが対応する MC のバージョンを確認したうえで設定してください。



dmndos.exe のパスを設定してください。

注) MC ベースモジュール導入先を設定してください。また、1つのマシンに2つ以上の MICRO CADAM をインストールしている場合は、ご購入された DWG えもんが対応する MC のバージョンを確認したうえで設定してください。



dmndwg.exe・dmndos.exe のパスを設定するだけでは、DWG えもんを起動するたびに**フォルダの参照画面**を表示します。

フォルダの参照画面を表示しないようにするには、dmndwg.exe・dmndos.exe のパスを設定した後に、次の動作で保存してください。

注) ただし、保存すると、**フォルダの参照画面**を表示しないので、パスの変更は手動^{注1)}になります。

保存手順：メニューの【**ファイル変換**】を選択し、【**DWG ⇒ DOS ファイル**】を選択します。さらに、メニューの【**設定メニュー**】を選択し、【**設定**】を選択し**設定画面**を表示してください。【**保存**】を押してください。
(DOS ファイル ➡ DWG 変換も同様)

注 1) パスの変更手順

DWG えもん導入ディレクトリー先の dwggtdos.sys をエディターで編集します。

設定内容(半角文字で設定します)
DMNPATH= 【dmndos.exe のパス】
dmndos.exe のパスを設定します。

DWG えもん導入ディレクトリー先の dwgmkdos.sys をエディターで編集します。

設定内容(半角文字で設定します)
DMNPATH= 【dmndwg.exe のパス】
dmndwg.exe のパスを設定します。

注) 必ずファイルは左詰めで入力し、途中にスペースは入力しないでください。

1 行に 1 項目のみ入力できます。



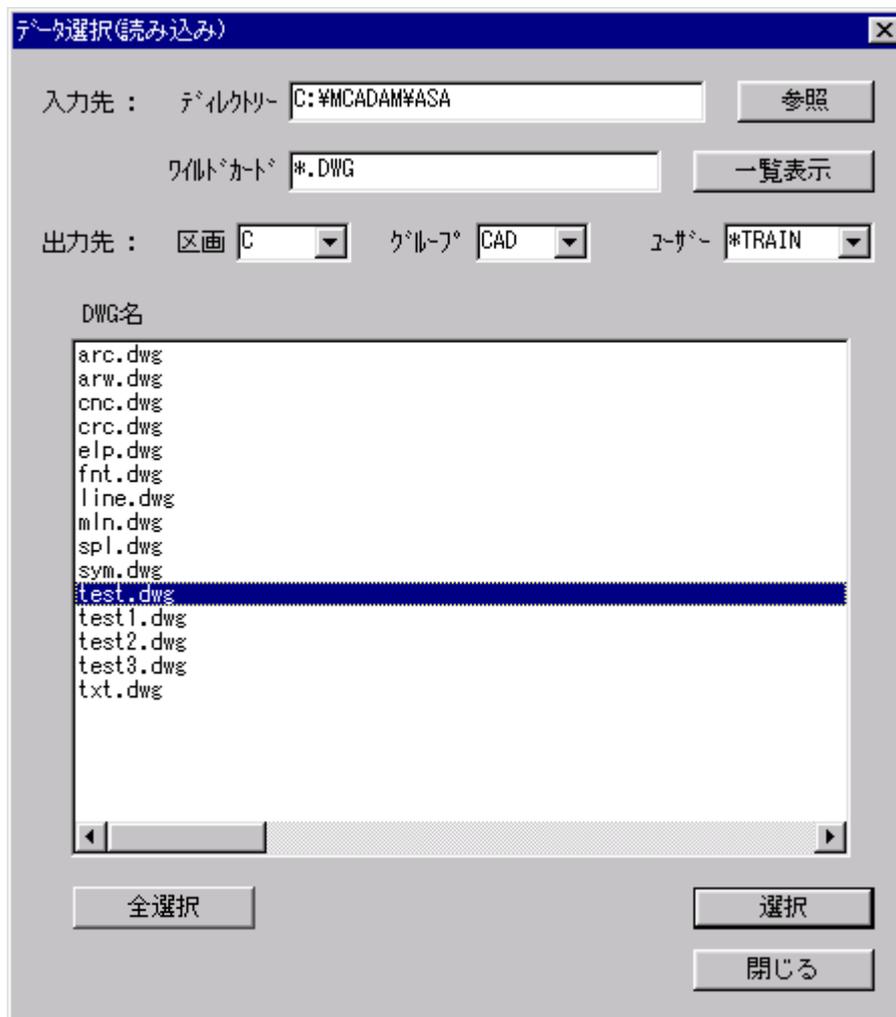
プロテクトをセットしていない場合、エラーメッセージを表示します。



メニューの【ファイル変換】を選択し、【DWG ⇒ MC 図面】を選択します。
待ち行列画面を表示した後、【データ表示】を押します。

注) DWG ⇒ OS ファイル変換の場合は、【DWG ⇒ OS ファイル】を選択します。

DWG ⇒ DOS ファイル変換の場合は、【DWG ⇒ DOS ファイル】を選択します。



注) DWG ⇒ OS ファイル変換の場合は、出力先“区画 グループ ユーザー”が“ディレクトリー”になります。

DWG ⇒ DOS ファイル変換の場合は、出力先“区画 グループ ユーザー”が“ディレクトリー”になります。

データ選択画面のリストボックスに、DWG の一覧を表示します。
リストボックスに表示したファイル一覧の中から、変換対象となる DWG を選択し、【選択】を押します。

Shift キーや Ctrl キーを押し、複数選択することも可能です。

リストボックスに表示したファイル全てを変換対象とする場合は、【全選択】を押します。

選択が終わったら、【閉じる】を押します。

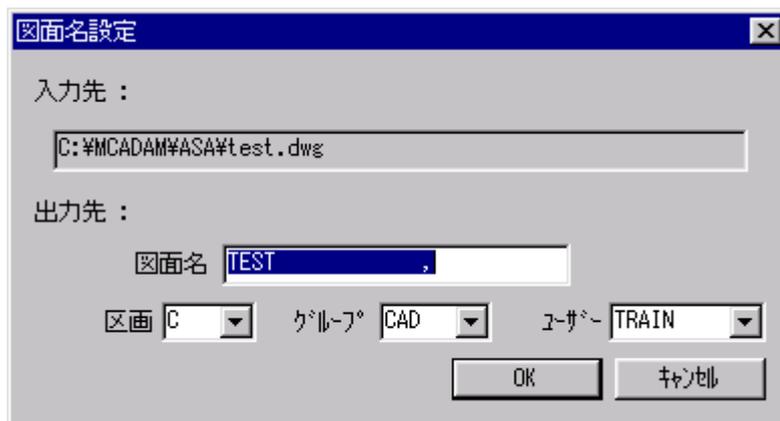


注) DWG ➡ OS ファイル変換の場合は、出力先 “C CAD TRAIN TEST” が “MCLOCAL:C:¥MCADAM¥CAD¥test” になります。

DWG ➡ DOS ファイル変換の場合は、出力先 “C CAD TRAIN TEST” が “C:¥test.dos” になります。

ここで、選択した DWG 名を変換後の図面名(デフォルト)として待ち行列画面に表示します。

図面名を変更する場合は、変換対象になっている DWG を選択します。



注) DWG ➔ OS ファイル変換の場合は、出力先“区画 グループ ユーザー”が“ディレクトリー”になります。

DWG ➔ DOS ファイル変換の場合は、出力先“区画 グループ ユーザー”が“ディレクトリー”に、“図面名”が“DOS 名”になります。

変換対象になっている DWG を選択すると、**図面名設定画面**を表示します。

図面名をキー入力した後、**[OK]** を押します。

[キャンセル] を押した場合は、変換対象から除外します。

注) DWG ➔ MC 図面変換の場合は、MC 図面名の区切り文字としてのカンマの最大数は 7 です。(分割可能なフィールドの最大数は 8)



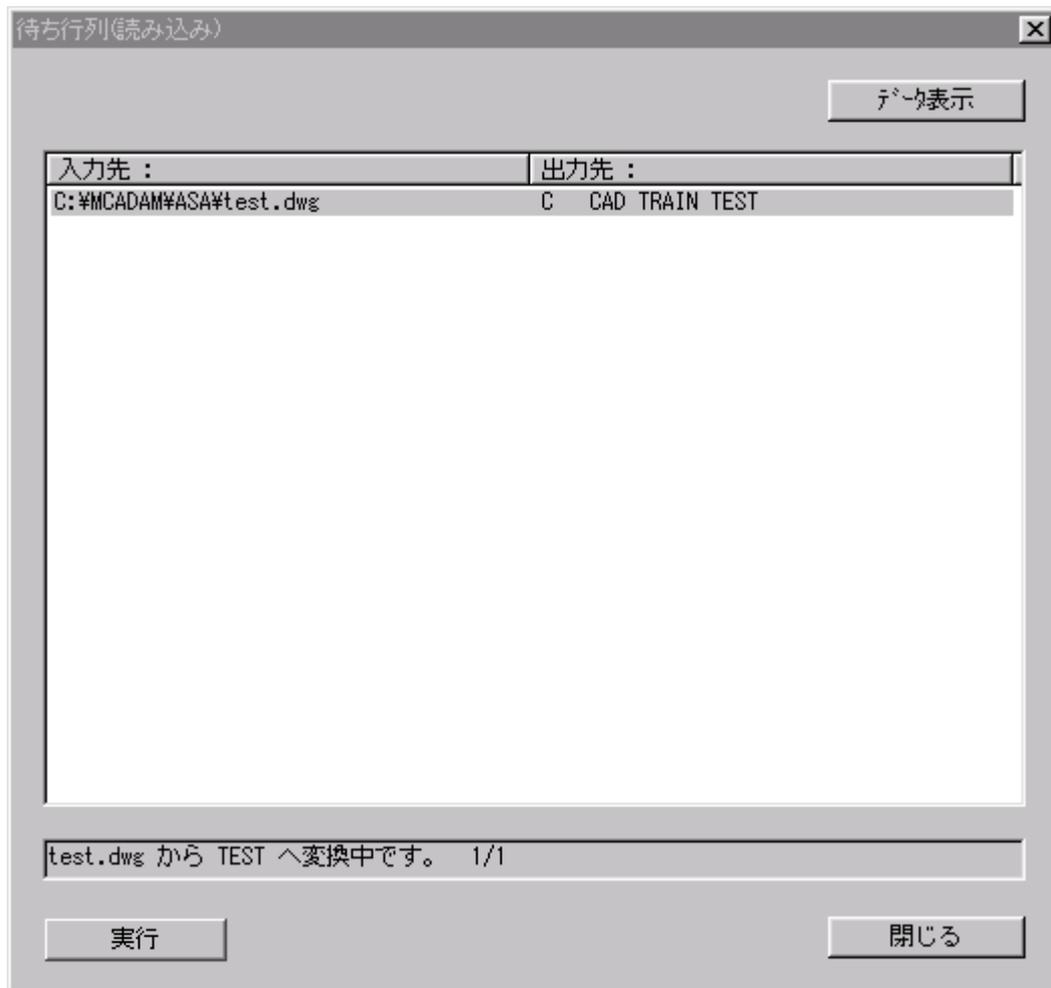
注) DWG ⇒ OS ファイル変換の場合は、出力先 “C CAD TRAIN TEST” が “MCLOCAL:C:\MCADAM\CAD\test” になります。

DWG ⇒ DOS ファイル変換の場合は、出力先 “C CAD TRAIN TEST” が “C:\test.dos” になります。

設定した図面名を、上記のように表示します。

注) 大文字・小文字の区別は、OS により異なります。

待ち行列画面の DWG を変換します。
変換処理は、【実行】を押すと開始します。
もしくは、メニューの【実行】より、【実行】を選択します。



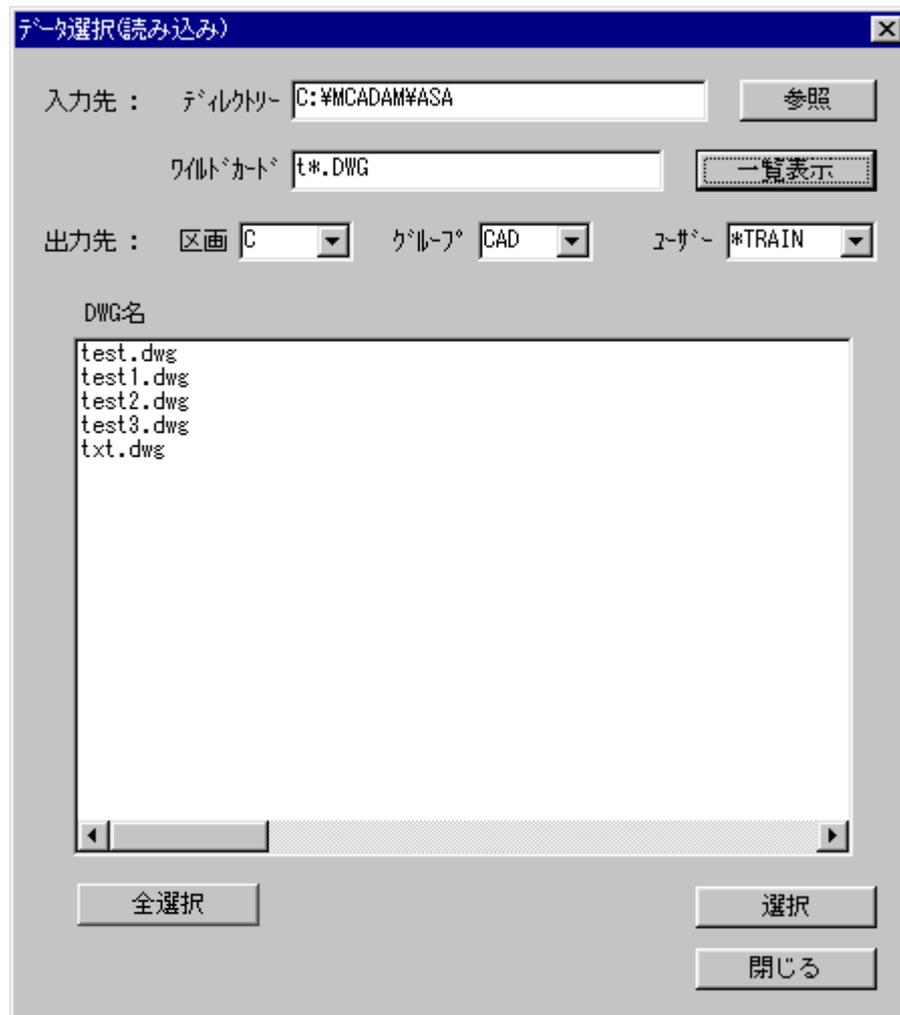
注) DWG ➔ OS ファイル変換の場合は、出力先 “C CAD TRAIN TEST” が “MCLOCAL:C:\MCADAM\CAD\test” になります。

DWG ➔ DOS ファイル変換の場合は、出力先 “C CAD TRAIN TEST” が “C:\test.dos” になります。

現在処理中の内容をリストボックスの下段、メッセージエリアに表示します。
変換処理が全て終了すると、6. 6) 結果確認手順で説明する**変換結果画面**を表示します。

(1) ワイルドカード検索手順

ワイルドカードをキー入力した後、**[一覧表示]** を押します。
リストボックス内に、該当する DWG 名を表示します。



注) DWG ⇒ OS ファイル変換の場合は、出力先“区画 グループ ユーザー”が“ディレクトリー”になります。
DWG ⇒ DOS ファイル変換の場合は、出力先“区画 グループ ユーザー”が“ディレクトリー”になります。

注) ワイルドカードの拡張子は、設定画面で設定した拡張子が自動的に入ります。

注) DXF ファイルを表示したい場合は、ワイルドカードの拡張子を DXF に変更してください。

(2) 一時的な設定変更



注) DWG ⇒ OS ファイル変換の場合は、出力先“区画 グループ ユーザー”が“ディレクトリー”になります。
 DWG ⇒ DOS ファイル変換の場合は、出力先“区画 グループ ユーザー”が“ディレクトリー”になります。

データ選択画面で、ディレクトリー・区画・グループ・ユーザーが変更できます。

ディレクトリー変更後は、**【一覧表示】**を押します。

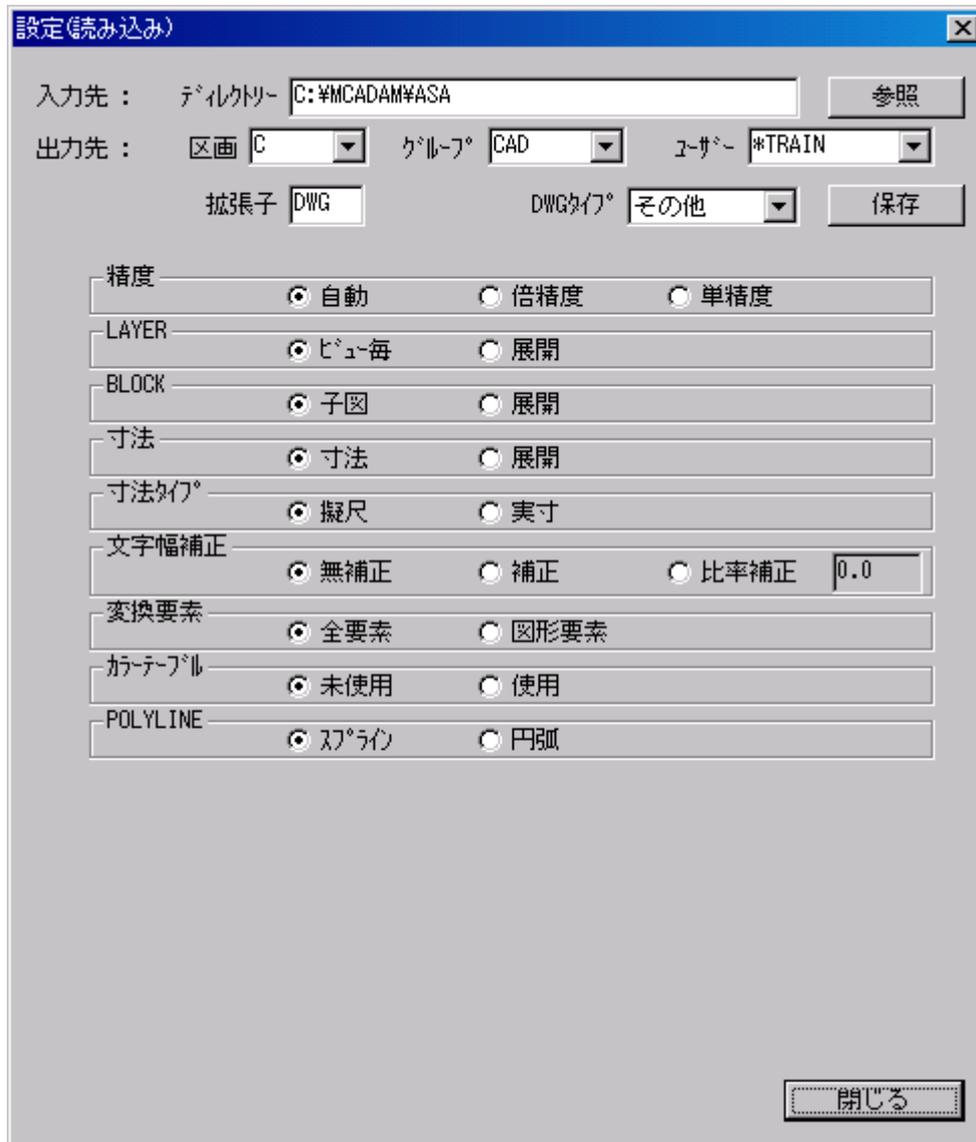
各項目の変更手順は、6. 2) 変換条件変更手順 (DWG ⇒ MC 図面変換) を参照してください。

注) DWG ⇒ OS ファイル変換の場合は、入力先ディレクトリーと出力先ディレクトリーが変更できます。
 DWG ⇒ DOS ファイル変換の場合は、入力先ディレクトリーと出力先ディレクトリーが変更できます。

2) 変換条件変更手順 (DWG ⇒ MC 図面変換)

メニューの【設定メニュー】を選択し、【設定】を選択します。

注) 先に、メニューの【ファイル変換】【DWG ⇒ MC 図面】の選択を行ってください。



ここで、現在のデフォルトの設定内容を上記のように表示します。

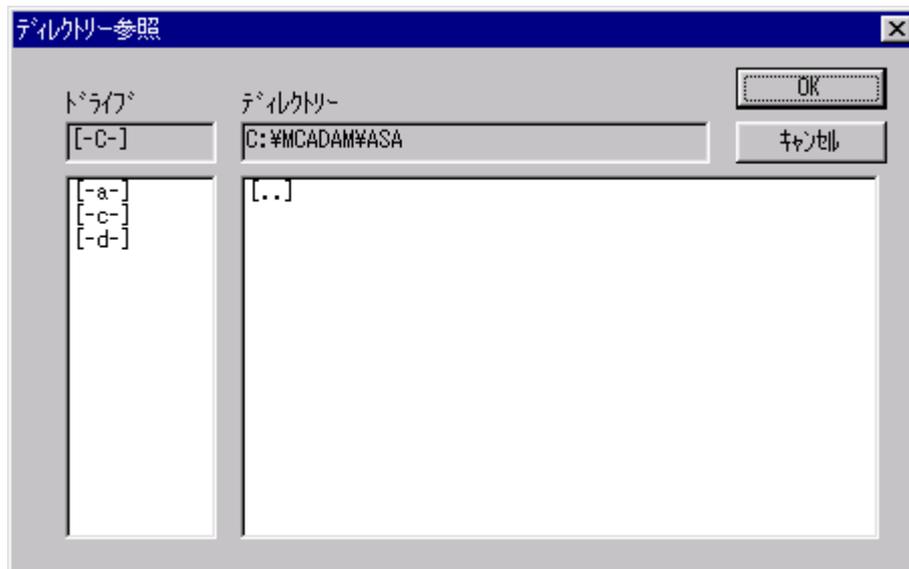
(1) デフォルトディレクトリー変更手順

ディレクトリーの**入力域**を選択します。



ディレクトリーをキー入力します。

または、**【参照】** を押します。



ここで、**ディレクトリー参照画面**を表示します。

変更したいドライブ、ディレクトリーを選択した後、**【OK】** を押します。

(2) デフォルト区画変更手順

区画のプルダウンリストを選択します。



ここで、変更したい区画を選択します。

注) ファイルサーバーによる仮想区画を使用している場合は、処理時間が多少長くなります。

(3) デフォルトグループ変更手順

グループのプルダウンリストを選択します。



ここで、変更したいグループを選択します。

(4) デフォルトユーザー変更手順

ユーザーのプルダウンリストを選択します。



ここで、変更したいユーザーを選択します。

注) MC 図面が存在するユーザー名の先頭に(*)を表示します。

(5) その他変更手順

設定内容の詳細は、8. 設定項目詳細説明を参照してください。

(6) 設定内容保存手順

【保存】を押します。



ここで、メッセージを表示します。

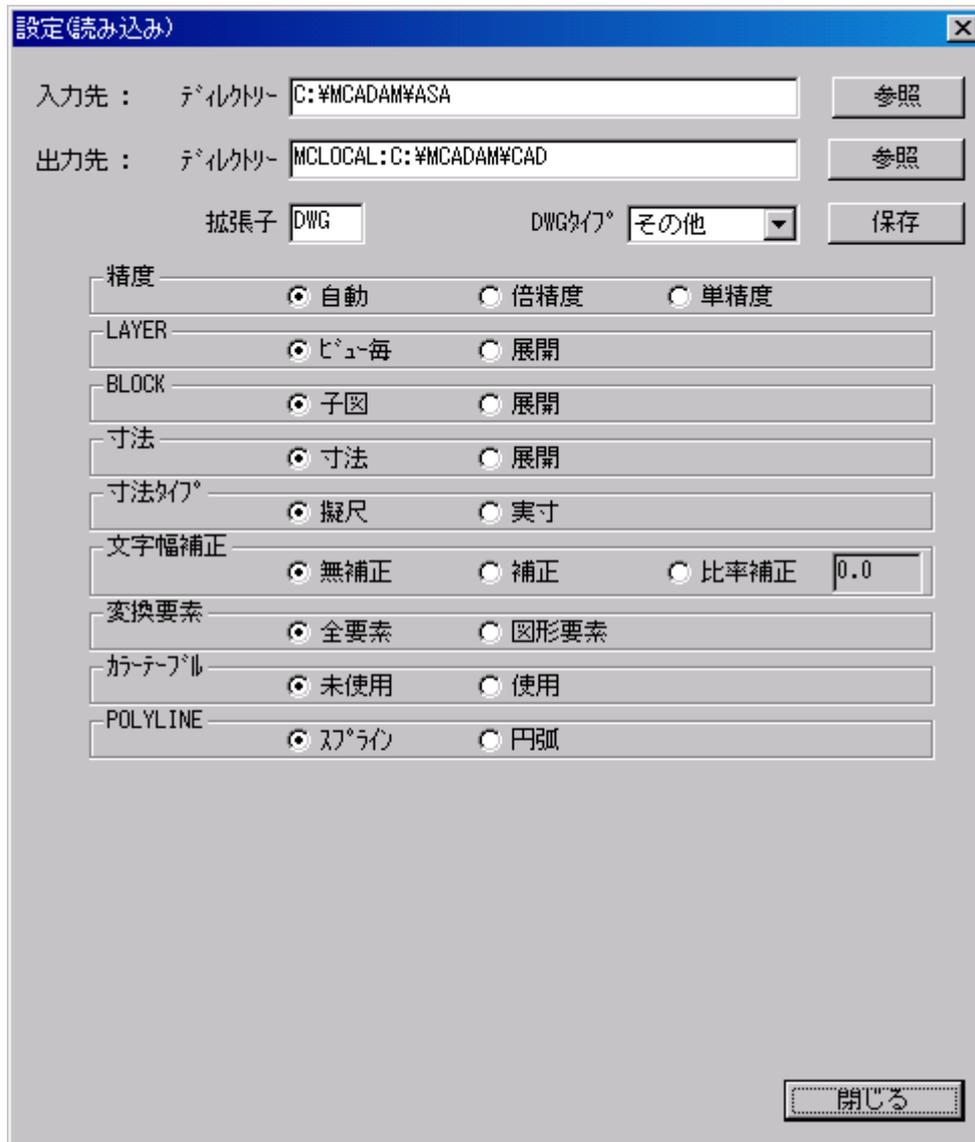
設定内容を保存すると、次回実行時の初期値になります。

注) メニューの【ファイル変換】の【DWG ⇒ MC 図面】を選択して、設定画面を表示している場合、【閉じる】を押すと、DWG ⇒ MC 図面変換の一時的な設定になります。DWG えもんが終了しない限り、一時的な設定は有効です。

3) 変換条件変更手順 (DWG ⇒ OS ファイル変換)

メニューの【設定メニュー】を選択し、【設定】を選択します。

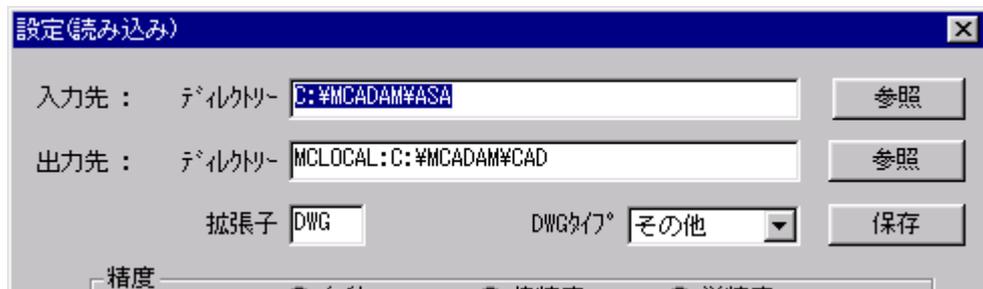
注) 先に、メニューの【ファイル変換】【DWG ⇒ OS ファイル】の選択を行ってください。



ここで、現在のデフォルトの設定内容を上記のように表示します。

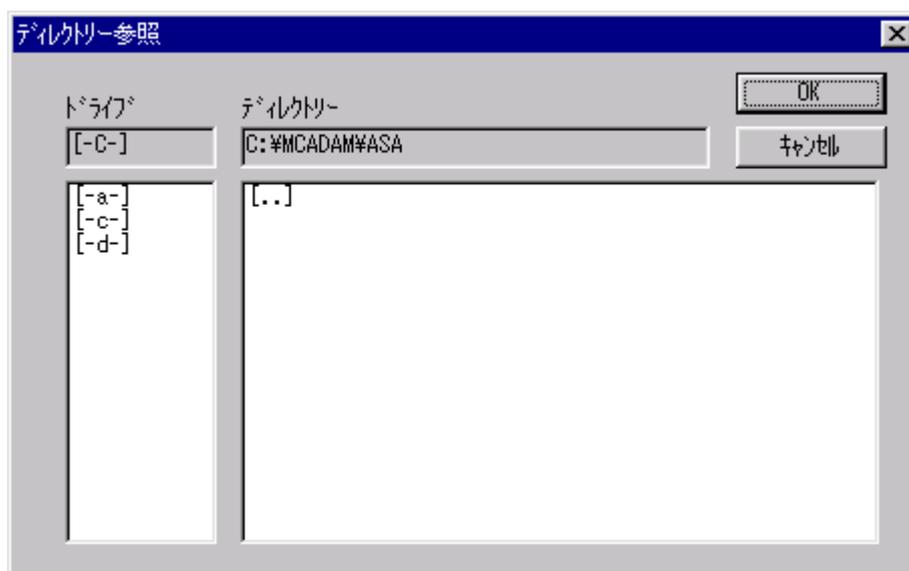
(1) デフォルト入力先ディレクトリー変更手順

ディレクトリーの**入力域**を選択します。



ディレクトリーをキー入力します。

または、**【参照】** を押します。

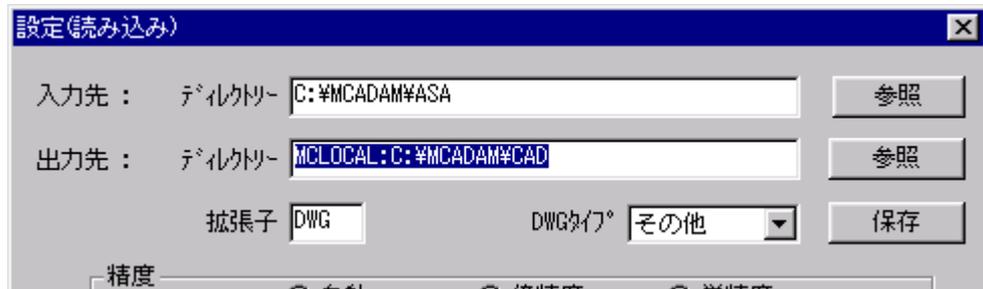


ここで、**ディレクトリー参照画面**を表示します。

変更したいドライブ、ディレクトリーを選択した後、**【OK】** を押します。

(2) デフォルト出力先ディレクトリー変更手順

ディレクトリーのを入力域を選択します。



ディレクトリーをキー入力します。

または、**【参照】** を押します。



ここで、**ディレクトリー参照画面**を表示します。

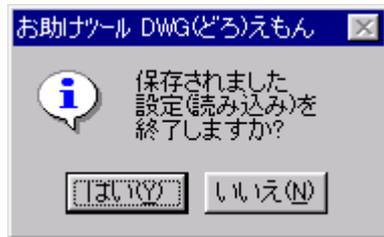
変更したいホスト，ドライブ，ディレクトリーを選択した後、**【OK】** を押します。

(3) その他変更手順

設定内容の詳細は、8. 設定項目詳細説明を参照してください。

(4) 設定内容保存手順

【保存】を押します。



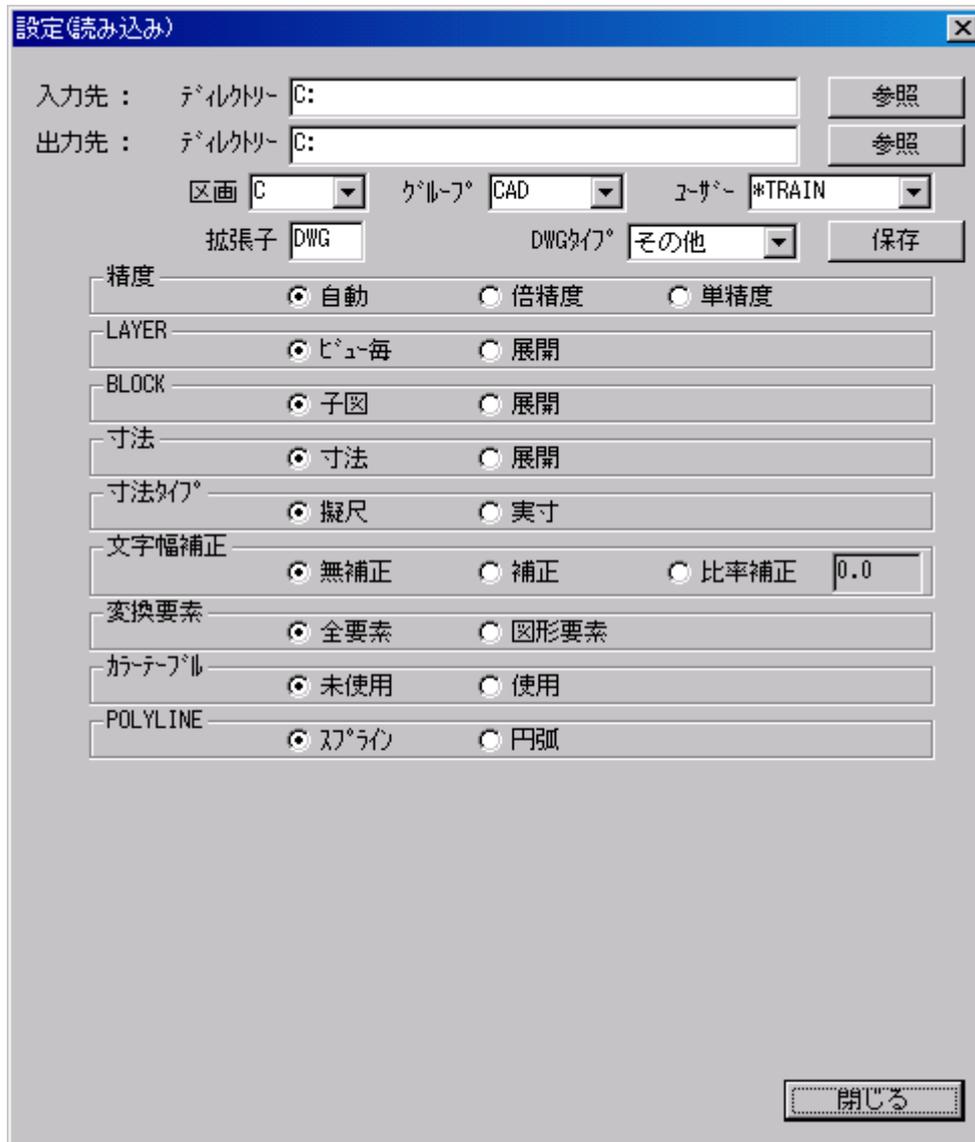
ここで、メッセージを表示します。
設定内容を保存すると、次回実行時の初期値になります。

注) メニューの【ファイル変換】の【DWG ⇒ OS ファイル】を選択して、設定画面を表示している場合、【閉じる】を押すと、DWG ⇄ OS ファイル変換の一時的な設定になります。DWG えもんが終了しない限り、一時的な設定は有効です。

4) 変換条件変更手順 (DWG ⇒ DOS ファイル変換)

メニューの【設定メニュー】を選択し、【設定】を選択します。

注) 先に、メニューの【ファイル変換】【DWG ⇒ DOS ファイル】の選択を行ってください。



ここで、現在のデフォルトの設定内容を上記のように表示します。

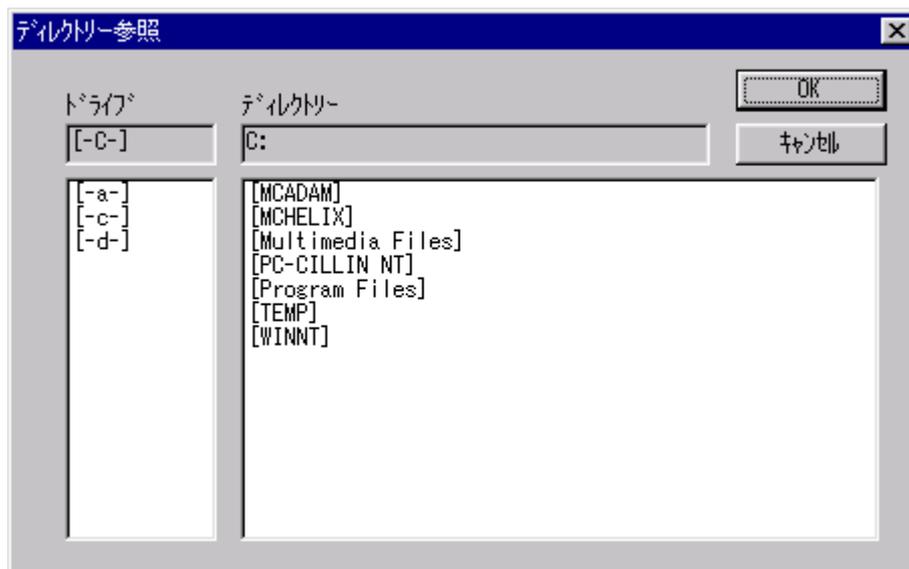
(1) デフォルトディレクトリー変更手順（入出力共通）

ディレクトリーの**入力域**を選択します。



ディレクトリーをキー入力します。

または、**[参照]** を押します。



ここで、**ディレクトリー参照画面**を表示します。

変更したいドライブ、ディレクトリーを選択した後、**[OK]** を押します。

(2) デフォルト区画変更手順

区画のプルダウンリストを選択します。



ここで、変更したい区画を選択します。

注) ファイルサーバーによる仮想区画を使用している場合は、処理時間が多少長くなります。

(3) デフォルトグループ変更手順

グループのプルダウンリストを選択します。



ここで、変更したいグループを選択します。

(4) デフォルトユーザー変更手順

ユーザーのプルダウンリストを選択します。



ここで、変更したいユーザーを選択します。

注) MC 図面が存在するユーザー名の先頭に(*)を表示します。

注) MC 図面が存在しない区画・グループ・ユーザーを設定してください。

(5) その他変更手順

設定内容の詳細は、8. 設定項目詳細説明を参照してください。

(6) 設定内容保存手順

【保存】を押します。



ここで、メッセージを表示します。
設定内容を保存すると、次回実行時の初期値になります。

注) メニューの【ファイル変換】の【DWG ⇒ DOS ファイル】を選択して、設定画面を表示している場合、【閉じる】を押すと、DWG ⇒ DOS ファイル変換の一時的な設定になります。DWG えもんが終了しない限り、一時的な設定は有効です。

5) カラーテーブル設定変更手順

メニューの【設定メニュー】を選択し、【カラーテーブル】を選択します。

注) カラーテーブルの設定内容は、変換条件設定の『カラーテーブル』を**使用**にした場合のみ有効です。



ここで、現在のデフォルトのカラーテーブル設定内容を上記のように表示します。

(1) カラー番号変更手順

太線・中線・細線の DWG カラーの**入力域**を選択します。
DWG のカラー番号をキー入力します。

カラーテーブル設定内容の詳細は、8. 4) (1) a) カラーテーブルを参照してください。

(2) カラーテーブル設定内容保存手順

保存する場合は、**[OK]** を押します。**[キャンセル]** を押した場合は、保存されません。

別の名前で保存する場合は、**[別名保存]** を押し、任意のファイル名を設定します。保存されたファイルは、**[参照]** で呼び出すことができます。

カラーテーブル設定内容を保存すると、次回実行時の初期値になります。

6) 結果確認手順

変換実行処理が終了すると、**変換結果画面**を表示します。また、メニューの【**結果**】を選択し、【**結果**】を選択した場合も、常時表示します。



結果表示の内容については、**9. エラーメッセージ説明**を参照してください。

7) オプション設定変更手順

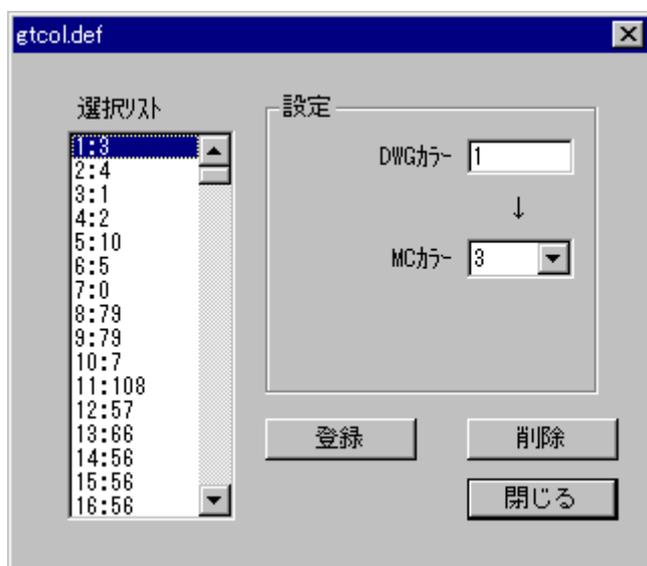
(1) gtcol.def 設定変更手順

メニューの【オプション】を選択し、【gtcol.def】を選択します。
現在のデフォルトの gtcol.def 設定内容を表示します。

注) gtcol.def の設定内容は、変換条件設定の『カラーテーブル』の設定に関係なく常時有効です。

a) カラー番号変更手順

変更したいカラー番号を**選択リスト**から選択します。



MC のカラー番号をプルダウンリストから選択してください。
保存する場合は、【登録】を押します。ただし、登録済みの場合は、この操作は無効です。
また、削除する場合は、【削除】を押します。

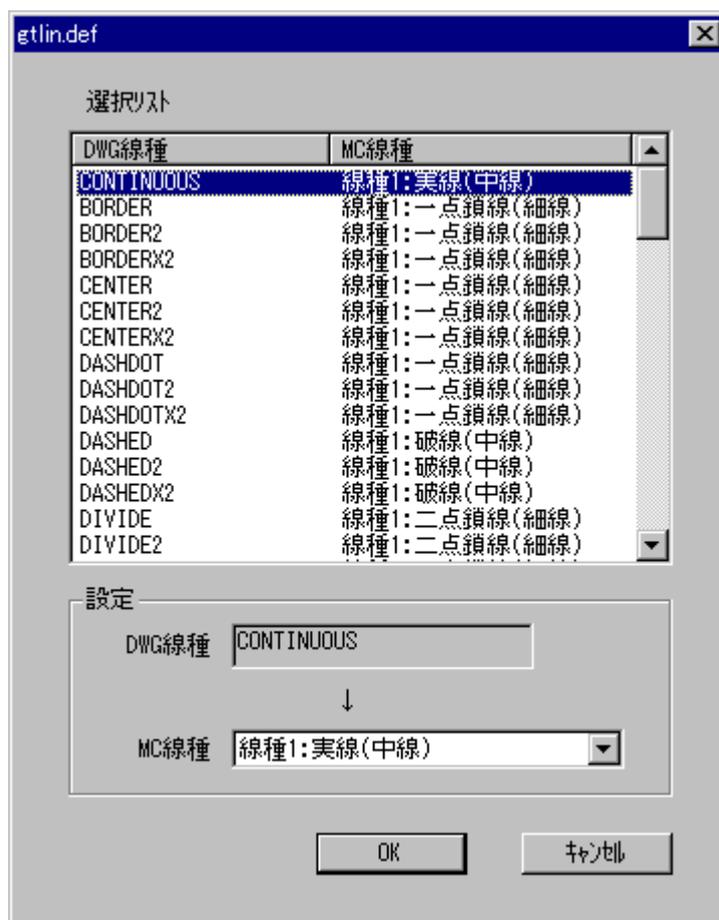
gtcol.def 設定内容の詳細は、8. 5) オプション設定項目事項を参照してください。

(2) gtlin.def 設定変更手順

メニューの【オプション】を選択し、【gtlin.def】を選択します。
現在のデフォルトの gtlin.def 設定内容を表示します。

a) 線種変更手順

変更したい DWG 線種を選択リストから選択します。



DWG 線種に対応する MC 線種をプルダウンリストから選択します。
保存する場合は、【OK】を押します。【キャンセル】を押した場合は、保存されません。

gtlin.def 設定内容の詳細は、8. 5) オプション設定項目事項を参照してください。

(3) gtarw.def 設定変更手順

メニューの【オプション】を選択し、【gtarw.def】を選択します。
現在のデフォルトの gtarw.def 設定内容を表示します。

a) 矢印変更手順

変更したい DWG 矢印を選択リストから選択します。



DWG 矢印に対応する MC 矢印をプルダウンリストから選択します。
保存する場合は、【OK】を押します。【キャンセル】を押した場合は、保存されません。

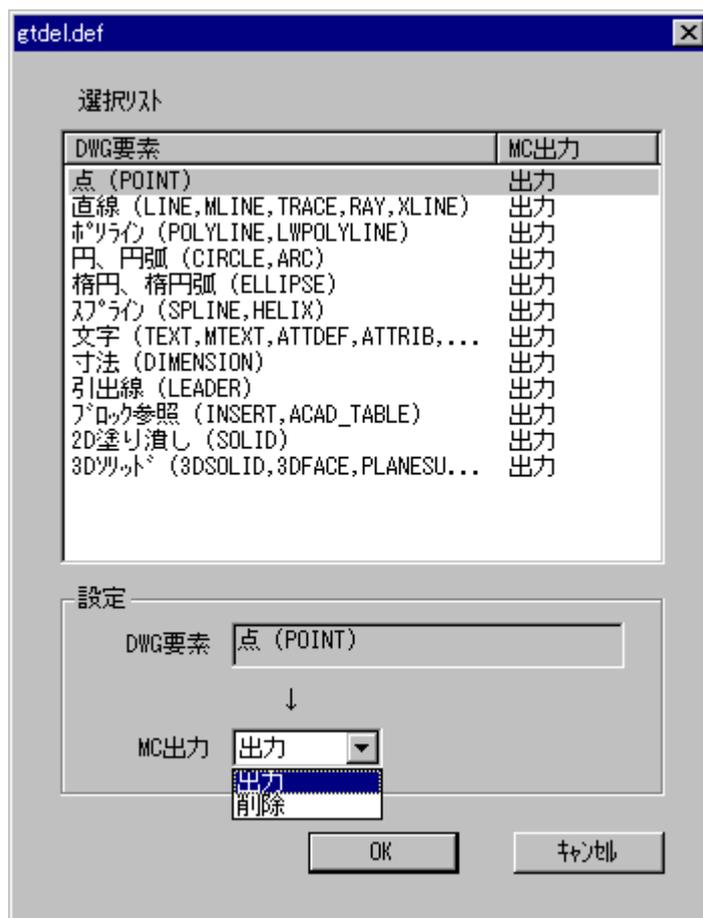
gtarw.def 設定内容の詳細は、8. 5) オプション設定項目事項を参照してください。

(4) gtdel.def 設定変更手順

メニューの【オプション】を選択し、【gtdel.def】を選択します。
現在のデフォルトの gtdel.def 設定内容を表示します。

a) 削除要素設定手順

変換時に削除したい DWG 要素を選択リストから選択します。



MC 出力のプルダウンリストから削除を選択します。

保存する場合は、【OK】を押します。【キャンセル】を押した場合は、保存されません。

gtdel.def 設定内容の詳細は、8. 5) オプション設定項目事項を参照してください。

(5) dwgenv.sys 設定変更手順

メニューの【オプション】を選択し、【dwgenv.sys】を選択します。
現在のデフォルトの dwgenv.sys 設定内容を表示します。

a) 設定変更手順

変更したいキーワードを選択リストから選択します。



値の入力域を選択します。

キーワードに対応する値をキー入力して、【登録】を押します。

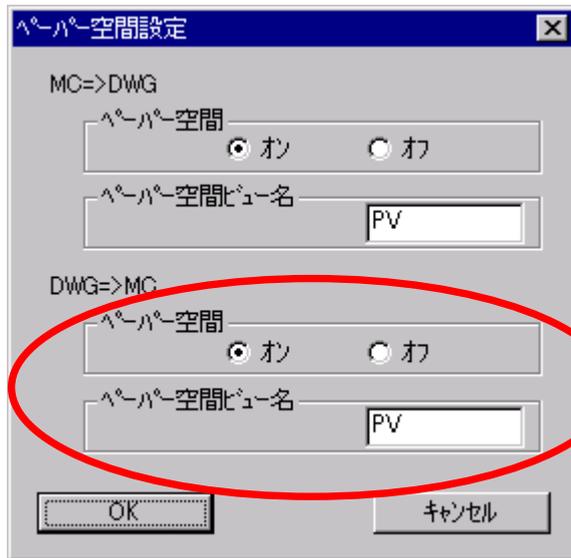
保存する場合は、【OK】を押します。【キャンセル】を押した場合は、保存されません。

dwgenv.sys 設定内容の詳細は、10.3) dwgenv.sys の設定を参照してください。

8) ペーパー空間設定変更手順

メニューの【オプション】を選択し、【ペーパー空間設定】を選択します。
現在のデフォルトのペーパー空間設定内容を表示します。

注) ペーパー空間設定は、オプションの『ペーパー空間サポート』を追加されている場合にご使用いただけます。



(1) ペーパー空間変更手順

ペーパー空間の見た目で変換する場合は、【オン】を選択してください。
モデル空間の見た目で変換する場合は、【オフ】を選択してください。

(2) ペーパー空間ビュー名変更手順

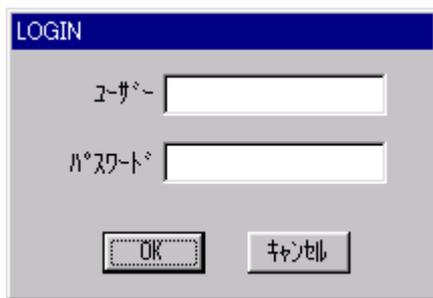
ペーパー空間の要素を、設定したビュー名に変換します。

ペーパー空間設定内容の詳細は、10. 8) ペーパー空間設定についてを参照してください。

7. 図面 ⇒ DWG 変換手順

1) 変換手順

Windows の【スタート】から【プログラム】【ASA GROUP】内の【DWG えもん バッチモード】を選択して実行します。



プリビレッジで登録したユーザーとパスワードをキー入力してください。

注) 環境設定ファイル(dwgen.sys)のプリビレッジのログイン処理の設定が“YES”の場合のみ、上記の画面を表示しません。

dmndwg.exe のパスを設定してください。

注) MC ベースモジュール導入先を設定してください。また、1つのマシンに2つ以上のMC ベースモジュールをインストールしている場合は、ご購入された DWG えもんが対応する MC のバージョンを確認したうえで設定してください。



dmndos.exe のパスを設定してください。

注) MC ベースモジュール導入先を設定してください。また、1つのマシンに2つ以上の MICRO CADAM をインストールしている場合は、ご購入された DWG えもんが対応する MC のバージョンを確認したうえで設定してください。



dmndwg.exe・dmndos.exe のパスを設定するだけでは、DWG えもんを起動するたびに**フォルダの参照画面**を表示します。

フォルダの参照画面を表示しないようにするには、dmndwg.exe・dmndos.exe のパスを設定した後に、次の動作で保存してください。

注) ただし、保存すると、**フォルダの参照画面**を表示しないので、パスの変更は手動^{注1)}になります。

保存手順：メニューの【**ファイル変換**】を選択し、【**DWG ⇒ DOS ファイル**】を選択します。さらに、メニューの【**設定メニュー**】を選択し、【**設定**】を選択し**設定画面**を表示してください。【**保存**】を押してください。
(DOS ファイル ➡ DWG 変換も同様)

注 1) パスの変更手順

DWG えもん導入ディレクトリー先の dwggtdos.sys をエディターで編集します。

設定内容(半角文字で設定します)
DMNPATH= 【dmndos.exe のパス】
dmndos.exe のパスを設定します。

DWG えもん導入ディレクトリー先の dwgmkdos.sys をエディターで編集します。

設定内容(半角文字で設定します)
DMNPATH= 【dmndwg.exe のパス】
dmndwg.exe のパスを設定します。

注) 必ずファイルは左詰めで入力し、途中にスペースは入力しないでください。

1 行に 1 項目のみ入力できます。



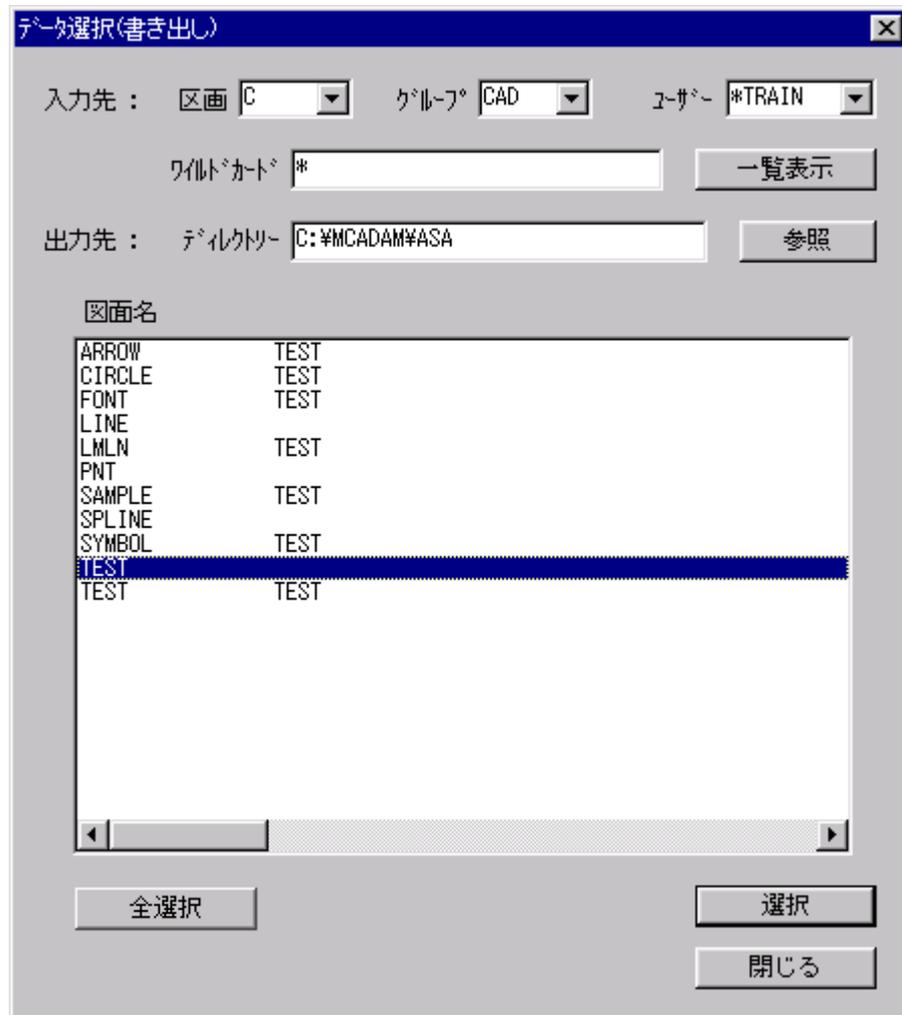
プロテクトをセットしていない場合、エラーメッセージを表示します。



メニューの【ファイル変換】を選択し、【MC 図面 ⇒ DWG】を選択します。
待ち行列画面を表示した後、【データ表示】を押します。

注) OS ファイル ➡ DWG 変換の場合は、【OS ファイル ⇒ DWG】を選択します。

DOS ファイル ➡ DWG 変換の場合は、【DOS ファイル ⇒ DWG】を選択します。



注) OS ファイル ➡ DWG 変換の場合は、入力先“区画 グループ ユーザー”が“ディレクトリー”になります。

DOS ファイル ➡ DWG 変換の場合は、入力先“区画 グループ ユーザー”が“ディレクトリー”に、ワイルドカード“*”が“*.DOS”になります。

データ選択画面のリストボックスに、図面の一覧を表示します。

リストボックスに表示した図面一覧の中から、変換対象となる図面を選択し、【**選択**】を押します。

Shift キーや Ctrl キーを押し、複数選択することも可能です。

リストボックスに表示した図面全てを変換対象とする場合は、【**全選択**】を押します。

選択が終わったら、【**閉じる**】を押します。



注) OS ファイル ➡ DWG 変換の場合は、入力先 “C CAD TRAIN TEST” が “MCLOCAL:C:\MCADAM\CAD\TEST” になります

DOS ファイル ➡ DWG 変換の場合は、入力先 “C CAD TRAIN TEST” が “C:\TEST.DOS” になります

ここで、選択した図面名を変換後の DWG 名(デフォルト)として待ち行列画面に表示します。

DWG 名を変更する場合は、変換対象になっている図面を選択します。

注) デフォルトの DWG 名は、spcchr.tbl の設定に依存します。詳細は、8. 5) (2) e) spcchr.tbl を参照してください。

注) 変換後のデフォルトファイルを DXF ファイルに変更したい場合、【設定メニュー】の拡張子を DXF に変更します。



注) OS ファイル ▶ DWG 変換の場合は、入力先 “C CAD TRAIN TEST” が “MCLOCAL:C:\%MCADAM%\CAD\%TEST” になります。

DOS ファイル ▶ DWG 変換の場合は、入力先 “C CAD TRAIN TEST” が “C:\%TEST.DOS” に、出力先 DWG 名 “TEST.DWG” が “*.DWG” になります。

変換対象になっている図面を選択すると、**DWG 名設定画面**を表示します。

DWG 名をキー入力した後、**[OK]** を押します。

[キャンセル] を押した場合は、変換対象から除外します。

注) 入力できる DWG 名は、ピリオド(.), 拡張子を含め 32 桁までです。

注) ファイル名の拡張子を DXF に変更すると、DXF ファイルとして変換します。



注) OS ファイル ➡ DWG 変換の場合は、入力先 “C CAD TRAIN TEST” が “MCLOCAL:C:\MCADAM\CAD\TEST” になります。

DOS ファイル ➡ DWG 変換の場合は、入力先 “C CAD TRAIN TEST” が “C:\TEST.DOS” に、出力先 “C:\MCADAM\ASA\TEST.DWG” が “C:*.DWG” になります。

設定した DWG 名を、上記のように表示します。

注) 大文字・小文字の区別は、OS により異なります。

UNIX のディスクを nfs マウントしている場合、そのドライブのファイルに対して、大文字・小文字の区別をします。

待ち行列画面の図面を変換します。
変換処理は、【実行】を押すと開始します。
もしくは、メニューの【実行】より、【実行】を選択します。



注) OS ファイル ➡ DWG 変換の場合は、入力先 “C CAD TRAIN TEST” が “MCLOCAL:C:¥MCADAM¥CAD¥TEST” になります。

DOS ファイル ➡ DWG 変換の場合は、入力先 “C CAD TRAIN TEST” が “C:¥TEST.DOS” に、出力先 “C:¥MCADAM¥ASA¥TEST.DWG” が “C:¥*.DWG” になります。

現在処理中の内容をリストボックスの下段、メッセージエリアに表示します。
変換処理が全て終了すると、7. 6) 結果確認手順で説明する**変換結果画面**を表示します。

(1) ワイルドカード検索手順

ワイルドカードをキー入力した後、**【一覧表示】** を押します。
リストボックス内に、該当する図面名を表示します。



注) OS ファイル ⇒ DWG 変換の場合は、入力先“区画 グループ ユーザー”が“ディレクトリー”になります。

DOS ファイル ⇒ DWG 変換の場合は、入力先“区画 グループ ユーザー”が“ディレクトリー”になります。

注) MC 図面 ⇒ DWG 変換の場合、ワイルドカードのフォーマットは、MC Helix のプリビレッジに登録した形式で、必ず区切り文字のカンマ(,)の数を合わせて入れてください。

(2) 一時的な設定変更



注) OS ファイル ⇒ DWG 変換の場合は、入力先“区画 グループ ユーザー”が“ディレクトリー”になります。
 DOS ファイル ⇒ DWG 変換の場合は、入力先“区画 グループ ユーザー”が“ディレクトリー”になります。

データ選択画面で、区画・グループ・ユーザー・ディレクトリーが変更できます。

区画・グループ・ユーザー変更後は、【一覧表示】を押します。
 各項目の変更手順は、7. 2) 変換条件変更手順 (MC 図面 ⇒ DWG 変換) を参照してください。

注) OS ファイル ⇒ DWG 変換の場合は、入力先ディレクトリーと出力先ディレクトリーが変更できます。
 DOS ファイル ⇒ DWG 変換の場合は、入力先ディレクトリーと出力先ディレクトリーが変更できます。

2) 変換条件変更手順 (MC 図面 ⇒ DWG 変換)

メニューの【設定メニュー】を選択し、【設定】を選択します。

注) 先に、メニューの【ファイル変換】【MC 図面 ⇒ DWG】の選択を行ってください。

設定(書き出し)

入力先: 区画 C フォーマット CAD ユーザー #TRAIN

出力先: ファイル名 C:\MCADAM\ASA 拡張子 DWG DWGタイプ 2000

子図名デフォルト KOZU0001 使用フォント名 txt,BIGFONT

精度 自動 倍精度 単精度

ビュースケール 1/1 ビュー

ビュー LAYER 無効

子図 BLOCK 展開

日本語 出力 削除 置換

寸法 寸法 展開

寸法タイプ 擬尺 実寸

シンボル BLOCK 展開

部品 BLOCK 展開

NCライン 出力 削除

1/1寸法 1/1寸法 2/1寸法 2/1寸法特殊寸法

2/1寸法 2/1寸法 2/1寸法特殊寸法

文字幅補正 無補正 補正 比率補正 0.0

変換要素 全要素 図形要素

カラーテーブル 未使用 線種別カラーテーブル カラー別カラーテーブル 線種別レイヤテーブル カラー別レイヤテーブル

オーバーレイ LAYER 展開

閉じる

ここで、現在のデフォルトの設定内容を上記のように表示します。

(1) デフォルト区画変更手順

区画のプルダウンリストを選択します。
DWG ➡ MC 図面変換と同様に一覧リストを表示します。

ここで、変更したい区画を選択します。

注) ファイルサーバーによる仮想区画を使用している場合は、処理時間が多少長くなります。

(2) デフォルトグループ変更手順

グループのプルダウンリストを選択します。
DWG ➡ MC 図面変換と同様に一覧リストを表示します。

ここで、変更したいグループを選択します。

(3) デフォルトユーザー変更手順

ユーザーのプルダウンリストを選択します。
DWG ➡ MC 図面変換と同様に一覧リストを表示します。

ここで、変更したいユーザーを選択します。

(4) デフォルトディレクトリー変更手順

ディレクトリーの入力域を選択します。

ここで、ディレクトリーをキー入力します。

または、**[参照]** を押します。
DWG ➡ MC 図面変換と同様に**ディレクトリー参照画面**を表示します。

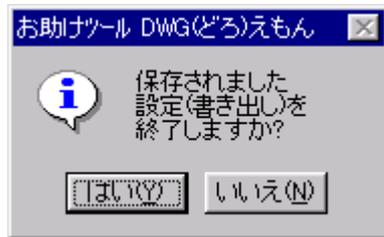
ここで、変更したいドライブ、ディレクトリーを選択します。

(5) その他変更手順

設定内容の詳細は、8. 設定項目詳細説明を参照してください。

(6) 設定内容保存手順

【保存】を押します。



ここで、メッセージを表示します。
設定内容を保存すると、次回実行時の初期値になります。

注) メニューの【ファイル変換】の【MC 図面 ⇒ DWG】を選択して、設定画面を表示している場合、【閉じる】を押すと、MC 図面 ⇒ DWG 変換の一時的な設定になります。DWG えもんが終了しない限り、一時的な設定は有効です。

3) 変換条件変更手順 (OS ファイル ⇒ DWG 変換)

メニューの【設定メニュー】を選択し、【設定】を選択します。

注) 先に、メニューの【ファイル変換】【OS ファイル ⇒ DWG】の選択を行ってください。

設定(書き出し)

入力先: ディレクトリ MCLOCAL:C:¥MCADAM¥CAD 参照

出力先: ディレクトリ C:¥MCADAM¥ASA 参照

拡張子 DWG DWGタイプ 2000 保存

子図名デフォルト KOZU0001 使用フォント名 txt,BIGFONT

精度 自動 倍精度 単精度

ビュースケール 1/1 ビュー

ビュー LAYER 無効

子図 BLOCK 展開

日本語 出力 削除 置換

寸法 寸法 展開

寸法タイプ 擬尺 実寸

シンボル BLOCK 展開

部品 BLOCK 展開

NCライ 出力 削除

1/1° 付加 1/1° 付加 2/1° 付加 2/1° 付特殊付

2/1° 付加 2/1° 付加 2/1° 付特殊付

文字幅補正 無補正 補正 比率補正 0.0

変換要素 全要素 図形要素

カラー・レイヤーテーブル 未使用 線種別カラーテーブル カラー別カラーテーブル 線種別レイヤーテーブル カラー別レイヤーテーブル

オーバーレイ LAYER 展開

閉じる

ここで、現在のデフォルトの設定内容を上記のように表示します。

(1) デフォルト入力先ディレクトリー変更手順

ディレクトリーの入力域を選択します。

ここで、ディレクトリーをキー入力します。

または、**【参照】** を押します。

DWG ➡ OS ファイル変換と同様に**ディレクトリー参照画面**を表示します。

ここで、変更したいホスト，ドライブ，ディレクトリーを選択します。

(2) デフォルト出力先ディレクトリー変更手順

ディレクトリーの入力域を選択します。

ここで、ディレクトリーをキー入力します。

または、**【参照】** を押します。

DWG ➡ OS ファイル変換と同様に**ディレクトリー参照画面**を表示します。

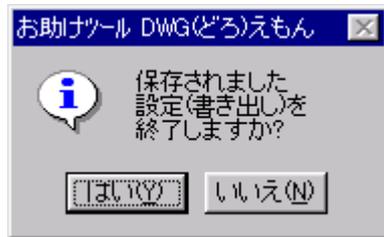
ここで、変更したいドライブ，ディレクトリーを選択します。

(3) その他変更手順

設定内容の詳細は、8. 設定項目詳細説明を参照してください。

(4) 設定内容保存手順

【保存】を押します。



ここで、メッセージを表示します。
設定内容を保存すると、次回実行時の初期値になります。

注) メニューの【ファイル変換】の【OS ファイル ⇒ DWG】を選択して、設定画面を表示している場合、【閉じる】を押すと、OS ファイル ⇨ DWG 変換の一時的な設定になります。DWG えもんが終了しない限り、一時的な設定は有効です。

4) 変換条件変更手順 (DOS ファイル ⇒ DWG 変換)

メニューの【設定メニュー】を選択し、【設定】を選択します。

注) 先に、メニューの【ファイル変換】【DOS ファイル ⇒ DWG】の選択を行ってください。

設定(書き出し)

入力先: ディレクトリ C: 参照

区画 C カールフ CAD ユーザー #TRAIN

出力先: ディレクトリ C: 参照

拡張子 DOS DWGタイプ 2000 保存

子図名デフォルト KOZU0001 使用フォント名 txt, BIGFONT

精度 自動 倍精度 単精度

ビュースケール 1/1 ビュー

ビュー LAYER 無効

子図 BLOCK 展開

日本語 出力 削除 置換

寸法 寸法 展開

寸法タイプ 擬尺 実寸

シンボル BLOCK 展開

部品 BLOCK 展開

NCライ 出力 削除

1/1 寸法 1/1 寸法 2/1 寸法 2/1 寸法特殊

2/1 寸法 2/1 寸法 2/1 寸法特殊

文字幅補正 無補正 補正 比率補正 0.0

変換要素 全要素 図形要素

カラーテーブル 未使用 線種別カラーテーブル カラー別カラーテーブル 線種別レイヤテーブル カラー別レイヤテーブル

オーバーレイ LAYER 展開

閉じる

ここで、現在のデフォルトの設定内容を上記のように表示します。

(1) デフォルトディレクトリー変更手順（入出力共通）

ディレクトリーの入力域を選択します。

ここで、ディレクトリーをキー入力します。

または、**【参照】** を押します。

DWG ➡ DOS ファイル変換と同様に**ディレクトリー参照画面**を表示します。

ここで、変更したいドライブ、ディレクトリーを選択します。

(2) デフォルト区画変更手順

区画のプルダウンリストを選択します。

DWG ➡ DOS ファイル変換と同様に一覧リストを表示します。

ここで、変更したい区画を選択します。

注) ファイルサーバーによる仮想区画を使用している場合は、処理時間が多少長くかかります。

(3) デフォルトグループ変更手順

グループのプルダウンリストを選択します。

DWG ➡ DOS ファイル変換と同様に一覧リストを表示します。

ここで、変更したいグループを選択します。

(4) デフォルトユーザー変更手順

ユーザーのプルダウンリストを選択します。

DWG ➡ DOS ファイル変換と同様に一覧リストを表示します。

ここで、変更したいユーザーを選択します。

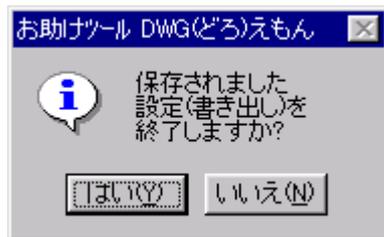
注) MC 図面が存在しない区画・グループ・ユーザーを設定してください。

(5) その他変更手順

設定内容の詳細は、8. 設定項目詳細説明を参照してください。

(6) 設定内容保存手順

【保存】を押します。



ここで、メッセージを表示します。

設定内容を保存すると、次回実行時の初期値になります。

注) メニューの【ファイル変換】の【DOS ファイル ⇒ DWG】を選択して、設定画面を表示している場合、【閉じる】を押すと、DOS ファイル ⇨ DWG 変換の一時的な設定になります。DWG えもんが終了しない限り、一時的な設定は有効です。

5) カラー・レイヤーテーブル設定変更手順

(1) 線種別カラーテーブル設定変更手順

メニューの【設定メニュー】を選択し、【カラーテーブル】【線種別】を選択します。

注) 線種別カラーテーブルの設定内容は、変換条件設定の『カラー・レイヤーテーブル』を線種別カラーテーブルにした場合のみ有効です。

線種	DWGカラー	DWGレイヤ
実線(太線)	1	LAYER001
実線(中線)	2	LAYER002
実線(細線)	3	LAYER003
破線(中線)	4	LAYER004
破線(細線)	5	LAYER005
一点鎖線	6	LAYER006
二点鎖線	7	LAYER007
NCライン	8	LAYER008
破断線	9	LAYER009
注記	10	LAYER010
寸法	11	LAYER011

Buttons: 参照, 別名保存, OK, キャンセル

ここで、現在のデフォルトの線種別カラーテーブル設定内容を上記のように表示します。

注) 線種別カラーテーブルを使用する場合、変換条件設定の『ビュー』を無効に指定すると、線種別カラーテーブルのレイヤー名で出力します。

a) MC 線種に対する DWG カラー変更手順

各 MC 線種・注記・寸法の DWG カラーの**入力域**を選択します。
DWG のカラー番号をキー入力します。

b) MC 線種に対する DWG レイヤー変更手順

各 MC 線種・注記・寸法の DWG レイヤーの**入力域**を選択します。
レイヤー名をキー入力します。

線種別カラーテーブル設定内容の詳細は、8. 4) (2) a) 線種別カラーテーブルを参照してください。

c) 設定内容保存手順

保存する場合は、**[OK]** を押します。**[キャンセル]** を押した場合は、保存されません。

別の名前で保存する場合は、**[別名保存]** を押し、任意のファイル名を設定します。保存されたファイルは、**[参照]** で呼び出すことができます。

線種別カラーテーブル設定内容を保存すると、次回実行時の初期値になります。

(2) カラー別カラーテーブル設定変更手順

メニューの【設定メニュー】を選択し、【カラーテーブル】【カラー別】を選択します。

注) カラー別カラーテーブルの設定内容は、変換条件設定の『カラー・レイヤーテーブル』をカラー別カラーテーブルにした場合のみ有効です。

a) MC カラーに対する DWG レイヤー変更手順

変更したい MC カラーを選択リストから選択します。



DWG レイヤーの入力域を選択します。
MC カラーに対応するレイヤー名をキー入力します。

保存する場合は、【OK】を押します。【キャンセル】を押した場合は、保存されません。

別の名前でも保存する場合は、【別名保存】を押し、任意のファイル名を設定します。保存されたファイルは、【参照】で呼び出すことができます。

カラー別カラーテーブル設定内容の詳細は、8. 4) (2) b) カラー別カラーテーブルを参照してください。

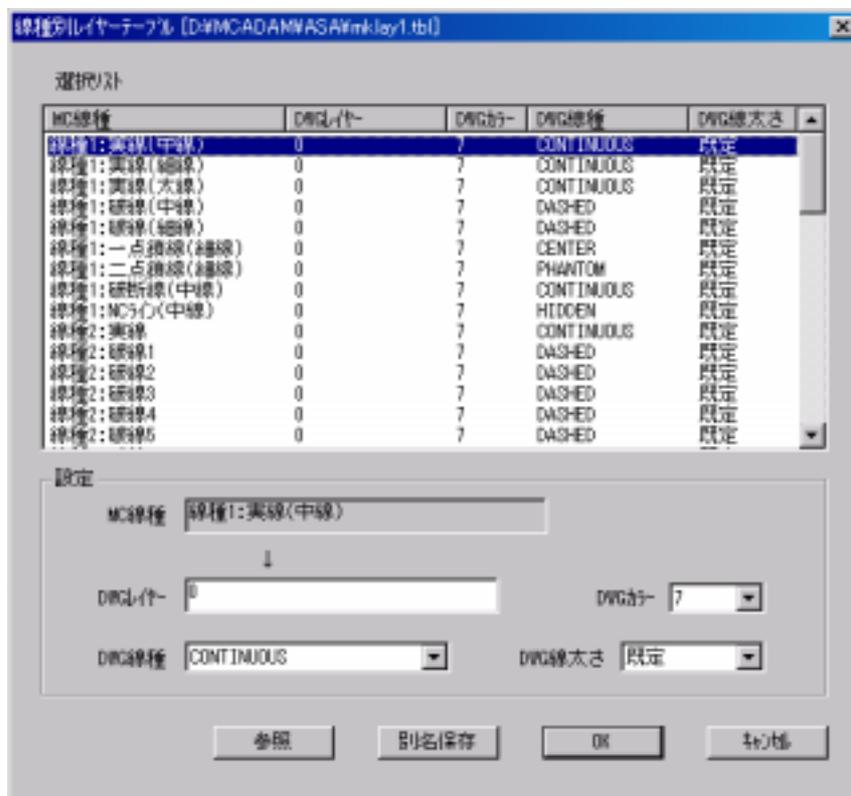
(3) 線種別レイヤーテーブル設定変更手順

メニューの【設定メニュー】を選択し、【レイヤーテーブル】【線種別】を選択します。

注) 線種別レイヤーテーブルの設定内容は、変換条件設定の『カラー・レイヤーテーブル』を線種別レイヤーテーブルにした場合のみ有効です。

a) MC 線種に対するレイヤー情報変更手順

変更したい MC 線種・MC 要素を選択リストから選択します。



DWG レイヤーの入力域を選択し、MC 線種・MC 要素に対応するレイヤー名をキー入力します。

DWG カラー、DWG 線種、DWG 線太さのプルダウンリストから、レイヤーに付加する情報を選択します。

保存する場合は、【OK】を押します。【キャンセル】を押した場合は、保存されません。

別の名前でも保存する場合は、【別名保存】を押し、任意のファイル名を設定します。保存されたファイルは、【参照】で呼び出すことができます。

線種別レイヤーテーブル設定内容の詳細は、8. 4) (2) c) 線種別レイヤーテーブルを参照してください。

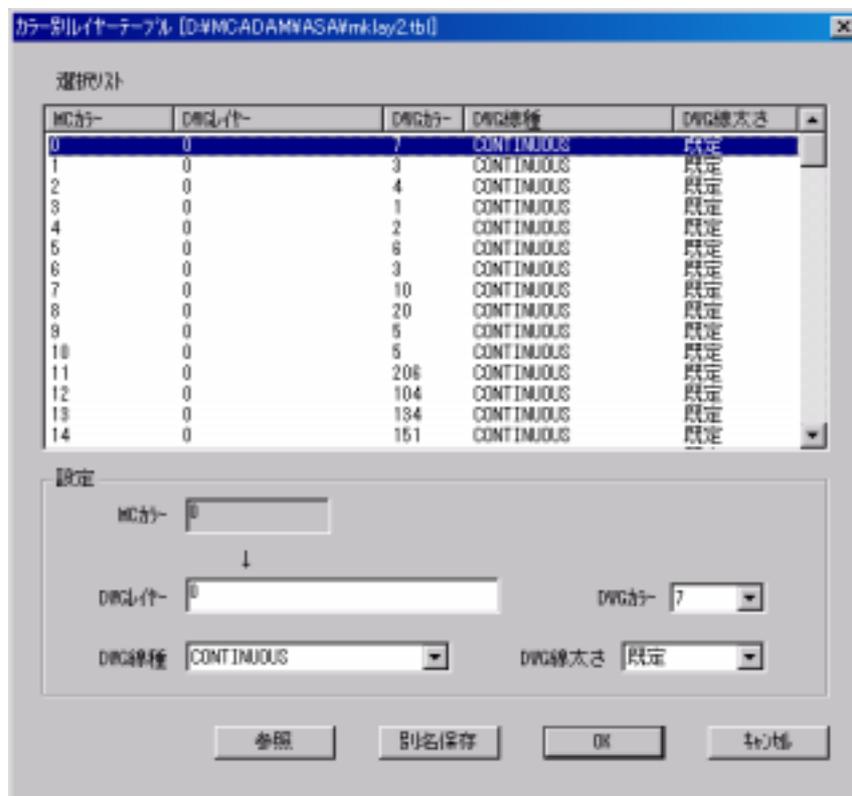
(4) カラー別レイヤーテーブル設定変更手順

メニューの【設定メニュー】を選択し、【レイヤーテーブル】【カラー別】を選択します。

注) カラー別レイヤーテーブルの設定内容は、変換条件設定の『カラー・レイヤーテーブル』をカラー別レイヤーテーブルにした場合のみ有効です。

a) MC カラーに対するレイヤー情報変更手順

変更したい MC カラーを選択リストから選択します。



DWG レイヤーの入力域を選択し、MC カラーに対応するレイヤー名をキー入力します。

DWG カラー、DWG 線種、DWG 線太さのプルダウンリストから、レイヤーに付加する情報を選択します。

保存する場合は、【OK】を押します。【キャンセル】を押した場合は、保存されません。

別の名前で保存する場合は、【別名保存】を押し、任意のファイル名を設定します。保存されたファイルは、【参照】で呼び出すことができます。

カラー別レイヤーテーブル設定内容の詳細は、8. 4) (2) d) カラー別レイヤーテーブルを参照してください。

6) 結果確認手順

変換実行処理が終了すると、**変換結果画面**を表示します。また、メニューの【**結果**】を選択し、【**結果**】を選択した場合も、常時表示します。



結果表示の内容については、**9. エラーメッセージ説明**を参照してください。

7) オプション設定変更手順

(1) spcchr.tbl 設定変更手順

メニューの【オプション】を選択し、【spcchr.tbl】を選択します。
現在のデフォルトの spcchr.tbl 設定内容を表示します。

a) DWG 名の代替文字変更手順

変更したい代替文字を選択リストから選択してください。



置換前の文字と置換後の文字の制御コードをキー入力してください。
保存する場合は、【登録】を押します。ただし、登録済みの場合は、この操作は無効です。
また、削除する場合は、【削除】を押します。

spcchr.tbl 設定内容の詳細は、8. 5) オプション設定項目事項を参照してください。

(2) mkcol.def 設定変更手順

メニューの【オプション】を選択し、【mkcol.def】を選択します。
現在のデフォルトの mkcol.def 設定内容を表示します。

注) mkcol.def の設定内容は、変換条件設定の『カラー・レイヤーテーブル』を未使用もしくはカラー別カラーテーブルにした場合のみ有効です。

a) カラー番号変更手順

変更したいカラー番号を選択リストから選択します。



DWG のカラー番号をダウンメニューから選択してください。
保存する場合は、【登録】を押します。ただし、登録済みの場合は、この操作は無効です。
また、削除する場合は、【削除】を押します。

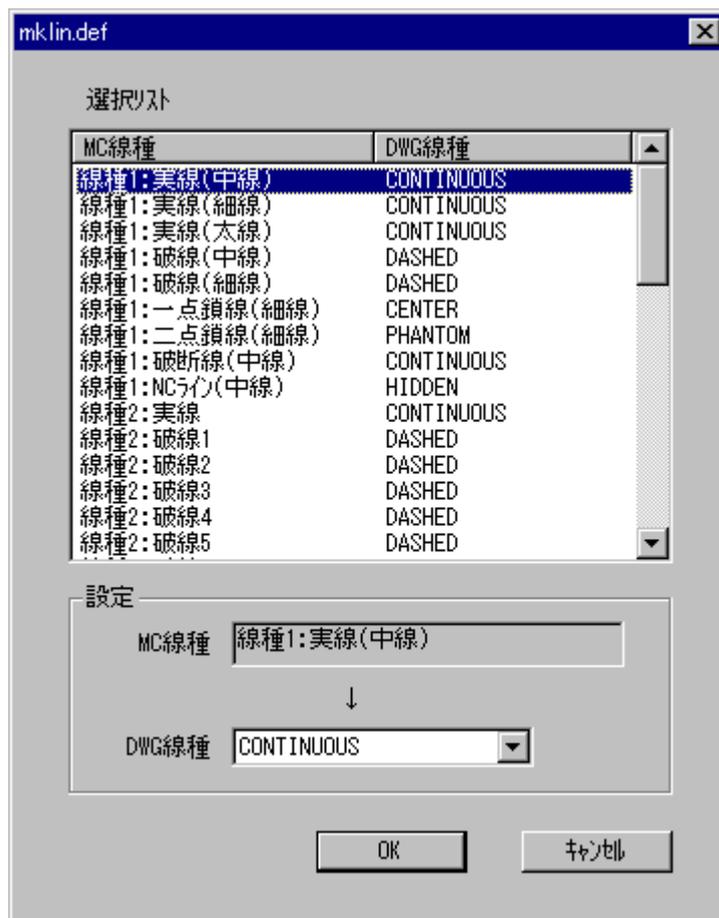
mkcol.def 設定内容の詳細は、8. 5) オプション設定項目事項を参照してください。

(3) mklin.def 設定変更手順

メニューの【オプション】を選択し、【mklin.def】を選択します。
現在のデフォルトの mklin.def 設定内容を表示します。

a) 線種変更手順

変更したい MC 線種を選択リストから選択します。



MC 線種に対応する DWG 線種をプルダウンリストから選択します。
保存する場合は、【OK】を押します。【キャンセル】を押した場合は、保存されません。

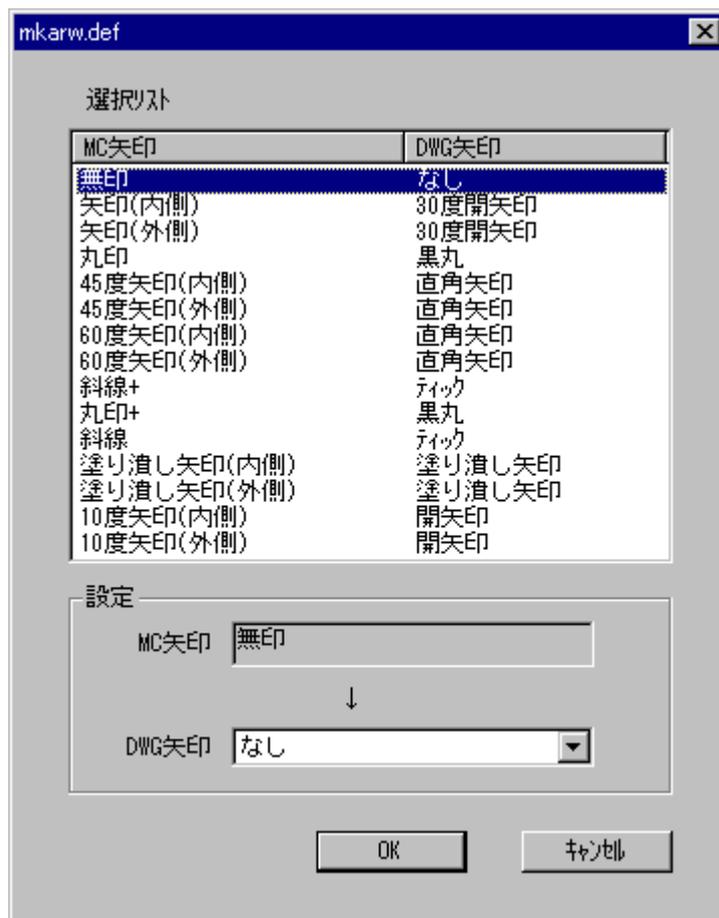
mklin.def 設定内容の詳細は、8. 5) オプション設定項目事項を参照してください。

(4) mkarw.def 設定変更手順

メニューの【オプション】を選択し、【mkarw.def】を選択します。
現在のデフォルトの mkarw.def 設定内容を表示します。

a) 矢印変更手順

変更したい MC 矢印を選択リストから選択します。



MC 矢印に対応する DWG 矢印をプルダウンリストから選択します。
保存する場合は、【OK】を押します。【キャンセル】を押した場合は、保存されません。

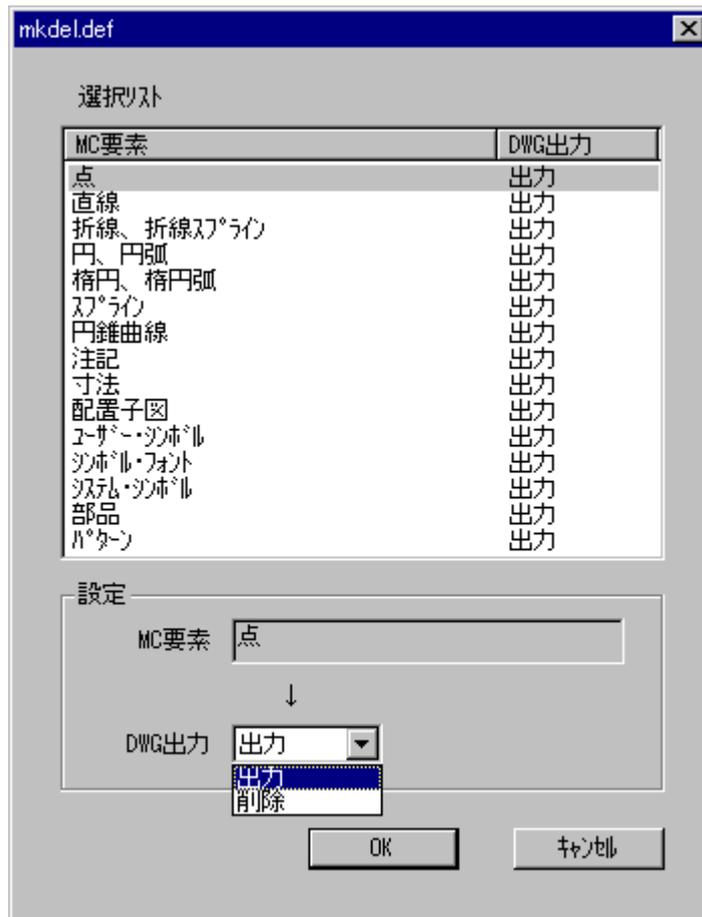
mkarw.def 設定内容の詳細は、8. 5) オプション設定項目事項を参照してください。

(5) mkdel.def 設定変更手順

メニューの【オプション】を選択し、【mkdel.def】を選択します。
現在のデフォルトの mkdel.def 設定内容を表示します。

a) 削除要素設定手順

変換時に削除したい MC 要素を選択リストから選択します。



DWG 出力のプルダウンリストから削除を選択します。

保存する場合は、【OK】を押します。【キャンセル】を押した場合は、保存されません。

mkdel.def 設定内容の詳細は、8. 5) オプション設定項目事項を参照してください。

(6) dwgenv.sys 設定変更手順

メニューの【オプション】を選択し、【dwgenv.sys】を選択します。
現在のデフォルトの dwgenv.sys 設定内容を表示します。

a) 設定変更手順

変更したいキーワードを選択リストから選択します。



値の入力域を選択します。

キーワードに対応する値をキー入力して、【登録】を押します。

保存する場合は、【OK】を押します。【キャンセル】を押した場合は、保存されません。

dwgenv.sys 設定内容の詳細は、10.3) dwgenv.sys の設定を参照してください。

8) ペーパー空間設定変更手順

メニューの【オプション】を選択し、【ペーパー空間設定】を選択します。
現在のデフォルトのペーパー空間設定内容を表示します。

注) ペーパー空間設定は、オプションの『ペーパー空間サポート』を追加されている場合にご使用いただけます。



(1) ペーパー空間変更手順

ペーパー空間の要素として変換する場合は、【オン】を選択してください。
モデル空間の要素として変換する場合は、【オフ】を選択してください。

(2) ペーパー空間ビュー名変更手順

ペーパー空間の要素として変換するビュー名を設定します。
設定しているビューの要素は、モデル空間の要素として変換しません。
また、複数のビューを設定可能です。複数のビューを設定する場合は、カンマ(,)で区切ってください。

注) 図面に、プロットデータがある場合、プロットデータ内の要素は、ペーパー空間の要素として変換します。プロットデータ外の要素は、モデル空間の要素として変換します。

注) ビュー名を設定していない場合は、全てモデル空間の要素として変換します。

ペーパー空間設定内容の詳細は、10. 8) ペーパー空間設定についてを参照してください。

第IV部 共通

8. 設定項目詳細説明

1) 図面および DWG 設定項目事項 (対話モード版の場合)

(1) DWG ⇒ 図面変換

a) DWG タイプ

DWG の形式を指定します。

AutoCAD	AutoCAD の図面を MC 図面に作成する。
その他	その他の CAD から出力した図面を MC 図面に作成する。

注) DWG タイプの設定によって、注記のポジションと寸法の形状が変わります。したがって、10.2) (1) a) ④TEXT、10.2) (1) a) ⑤MTEXT、10.2) (1) a) ⑧DIMENSIONを参照して、DWG タイプを設定してください。

b) 入力先：ディレクトリー

DWG の入力先ディレクトリーを設定します。

ディレクトリー	(251-DWG 名の文字数)の文字数以内で設定
---------	--------------------------

注) a) の項はキーボードからの入力できません。

(2) 図面 ⇒ DWG 変換

- a) DWG タイプ
DWG の形式を指定します。

R12J	R12J 形式で作成する。
R13J	R13J 形式で作成する。
R14	R14 形式で作成する。
2000	2000 形式で作成する。
2004	2004 形式で作成する。
2007	2007 形式で作成する。
2010	2010 形式で作成する。
2013	2013 形式で作成する。

- b) 子図名テンプレート
DWG 内の **BLOCK** 名を設定します。
テンプレート部(前 4 桁)、追番(後 4 桁)、全体 8 桁で設定してください。

前 4 桁	テンプレートを設定	半角英数で設定
後 4 桁	(10000-複合図形要素数)の値を設定	半角数字で設定

注) 複合図形要素は、次のようなものを指します。

- ・子図
- ・ユーザー・シンボル
- ・シンボル
- ・パターン
- ・部品

- c) 使用フォント名
DWG 内のフォントを「通常のフォント名、ビッグ フォント名」で設定します。
なお、通常フォント名のみを設定する場合は、最後に必ずカンマ(,)を付けてください。

- d) 出力先：ディレクトリー
DWG の出力先ディレクトリーを設定します。

ディレクトリー	(251-DWG 名の文字数)の文字数以内で設定
---------	--------------------------

注) a) の項はキーボードからの入力できません。

b) の項で入力可能な文字は、半角英数文字のみです。

2) 図面および DWG 設定項目事項 (バッチモード版の場合)

(1) DWG ⇒ MC 図面変換

- a) 出力先：区画
MC 図面の出力先**区画**を設定します。
- b) 出力先：グループ
MC 図面の出力先**グループ**を設定します。
- c) 出力先：ユーザー
MC 図面の出力先**ユーザー**を設定します。

注) a) ~ c) の項で入力可能な文字は、半角英数文字のみです。

(2) DWG ⇒ OS ファイル変換

- a) 出力先：ディレクトリー
OS ファイルの出力先**ディレクトリー**を設定します。

ホスト	15 文字以内で設定(半角文字のみ)
ディレクトリー	(251-ホストの文字数-OS ファイル名の文字数)の文字数以内で設定

(3) DWG ⇒ DOS ファイル変換

- a) 出力先：ディレクトリー
DOS ファイルの出力先**ディレクトリー**を設定します。

ディレクトリー (251-DOS ファイル名の文字数)の文字数以内で設定

- b) 出力先：区画
一時的な MC 図面の出力先**区画**を設定します。

- c) 出力先：グループ
一時的な MC 図面の出力先**グループ**を設定します。

- d) 出力先：ユーザー
一時的な MC 図面の出力先**ユーザー**を設定します。

注) b) ~ d) は、DOS ファイルに変換するために使用するので、必ず MC 図面が存在しない区画・グループ・ユーザーを設定してください。

(4) DWG ⇒ 図面変換共通

- a) 入力先：ディレクトリー
DWG の入力先ディレクトリーを設定します。

ディレクトリー	(251-DWG 名の文字数)の文字数以内で設定
---------	--------------------------

- b) 拡張子
DWG の拡張子を 3 文字以内で設定します。

- c) DWG タイプ
DWG の形式を指定します。

AutoCAD	AutoCAD の図面を MC 図面に作成する。
その他	その他の CAD から出力した図面を MC 図面に作成する。

注) DWG タイプの設定によって、注記のポジションと寸法の形状が変わります。したがって、1 0. 2) (1) a) ④TEXT、1 0. 2) (1) a) ⑤MTEXT、1 0. 2) (1) a) ⑥DIMENSIONを参照して、DWG タイプを設定してください。

注) c) の項はキーボードからの入力できません。

(5) MC 図面 ⇒ DWG 変換

- a) 入力先：区画
MC 図面の入力先**区画**を設定します。

- b) 入力先：グループ
MC 図面の入力先**グループ**を設定します。

- c) 入力先：ユーザー
MC 図面の入力先**ユーザー**を設定します。

注) a) ~ c) の項で入力可能な文字は、半角英数文字のみです。

(6) OS ファイル ⇒ DWG 変換

- a) 入力先ディレクトリー
OS ファイルの入力先**ディレクトリー**を設定します。

ホスト	15 文字以内で設定(半角文字のみ)
ディレクトリー	(251-ホストの文字数-OS ファイル名の文字数)の文字数以内で設定

(7) DOS ファイル ⇒ DWG 変換

- a) 入力先ディレクトリー
DOS ファイルの入力先ディレクトリーを設定します。

ディレクトリー (251-DOS ファイル名の文字数)の文字数以内で設定

- b) 入力先：区画
一時的な MC 図面の入力先区画を設定します。
- c) 入力先：グループ
一時的な MC 図面の入力先グループを設定します。
- d) 入力先：ユーザー
一時的な MC 図面の入力先ユーザーを設定します。

注) b) ~ d) は、DOS ファイルに変換するために使用するので、必ず MC 図面が存在しない区画・グループ・ユーザーを設定してください。

(8) 図面 ⇒ DWG 変換共通

- a) 出力先：ディレクトリー
DWG の出力先ディレクトリーを設定します。

ディレクトリー	(251-DWG 名の文字数)の文字数以内で設定
---------	--------------------------

- b) 拡張子
DWG の拡張子を 3 文字以内で設定します。

- c) DWG タイプ
DWG の形式を指定します。

R12J	R12J 形式で作成する。
R13J	R13J 形式で作成する。
R14	R14 形式で作成する。
2000	2000 形式で作成する。
2004	2004 形式で作成する。
2007	2007 形式で作成する。
2010	2010 形式で作成する。
2013	2013 形式で作成する。

- d) 子図名テンプレート
DWG 内の **BLOCK** 名を設定します。
テンプレート部(前 4 桁)、追番(後 4 桁)、全体 8 桁で設定してください。

前 4 桁	テンプレートを設定	半角英数で設定
後 4 桁	(10000-複合図形要素数)の値を設定	半角数字で設定

注) 複合図形要素は、次のようなものを指します。

- ・子図
- ・ユーザー・シンボル
- ・シンボル
- ・パターン
- ・部品

- e) 使用フォント名
DWG 内のフォントを「通常のフォント名、ビッグ フォント名」で設定します。なお、通常フォント名のみを設定する場合は、最後に必ずカンマ(,)を付けてください。

注) c) の項はキーボードからの入力できません。

d) の項で入力可能な文字は、半角英数字のみです。

3) その他設定項目事項

(1) DWG ⇒ 図面変換

a) 精度

自動	作成する図面の精度を MC の設定にする。
倍精度	作成する図面の精度を倍精度にする。
単精度	作成する図面の精度を単精度にする。

b) LAYER

ビュー毎	レイヤーをビューに1つずつ対応させて作成する。
対話モード版の場合	
展開	カレント図面に追加する場合は、カレント図面にビューを1つ追加して、全てのレイヤー要素を追加したビューに作成する。 上記以外は、全てのレイヤー要素をビューPVに作成する。
バッチモード版の場合	
展開	全てのレイヤー要素をビューPVに作成する。

注) オプションの『ペーパー空間サポート』を追加されている場合は、DWG ⇒ MC のペーパー空間の設定が『オフ』の場合のみ、有効となります。

c) BLOCK

子図	BLOCK を子図要素で作成する。
展開	BLOCK を各要素に展開して作成する。

d) 寸法

寸法	DIMENSION を寸法要素で作成する。
展開	DIMENSION を展開して作成する。

e) 寸法タイプ

擬尺	寸法値を擬尺として作成する。
実寸	寸法値を実寸として作成する。

f) 文字幅補正

文字幅補正(PC98の文字フォント幅)を指定します。

無補正	文字幅の補正を行わずに作成する。
補正	文字幅の補正を行って作成する。
比率補正	設定した文字幅比率で補正を行って作成する。

注) 比率補正は、文字高さに対する文字幅比率を設定します。0.001以上の値が有効となります。

g) 変換要素

全要素	データ内の全要素を作成する。
図形要素	データ内の図形要素のみを作成する。

注) 図形要素のみで作成する場合、次の要素を作成します。

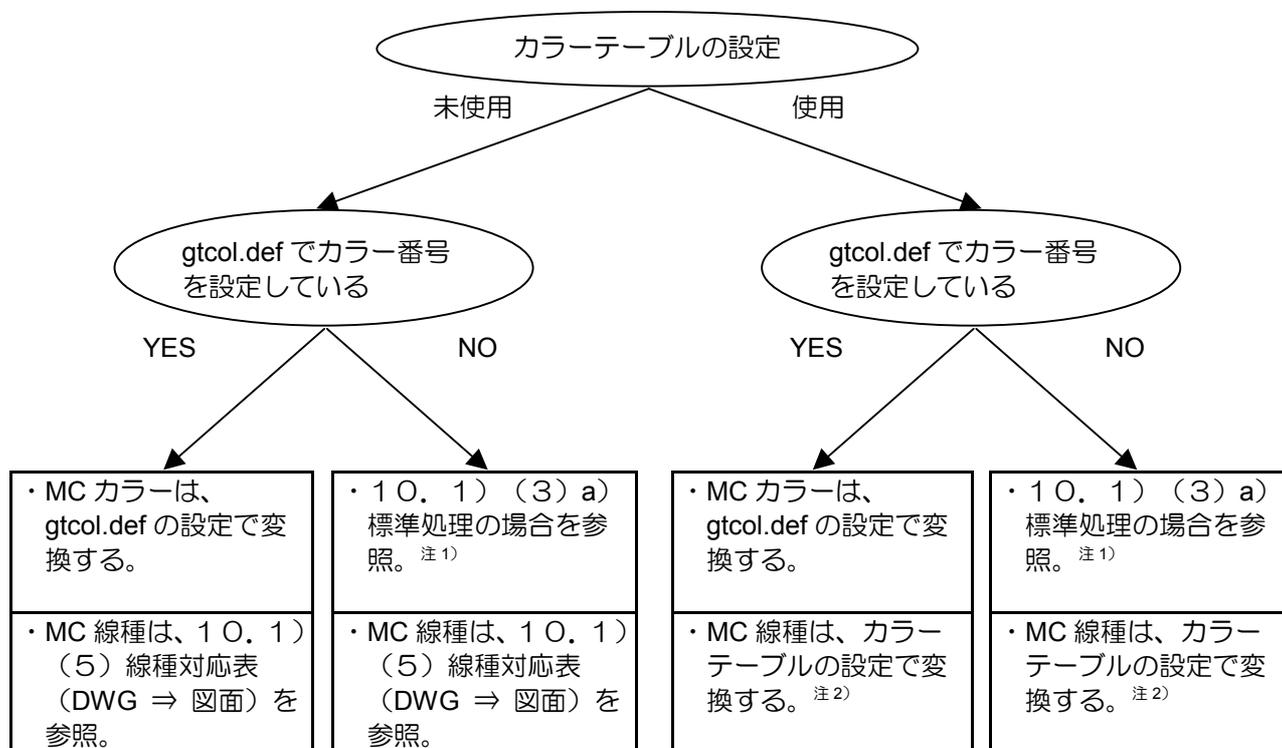
- ・ POINT
- ・ LINE
- ・ CIRCLE
- ・ ARC
- ・ POLYLINE
- ・ ELLIPSE
- ・ LWPOLYLINE
- ・ TRACE
- ・ SOLID
- ・ XLINE
- ・ RAY
- ・ MLINE
- ・ SPLINE
- ・ INSERT(BLOCK)内の図形要素

注) オプション設定の『gtdel.def』で出力と指定した要素が対象となります。

h) カラーテーブル

カラーテーブル設定内容を使用するかどうかを指定します。

未使用	カラーテーブルを使用しない。(下図参照)
使用	カラーテーブルを使用する。(下図参照)



注) 線種、カラーの詳細は、1 0. 2) (1) DWG ⇒ 図面変換を参照してください。

注1) 標準処理のカラー番号を、gtcol.def で設定している場合、gtcol.def の設定を優先します。

注2) 設定している DWG カラーの要素の線種に対して、MC 線種（太線・中線・細線）がない場合は、近い線種で作成します。

例1) 太線の DWG カラーを1と設定時、DWG カラー1の要素が破線の場合は、中線にする。
(破線には、中線・細線しかないため)

例2) 太線の DWG カラーを1と設定時、DWG カラー1の要素が一点鎖線の場合は、細線にする。
(一点鎖線には、細線しかないため)

各線種（太線・中線・細線）に同じ DWG カラーを設定している場合、優先順位は中線、細線、太線の順番となります。

DWG カラーに“0”を設定している場合は、標準処理をします。

i) POLYLINE

スプライン	POLYLINE をスプラインで作成する。
円弧	POLYLINE を円弧に展開して作成する。

(2) 図面 ⇒ DWG 変換

a) 精度

自動	作成する DWG の精度を図面の精度にする。
倍精度	作成する DWG の精度を倍精度にする。
単精度	作成する DWG の精度を単精度にする。

b) ビュースケール

ペーパー	ビュースケールのかかった要素に対して、見た目のままで作成する。(疑似図面)
ビュー	1/1 にした大きさで作成する。(実尺図面)

注) 詳細は、10. 1) (11) ビュースケール反映図 (図面 ⇒ DWG) を参照してください。

c) ビュー

LAYER	ビューをレイヤーに 1 つずつ対応させて作成する。
無効	全てのビューの要素を LAYER0 に作成する。

注) 線種別カラーテーブルを使用する場合、“無効”を指定すると、線種別カラーテーブルのレイヤー名で作成します。

d) 子図

BLOCK	子図を BLOCK で作成する。
展開	子図を要素展開して作成する。

e) 日本語

出力	元のデータのまま作成する。
削除	2 バイト文字の存在する文字列を作成しない。
置換	2 バイト文字の英数文字を 1 バイト文字にし、その他の文字を “*” に置き換えて作成する。

f) 寸法

寸法	寸法を DIMENSION で作成する。
展開	寸法を要素展開して作成する。

g) 寸法タイプ

擬尺	寸法値を擬尺として作成する。
実寸	寸法値を実寸として作成する。

h) シンボル

BLOCK	シンボルを BLOCK で作成する。
展開	シンボルを要素展開して作成する。

i) 部品

BLOCK	部品を BLOCK で作成する。
展開	部品を要素展開して作成する。

j) NC ライン

出力	NC ラインを HIDDEN で作成する。
削除	NC ラインは作成しない。

k) 1バイトカナ

1バイトカナ	元のデータのまま1バイト文字で作成する。
2バイトカナ	1バイト文字を、2バイトシフトJISで作成する。
2バイト特殊カナ	AutoCAD以外のDWGコンバータを使用する場合、先頭1バイトを85区で作成する。 ただし、2バイト文字を85区のみで扱う場合に限る。

l) 2バイトカナ

2バイトカナ	元のデータのまま2バイト文字で作成する。
2バイト特殊カナ	先頭1バイトを85区で作成する。

m) 文字幅補正

文字幅補正(PC98の文字フォント幅)を指定します。

無補正	文字幅の補正を行わずに作成する。
補正	文字幅の補正を行って作成する。
比率補正	設定した文字幅比率で補正を行って作成する。

注) 比率補正は、文字高さに対する文字幅比率を設定します。0.001以上の値が有効となります。

n) 変換要素

全要素	データ内の全要素を作成する。
図形要素	データ内の図形要素のみを作成する。

注) 図形要素のみで作成する場合、次の要素を作成します。

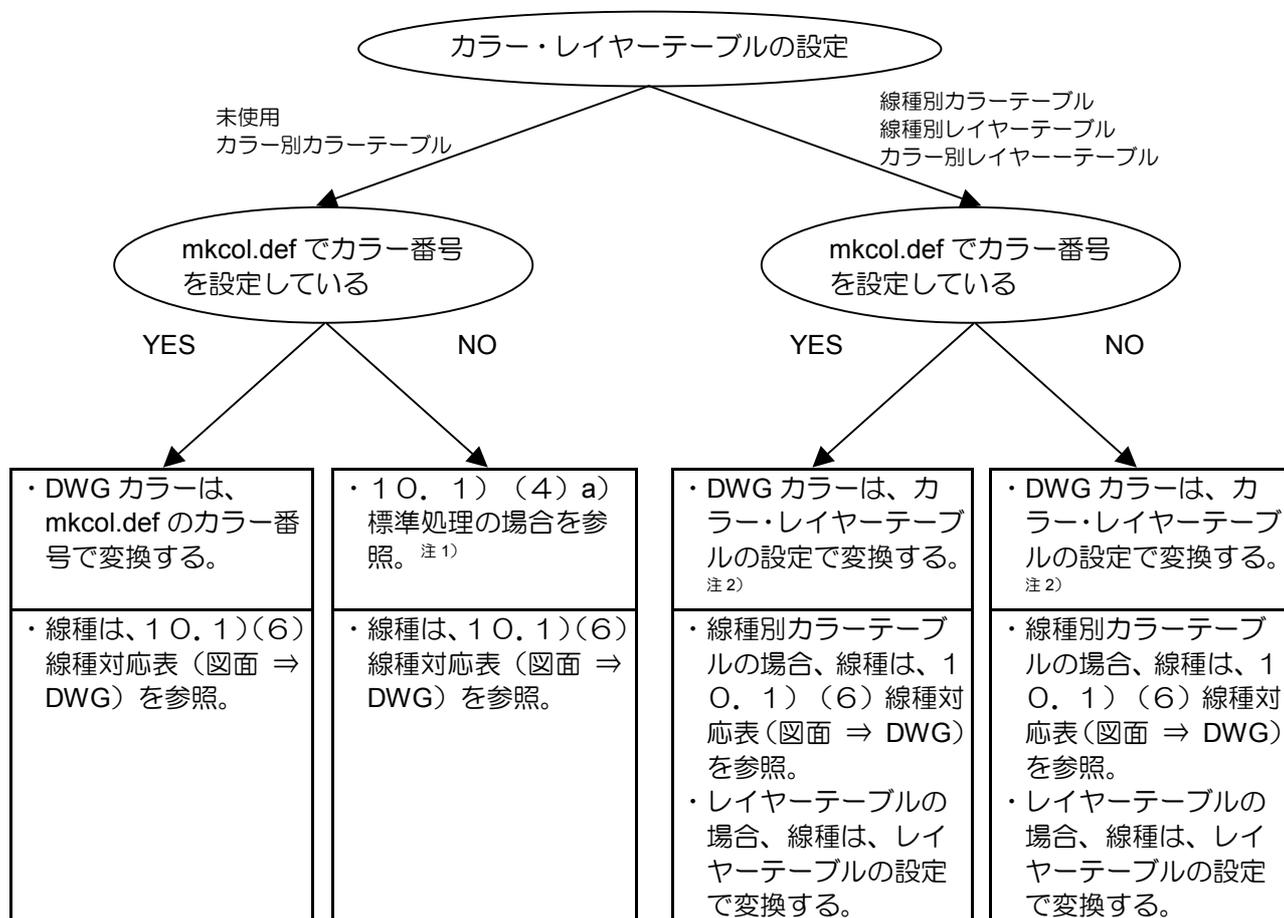
- | | |
|--------------|-----------------|
| ・点 | ・折線スプライン |
| ・直線 | ・円錐曲線 |
| ・折線 | ・子図配置(子図)内の図形要素 |
| ・円 | ・破断線 2 |
| ・楕円 | ・パターン |
| ・スプライン | ・部品内の図形要素 |
| ・オフセット・スプライン | |

注) オプション設定の『mkdel.def』で出力と指定した要素が対象となります。

o) カラー・レイヤーテーブル

カラー・レイヤーテーブル設定内容を使用するかどうかを指定します。

未使用	カラー・レイヤーテーブルを使用しない(下図参照)
線種別カラーテーブル	線種別カラーテーブルを使用する(下図参照)
カラー別カラーテーブル	カラー別カラーテーブルを使用する(下図参照)
線種別レイヤーテーブル	線種別レイヤーテーブルを使用する(下図参照)
カラー別レイヤーテーブル	カラー別レイヤーテーブルを使用する(下図参照)



注) 設定の詳細は、10. 2) (2) 図面 ⇒ DWG 変換を参照してください。

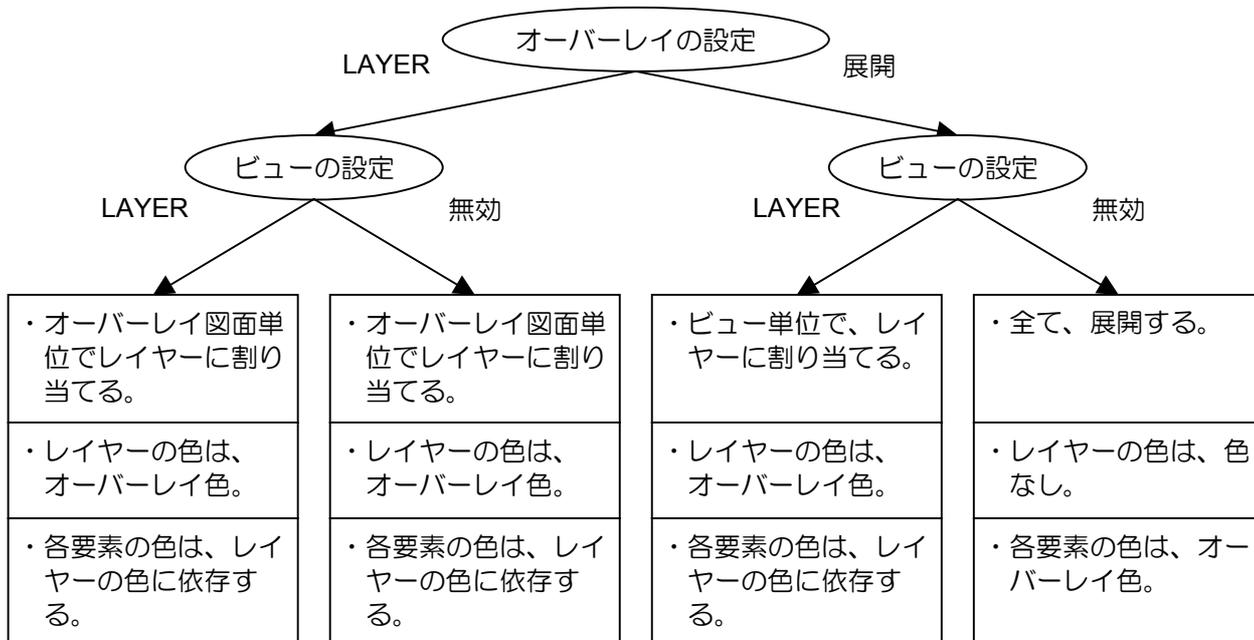
注 1) 標準処理のカラー番号を、mkcol.def で設定している場合、mkcol.def の設定を優先します。

注 2) 線種別カラーテーブルの場合、DWG カラーに“0”を設定すると、その要素の色で作成します。

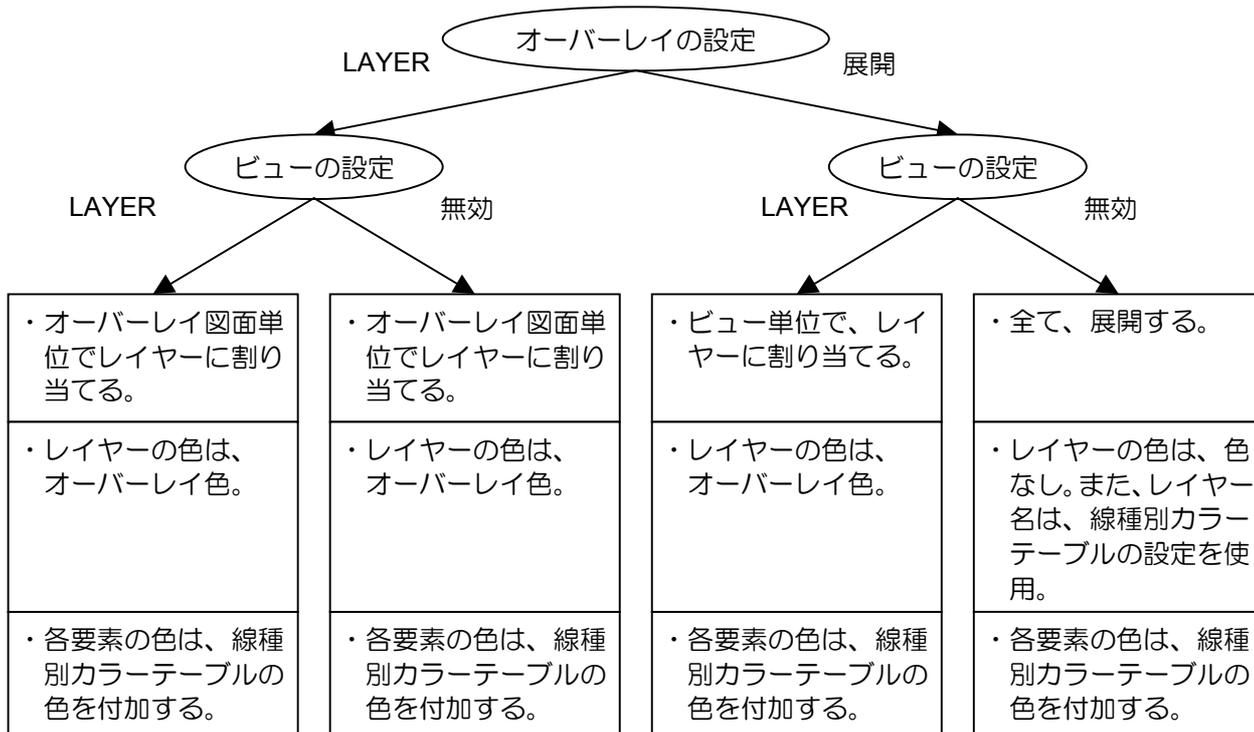
p) オーバーレイ
 オーバーレイ図面の扱いを指定します。

LAYER	下図参照。
展開	下図参照。

・カラー・レイヤーテーブルの設定が未使用の場合



・カラー・レイヤーテーブルの設定が線種別カラーテーブルの場合



4) カラー・レイヤーテーブル設定項目事項

(1) DWG ⇒ 図面変換

a) カラーテーブル

(a) 太線

DWG カラー 設定した DWG のカラー番号の要素を MC の太線で作成する。

(b) 中線

DWG カラー 設定した DWG のカラー番号の要素を MC の中線で作成する。

(c) 細線

DWG カラー 設定した DWG のカラー番号の要素を MC の細線で作成する。

注) (a) ~ (c) の項で入力可能な文字は、半角数字および区切り文字のカンマ(,)のみです。

(2) 図面 ⇒ DWG 変換

a) 線種別カラーテーブル

(a) 実線 (太線)

DWG カラー	MC の実線(太線)要素を設定した DWG のカラー番号で作成する。
---------	------------------------------------

DWG レイヤー	MC の実線(太線)要素を設定したレイヤーに作成する。
----------	-----------------------------

(b) 実線 (中線)

DWG カラー	MC の実線(中線)要素を設定した DWG のカラー番号で作成する。
---------	------------------------------------

DWG レイヤー	MC の実線(中線)要素を設定したレイヤーに作成する。
----------	-----------------------------

(c) 実線 (細線)

DWG カラー	MC の実線(細線)要素を設定した DWG のカラー番号で作成する。
---------	------------------------------------

DWG レイヤー	MC の実線(細線)要素を設定したレイヤーに作成する。
----------	-----------------------------

(d) 破線 (中線)

DWG カラー	MC の破線(中線)要素を設定した DWG のカラー番号で作成する。
---------	------------------------------------

DWG レイヤー	MC の破線(中線)要素を設定したレイヤーに作成する。
----------	-----------------------------

(e) 破線 (細線)

DWG カラー	MC の破線(細線)要素を設定した DWG のカラー番号で作成する。
---------	------------------------------------

DWG レイヤー	MC の破線(細線)要素を設定したレイヤーに作成する。
----------	-----------------------------

(f) 一点鎖線

DWG カラー	MC の一点鎖線要素を設定した DWG のカラー番号で作成する。
---------	----------------------------------

DWG レイヤー	MC の一点鎖線要素を設定したレイヤーに作成する。
----------	---------------------------

(g) 二点鎖線

DWG カラー	MC の二点鎖線要素を設定した DWG のカラー番号で作成する。
---------	----------------------------------

DWG レイヤー	MC の二点鎖線要素を設定したレイヤーに作成する。
----------	---------------------------

(h) NC ライン

DWG カラー	MC の NC ライン要素を設定した DWG のカラー番号で作成する。
---------	-------------------------------------

DWG レイヤー	MC の NC ライン要素を設定したレイヤーに作成する。
----------	------------------------------

(i) 破断線

DWG カラー	MC の破断線要素を設定した DWG のカラー番号で作成する。
---------	---------------------------------

DWG レイヤー	MC の破断線要素を設定したレイヤーに作成する。
----------	--------------------------

(j) 注記

DWG カラー	MC の注記を設定した DWG のカラー番号で作成する。
---------	------------------------------

DWG レイヤー	MC の注記を設定したレイヤーに作成する。
----------	-----------------------

(k) 寸法

DWG カラー	MC の寸法を設定した DWG のカラー番号で作成する。
---------	------------------------------

DWG レイヤー	MC の寸法を設定したレイヤーに作成する。
----------	-----------------------

注) (a) ~ (k) の [DWG カラー] で入力可能な文字は、半角数字のみです。

(a) ~ (k) の [DWG レイヤー] で入力可能な文字は、半角英数文字のみです。

b) カラー別カラーテーブル

DWG レイヤー	各 MC カラー番号の要素を設定したレイヤーに作成する。Bylayer になるため、レイヤー毎に割り当てられたカラーが適用される。
----------	---

注) [DWG レイヤー]で入力可能な文字は、半角英数文字のみです。

c) 線種別レイヤーテーブル

DWG レイヤー	各 MC 要素を設定したレイヤーに作成する。Bylayer になるため、レイヤー毎に割り当てられたカラー、線種、線太さが適用される。
DWG カラー	設定したカラーをレイヤーのカラーにする。
DWG 線種	設定した線種をレイヤーの線種にする。
DWG 線太さ	設定した線太さをレイヤーの線太さにする。

注) 線種 1 (9 種類)、線種 2 (19 種類)、JIS 線種 (15 種類)、ユーザー定義線種、点、注記、寸法、子図、ユーザー・シンボル、シンボル・フォント、システム・シンボル、部品、パターン毎に設定できます。

注) DWG レイヤーを"0"とした場合は、レイヤー情報(カラー・線種・線太さ)は付加されません。

注) 同じ名前の DWG レイヤーを複数設定した場合は、テーブル内で最も上に設定した DWG レイヤーのレイヤー情報(カラー・線種・線太さ)が適用されます。

注) [DWG レイヤー]で入力可能な文字は、半角英数文字のみです。

d) カラー別レイヤーテーブル

DWG レイヤー	各 MC カラー番号の要素を設定したレイヤーに作成する。Bylayer になるため、レイヤー毎に割り当てられたカラー、線種、線太さが適用される。
DWG カラー	設定したカラーをレイヤーのカラーにする。
DWG 線種	設定した線種をレイヤーの線種にする。
DWG 線太さ	設定した線太さをレイヤーの線太さにする。

注) DWG レイヤーを"0"とした場合は、レイヤー情報(カラー・線種・線太さ)は付加されません。

注) 同じ名前の DWG レイヤーを複数設定した場合は、テーブル内で最も上に設定した DWG レイヤーのレイヤー情報(カラー・線種・線太さ)が適用されます。

注) 部品については色情報がないため、MC カラー毎のレイヤー分けができません。カラー別レイヤーテーブル最終行の部品項目にて別途レイヤーの指定を行って下さい。

注) [DWG レイヤー]で入力可能な文字は、半角英数文字のみです。

5) オプション設定項目事項

(1) DWG ⇒ 図面変換

a) gtcoll.def

MC カラー	DWG のカラー番号を設定した MC のカラー番号に置き換えて作成する。
--------	--------------------------------------

注) MC のカラー番号を 0~120 の範囲で設定してください。

b) gtlin.def

MC 線種	DWG の線種を設定した MC の線種に置き換えて作成する。
-------	--------------------------------

c) gtarw.def

MC 矢印	DWG の矢印を設定した MC の矢印に置き換えて作成する。
-------	--------------------------------

d) gtdel.def

MC 出力	出力と設定した DWG 要素は作成し、削除と設定した DWG 要素は作成しない。
-------	--

注) 下記の要素毎に出力か削除か指定することができます。

- ・点(PPOINT)
- ・直線(LINE,MLINE,TRACE,RAY,XLINE)
- ・ポリライン(POLYLINE,LWPOLYLINE)
- ・円、円弧(CIRCLE,ARC)
- ・楕円、楕円弧(ELLIPSE)
- ・スプライン(SPLINE,HELIX)
- ・文字(TEXT,MTEXT,ATTDEF,ATTRIB,ARCALIGNEDTEXT,TOLERANCE)
- ・寸法(DIMENSION)
- ・引出線(LEADER)
- ・ブロック参照(INSERT,ACAD_TABLE)
- ・2D 塗り潰し(SOLID)
- ・3D リット (3DSOLID,3DFACE,PLANESURFACE,SECTIONOBJECT)

(2) 図面 ⇒ DWG 変換

a) mkcol.def

DWG カラー	MC のカラー番号を設定した DWG のカラー番号に置き換えて作成する。
---------	--------------------------------------

注) DWG のカラー番号を 1~255 の範囲で設定してください。

b) mklin.def

DWG 線種	MC の線種を設定した DWG の線種に置き換えて作成する。
--------	--------------------------------

c) mkarw.def

DWG 矢印	MC の矢印を設定した DWG の矢印に置き換えて作成する。
--------	--------------------------------

d) mkdel.def

DWG 出力	出力と設定した MC 要素は作成し、削除と設定した MC 要素は作成しない。
--------	--

注) 下記の要素毎に出力か削除か指定することができます。

- | | |
|-------------|------------|
| ・点 | ・寸法 |
| ・直線 | ・配置子図 |
| ・折線、折線スプライン | ・ユーザー・シンボル |
| ・円、円弧 | ・シンボル・フォント |
| ・楕円、楕円弧 | ・システム・シンボル |
| ・スプライン | ・部品 |
| ・円錐曲線 | ・パターン |
| ・注記 | |

e) spcchr.tbl

このファイルは、デフォルトの DWG 名を 20 桁にするため、もしくは、Windows で使用禁止文字を他の文字に置き換えるために使用します。

注) 登録できる総数は、100 件です。

(a) 置換前の文字

置換前の文字を制御コード^{注1)}を半角英数文字で設定します。

注 1) 制御コードは 8 進または 10 進または 16 進で入力します。

・ 8 進の場合	
1 文字目	：“0” を設定
2 文字目	：“1~7” を設定
3 文字目~	：“0~7” を設定
・ 10 進の場合	
1 文字目	：“1~9” を設定
2 文字目~	：“0~9” を設定
・ 16 進の場合	
1 文字目	：“0” を設定
2 文字目	：“x” または “X” を設定
3 文字目	：“1~F” を設定
4 文字目~	：“0~F” を設定

(b) 置換後の文字

置換後の文字を制御コード^{注2)}を半角英数文字で設定します。

注 2) 制御コードは 8 進または 10 進または 16 進で入力します。

・ 8 進の場合	
1 文字目	：“0” を設定
2 文字目~	：“0~7” を設定
・ 10 進の場合	
1 文字目~	：“0~9” を設定
・ 16 進の場合	
1 文字目	：“0” を設定
2 文字目	：“x” または “X” を設定
3 文字目~	：“0~F” を設定

9. エラーメッセージ説明

1) DWG ⇒ 図面変換

- ◆ **変換正常終了**

解説 変換処理が、正常に終了しました。
- ◆ **DWG ファイルの読み込みに失敗**

解説 その DWG にアクセス権がない場合が考えられます。

対策 DWG のアクセス権に READ 権を付けてください。
- ◆ **メモリー不足**

解説 メモリーが動的に確保できなかった場合が考えられます。

対策 再起動して、変換実行してください。再度、このエラーメッセージが表示された場合は、弊社に問い合わせてください。
- ◆ **変換内部エラーX (Xは任意)**

解説 変換途中で、エラーが発生した場合が考えられます。

対策 弊社に問い合わせてください。
- ◆ **DWG ファイルが異常です**

解説 DWG のデータフォーマットが正しくない場合が考えられます。

対策 DWG の内容が正しいか確認してください。
- ◆ **DWG ファイルが大きすぎます**

解説 変換中の図面のモデル・サイズが大きすぎます。

対策 *Mcadam *.sys* 中の図面のモデル・サイズの値を確認し、システム管理者と相談し、この値を変更してください。再度、このメッセージが表示された場合は、変換条件を次のようにしてください。

対策

 - ・ LAYER ビューPV
 - ・ BLOCK 展開
 - ・ 寸法 展開

- ◆ **図面の書き込みに失敗**

解説	書き込み先ディスクの空き不足が考えられます。
対策	書き込み先ディスクを空けてください。
解説	図面の権限がない場合が考えられます。
対策	図面の権限を書き込み許可にしてください。

- ◆ **MC 区画が存在しない**

解説	設定した MC 区画が不適切です。
対策	存在する MC 区画を設定してください。

- ◆ **MC グループが存在しない**

解説	設定した MC グループが不適切です。
対策	存在する MC グループを設定してください。

- ◆ **MC ユーザーが存在しない**

解説	設定した MC ユーザーが不適切です。
対策	存在する MC ユーザーを設定してください。

- ◆ **ビュー、子図が 64 個を超えます (V2 図面作成時のみ)**

解説	ビュー+子図の数が 64 個をオーバーした場合が考えられます。
対策	10. 2) (1) a) ⑦BLOCKを参考にして、LAYER と BLOCK を設定してください。

- ◆ **図面名が異常**

解説	入力した図面名の文字が正しくない場合が考えられます。
対策	再度、図面名を入力してください。

- ◆ **プロテクトが見つかりません (スタンドアロンタイプ)**

解説	プロテクトをセットしていない場合が考えられます。
対策	プロテクトをセットしてください。

- ◆ **ライセンス環境に異常があります (ネットワークライセンスタイプ)**

解説	ネットワーク環境が正しくない場合が考えられます。
対策	ネットワーク環境に異常がないか、ネットワーク管理者に相談してください。

- ◆ **ライセンスがありません (ネットワークライセンスタイプ)**
 解説 プロテクトのライセンス数が0の場合が考えられます。
 対策 弊社に問い合わせてください。
-
- ◆ **クライアント登録されていません (ネットワークライセンスタイプ)**
 解説 クライアントを登録していない場合が考えられます。
 対策 ネットワーク ライセンス 管理モジュールのインストール手順書を参照し、クライアントを登録してください。
-
- ◆ **ライセンスに空きがありません (ネットワークライセンスタイプ)**
 解説 同時稼働数以上に稼働した場合が考えられます。
 対策 同時稼働数内で稼働してください。
 解説 変換途中にアベンド等のトラブルが発生し、ライセンスが空いていません。
 対策 全てのクライアントのモジュールとライセンスマネージャーを停止し、再起動してください。
-
- ◆ **3D 要素が存在します**
 解説 データ内に 3D データが存在します。元図データと形状が変わる場合があります。
-
- ◆ **カラーテーブルの設定に誤りがあります**
 解説 カラーテーブルの設定が正しくない場合が考えられます。
 対話モード版の場合
 対策 3. 3) カラーテーブル設定変更手順を参照し、再度設定してください。
 バッチモード版の場合
 対策 6. 5) カラーテーブル設定変更手順を参照し、再度設定してください。
-

2) 図面 ⇒ DWG 変換

- ◆ **変換正常終了**
解説 変換処理が、正常に終了しました。
- ◆ **DWG ファイルの書き込みに失敗**
解説 その DWG のディレクトリーが、存在しない場合が考えられます。
対策 ディレクトリーの存在を確認してください。
解説 その DWG のディレクトリーにアクセス権がない場合が考えられます。
対策 ディレクトリーのアクセス権に WRITE 権を付けてください。
- ◆ **メモリー不足**
解説 メモリーが動的に確保できなかった場合が考えられます。
対策 再起動して、変換実行してください。再度、このエラーメッセージが表示された場合は、弊社に問い合わせてください。
- ◆ **変換内部エラー X (X は任意)**
解説 変換途中で、エラーが発生した場合が考えられます。
対策 弊社に問い合わせてください。
- ◆ **MC 区画が存在しない**
解説 設定した MC 区画が不適切です。
対策 存在する MC 区画を設定してください。
- ◆ **MC グループが存在しない**
解説 設定した MC グループが不適切です。
対策 存在する MC グループを設定してください。
- ◆ **MC ユーザーが存在しない**
解説 設定した MC ユーザーが不適切です。
対策 存在する MC ユーザーを設定してください。
- ◆ **図面が存在しない**
解説 図面が存在しない場合が考えられます。
対策 図面が存在するか、確認してください。

- ◆ **図面が大きすぎます**
 解説 図面のモデル・サイズが大きすぎます。
 対策 *Mcadam *.sys* 中の図面のモデル・サイズの値を確認し、システム管理者と相談し、この値を変更してください。
-
- ◆ **プロテクトが見つかりません (スタンドアロンタイプ)**
 解説 プロテクトをセットしていない場合が考えられます。
 対策 プロテクトをセットしてください。
-
- ◆ **ライセンス環境に異常があります (ネットワークライセンスタイプ)**
 解説 ネットワーク環境が正しくない場合が考えられます。
 対策 ネットワーク環境に異常がないか、ネットワーク管理者に相談してください。
-
- ◆ **ライセンスがありません (ネットワークライセンスタイプ)**
 解説 プロテクトのライセンス数が0の場合が考えられます。
 対策 弊社に問い合わせてください。
-
- ◆ **クライアント登録されていません (ネットワークライセンスタイプ)**
 解説 クライアントを登録していない場合が考えられます。
 対策 ネットワーク ライセンス 管理モジュールのインストール手順書を参照し、クライアントを登録してください。
-
- ◆ **ライセンスに空きがありません (ネットワークライセンスタイプ)**
 解説 同時稼働数以上に稼働した場合が考えられます。
 対策 同時稼働数内で稼働してください。
 解説 変換途中にアベンド等のトラブルが発生し、ライセンスが空いていません。
 対策 全てのクライアントのモジュールとライセンスマネージャーを停止し、再起動してください。
-
- ◆ **カラーテーブルの設定に誤りがあります**
 解説 カラーテーブルの設定が正しくない場合が考えられます。
 対話モード版の場合
 対策 4. 3) (1) 線種別カラーテーブル設定変更手順を参照し、再度設定してください。
 バッチモード版の場合
 対策 7. 5) (1) 線種別カラーテーブル設定変更手順を参照し、再度設定してください。

10. 付録

1) 対応要素一覧表

(1) DWG ⇒ 図面変換表

a) AutoCAD のバージョンが R12J~の場合

No	DWG の要素	MC の要素	コメント
1	点 (POINT)	点 (POINT)	
2	線分 (LINE)	直線 (LINE)	
3	円 (CIRCLE)	円 (CIRCLE)	
4	円弧 (ARC)	円弧 (CIRCLE)	
5	楕円・楕円弧 (POLYLINE) 楕円・楕円弧 (ELLIPSE)	折線またはスプライン (MULTILINE)/(SPLINE) 楕円・楕円弧 (ELLIPSE)	線幅が付いている場合は、曲線 (POLYLINE)の項目を参照。
6	折線 (POLYLINE)	折線または直線 (MULTILINE)/(LINE)	設定に依存する。
7	曲線 (POLYLINE)	スプラインまたは円弧 (SPLINE)/(CIRCLE)	設定に依存する。
8	テキスト (TEXT)	注記 (NOTE)	設定に依存する。
9	マルチテキスト (MTEXT)	注記 (NOTE)	
10	複合図形 (BLOCK)	子図または要素展開 (DETAIL)/(geometry)	設定に依存する。
11	配置 (INSERT)	子図配置または要素展開 (DITTO)/(geometry)	設定に依存する。
12	寸法 (DIMENSION)	寸法または要素展開 (DIMENSION)/(geometry)	設定に依存する。
13	太線 (TRACE)	エリアフィル (AREAFILL)	
14	塗潰図形 (SOLID)	エリアフィル (AREAFILL)	
15	属性 (ATTRIB)	注記 (NOTE)	INSERT についている ATTRIB のみ作成。表示状態のもののみ作成。
16	画層 (LAYER)	投影図 (VIEW)	設定に依存する。
17	線種 (LTYPE)	線種 (TYPE)	
18	カラー (COLOR)	カラーまたは線幅 (COLOR)/(TYPE)	

No	DWG の要素	MC の要素	コメント
19	ハッチ (BLOCK)	子図または要素展開 (DETAIL)/(geometry)	設定に依存する。
20	不表示要素 (NOSHO)		作成しない。
21	3DSOLID	要素展開 (geometry)	外形のみ作成。
22	引出し線 (LEADER)	矢印 1 および折線または 矢印 1 およびスプライン (ARROW-1/MULTILINE)/ (ARROW-1/SPLINE)	① 矢印 1+折線、または ② 矢印 1+スプラインに作成。
23	構築線 (XLIN)	直線 (LINE)	
24	マルチライン (MLIN)	直線および円弧 (LINE/CIRCLE)	
25	放射線 (RAY)	直線 (LINE)	
26	スプライン (SPLIN)	スプライン (SPLIN)	フィット許容差のあるスプライン(B-SPLIN)は、形状が変わる場合がある。
27	幾何公差 (TOLERANCE)	要素展開 (geometry)	
28	最適化ポリライン (LWPOLYLINE)	折線・スプラインまたは直線・円弧 (MULTILINE)/(SPLIN)/ (LINE)/(CIRCLE)	設定に依存する。
29	ARCALIGNEDTEXT	注記 (NOTE)	1文字ずつ展開して作成。
30	らせん (HELIX)	スプライン (SPLIN)	
31	平面サーフェス (PLANESURFACE)	要素展開 (geometry)	
32	断面オブジェクト (SECTIONOBJECT)	要素展開 (geometry)	
33	ハッチング (HATCH)	要素展開 (geometry)	AR-SANDとDOTSは変換されない。グラデーションは1色目の色となる。
34	ワイプアウト (WIPEOUT)	要素展開 (geometry)	
35	表 (ACAD_TABLE)	要素展開 (geometry)	
36	マルチ引出線 (MULTILEADER)	要素展開 (geometry)	

(2) 図面 ⇒ DWG 変換表

a) DWG タイプが R12J の場合

No	MC の要素	DWG の要素		コメント
		線幅なし	線幅(塗潰し)あり	
1	点 (POINT)	点 (POINT)		
2	直線 (LINE)	線分 (LINE)	ポリライン (POLYLINE)	
3	折線 (MULTILINE)	ポリライン (POLYLINE)	ポリライン (POLYLINE)	
4	円 (CIRCLE)	円 (CIRCLE)	ポリライン (POLYLINE)	反時計回りに定義する。 始点=終点の場合は、円と判断。
5	円弧 (CIRCLE)	円弧 (ARC)	ポリライン (POLYLINE)	反時計回りに定義する。 始点=終点の場合は、円と判断。
6	楕円・楕円弧 (ELLIPSE) 楕円・楕円弧の オフセットスプライン (OFFSET SPLINE)	ポリライン (POLYLINE)	ポリライン (POLYLINE)	
7	スプライン (SPLINE) オフセットスプライン (OFFSET SPLINE)	ポリライン (POLYLINE)	ポリライン (POLYLINE)	
8	折線スプライン (LINEAR SPLINE) オフセットスプライン (OFFSET SPLINE)	ポリライン (POLYLINE)	ポリライン (POLYLINE)	
9	円錐曲線 (CONIC) オフセットスプライン (OFFSET SPLINE)	ポリライン (POLYLINE)	ポリライン (POLYLINE)	
10	注記 (NOTE)	テキスト (TEXT)		
11	破断線 2 (BREAKOUT)	ポリライン (POLYLINE)		MC Ver 3.1 以上で、サポート。
12	寸法 (DIMENSION)	寸法または要素展開 (DIMENSION)/(geometry)		設定に依存する。 MC Helix V4R3 以上で、サポート した寸法を含む。
13	子図 (DETAIL)	複合図形または要素展開 (BLOCK)/(geometry)		設定に依存する。
14	子図配置 (DITTO)	配置または要素展開 (INSERT)/(geometry)		設定に依存する。
15	ユーザー・シンボル (SYMBOL)	複合図形または要素展開 (BLOCK)/(geometry)		設定に依存する。 ユーザー・シンボルの文字記号は MC Ver 3.0 以上で、サポート。
16	フォント (FONT)	複合図形または要素展開 (BLOCK)/(geometry)		設定に依存する。

No	MC の要素	DWG の要素		コメント
		線幅なし	線幅(塗潰し)あり	
17	小丸 (DOT)	複合図形または円 (BLOCK)/(CIRCLE)	複合図形または ポリライン (BLOCK)/(POLYLINE)	設定に依存する。
18	矩形 (RECTANGLE)	複合図形または ポリライン (BLOCK)/(POLYLINE)	複合図形または 2D 塗潰し図形 (BLOCK)/(SOLID)	設定に依存する。
19	三角形 (TRIANGLE)	複合図形または ポリライン (BLOCK)/(POLYLINE)	複合図形または 2D 塗潰し図形 (BLOCK)/(SOLID)	設定に依存する。
20	十字 (RIVET)	複合図形または線分 (BLOCK)/(LINE)		設定に依存する。
21	矢視 (SECTION LINE)	複合図形または要素展開 (BLOCK)/(geometry)		設定に依存する。
22	矢印 1 (ARROW-1)	複合図形または要素展開 (BLOCK)/(geometry)		設定に依存する。
23	矢印 2 (ARROW-2)	複合図形または要素展開 (BLOCK)/(geometry)		設定に依存する。
24	矢印群 (COMPOSITE ARROW)	複合図形または要素展開 (BLOCK)/(geometry)		設定に依存する。
25	拡張矢印 (ARROW)	複合図形または要素展開 (BLOCK)/(geometry)		MC Helix V4R3 以上で、サポ ート。 設定に依存する。
26	デルタ (DELTA)	複合図形または要素展開 (BLOCK)/(geometry)		設定に依存する。
27	デルタ 2 (DELTA)	複合図形または要素展開 (BLOCK)/(geometry)		設定に依存する。 シンボルの項目を参照。
28	風船 (BALLOON)	複合図形または要素展開 (BLOCK)/(geometry)		設定に依存する。
29	テキスト・ライン (TEXTLINE)	複合図形または要素展開 (BLOCK)/(geometry)		設定に依存する。
30	データム記号	複合図形または要素展開 (BLOCK)/(geometry)		MC Helix V4R3 以上で、サポ ート。 設定に依存する。
31	データム・ターゲット	複合図形または要素展開 (BLOCK)/(geometry)		MC Helix V4R3 以上で、サポ ート。 設定に依存する。
32	面指示記号	複合図形または要素展開 (BLOCK)/(geometry)		MC Helix V4R3 以上で、サポ ート。 設定に依存する。
33	切断線	複合図形または要素展開 (BLOCK)/(geometry)		MC Helix V4R3 以上で、サポ ート。 設定に依存する。
34	パターン (AREAFILL)	複合図形または 要素展開 (BLOCK)/(geometry)		V2 の塗潰しは、未サポート。 設定に依存する。
35	パターン 2 (AREAFILL)	複合図形または 要素展開 (BLOCK)/(geometry)	円、三角形、四角形 (POLYLINE)(SOLID) (SOLID)	設定に依存する。 塗潰しの三角形および四角形は、3 本の線で描いた閉図形と、4 本の 線で描いた閉図形のことである。

No	MC の要素	DWG の要素		コメント
		線幅なし	線幅(塗潰し)あり	
36	部品 (PARTS)	複合図形または要素展開 (BLOCK)/(geometry)		MC Ver 3.0 以上で、サポート。 設定に依存する。 一般部品(LOCALPARTS)、標準部 品(GLOBAL PARTS)のみ。 参照図面(REFERENCE PARTS) は、未サポート。 共有部品は、MC Helix V4R3M1 以上でサポート。
37	投影図 (VIEW)	画層 (LAYER)		設定に依存する。
38	線種 (TYPE)	線種またはカラー (LTYPE)/(COLOR)		
39	カラー (COLOR)	カラー (COLOR)		
40	不表示要素 (NOSHO)			作成しない。
41	オーバーレイ (OVERLAY)			設定に依存する。

b) DWG タイプが R13J の場合

No	MC の要素	DWG の要素		コメント
		線幅なし	線幅(塗潰し)あり	
6	楕円・楕円弧 (ELLIPSE) 楕円・楕円弧の オフセットスプライン (OFFSET SPLINE)	楕円 (ELLIPSE)	ポリライン (POLYLINE)	
7	スプライン (SPLINE) オフセットスプライン (OFFSET SPLINE)	スプライン (SPLINE)	ポリライン (POLYLINE)	
9	円錐曲線 (CONIC) オフセットスプライン (OFFSET SPLINE)	スプライン (SPLINE)	ポリライン (POLYLINE)	
10	注記 (NOTE)	テキストまたはマルチテキスト (TEXT)/(MTEXT)		

注) 上記以外は、10. 1) (2) a) DWG タイプが R12J の場合を参照してください。

c) DWG タイプが R14・2000~の場合

No	MC の要素	DWG の要素		コメント
		線幅なし	線幅(塗潰し)あり	
2	直線 (LINE)	線分 (LINE)	最適化ポリライン (LWPOLYLINE)	
3	折線 (MULTILINE)	最適化ポリライン (LWPOLYLINE)	最適化ポリライン (LWPOLYLINE)	
4	円 (CIRCLE)	円 (CIRCLE)	最適化ポリライン (LWPOLYLINE)	反時計回りに定義する。 始点=終点の場合は、円と判断。
5	円弧 (CIRCLE)	円弧 (ARC)	最適化ポリライン (LWPOLYLINE)	反時計回りに定義する。 始点=終点の場合は、円と判断。
6	楕円・楕円弧 (ELLIPSE) 楕円・楕円弧の オフセットスプライン (OFFSET SPLINE)	楕円 (ELLIPSE)	最適化ポリライン (LWPOLYLINE)	
7	スプライン (SPLINE) オフセットスプライン (OFFSET SPLINE)	スプライン (SPLINE)	最適化ポリライン (LWPOLYLINE)	
8	折線スプライン (LINEAR SPLINE) オフセットスプライン (OFFSET SPLINE)	最適化ポリライン (LWPOLYLINE)	最適化ポリライン (LWPOLYLINE)	
9	円錐曲線 (CONIC) オフセットスプライン (OFFSET SPLINE)	スプライン (SPLINE)	最適化ポリライン (LWPOLYLINE)	
10	注記 (NOTE)	テキストまたはマルチテキスト (TEXT)/(MTEXT)		
11	破断線 2 (BREAKOUT)	最適化ポリライン (LWPOLYLINE)		MC Ver 3.1 以上で、サポート。
17	小丸 (DOT)	複合同形または円 (BLOCK)/(CIRCLE)	複合同形または 最適化ポリライン (BLOCK) (LWPOLYLINE)	設定に依存する。
18	矩形 (RECTANGLE)	複合同形または 最適化ポリライン (BLOCK) (LWPOLYLINE)	複合同形または 2D 塗潰し図形 (BLOCK)/(SOLID)	設定に依存する。
19	三角形 (TRIANGLE)	複合同形または 最適化ポリライン (BLOCK) (LWPOLYLINE)	複合同形または 2D 塗潰し図形 (BLOCK)/(SOLID)	設定に依存する。
35	パターン 2 (AREAFILL)	複合同形または 要素展開 (BLOCK)/(geometry)	円、三角形、四角形 (LWPOLYLINE) (SOLID)(SOLID)	設定に依存する。 塗潰しの三角形および四角形は、3 本の線で描いた閉図形と、4 本の 線で描いた閉図形のことである。

注) 上記以外は、10. 1) (2) a) DWG タイプが R12J の場合を参照してください。

(3) カラー対応表 (DWG ⇒ 図面)

a) 標準処理の場合

DWG カラー番号		MC カラーテーブル番号	
番号	説明	番号	説明
1	レッド	3	レッド
2	イエロー	4	イエロー
3	グリーン	1	グリーン
4	シアン	2	シアン
5	ブルー	10	ダークブルー
6	マゼンタ	5	マゼンタ
7	ホワイト	0	無指定色
上記以外	-	0	無指定色

b) gtcoldef の設定を有効にした場合

DWG カラー番号		MC カラーテーブル番号	
番号	説明	番号	説明
1~255		0~120	
上記以外 ^{注1)}	-	0	無指定色

注 1) gtcoldef の DWG のカラー番号 1~7 の間で、設定していないカラー番号がある場合、表 10. 1) (3) a) 標準処理の場合の DWG のカラー番号 1~7 の欄を参照してください。それ以外は、無指定色になります。

(4) カラー対応表 (図面 ⇒ DWG)

a) 標準処理の場合

MC カラーテーブル番号		DWG カラー番号	
番号	説明	番号	説明
0	無指定色	7	ホワイト
1	グリーン	3	グリーン
2	シアン	4	シアン
3	レッド	1	レッド
4	イエロー	2	イエロー
5	マゼンタ	6	マゼンタ
6	ライトグリーン	3	グリーン
7	ライトレッド	1	レッド
8	オレンジ	1	レッド
9	ブルー	5	ブルー
10	ダークブルー	5	ブルー
11	ダークパープル	6	マゼンタ
上記以外	-	7	ホワイト

b) mkcol.def の設定を有効にした場合

MC カラーテーブル番号		DWG カラー番号	
番号	説明	番号	説明
0~120		1~255	
上記以外 ^{注1)}	-	7	ホワイト

注1) mkcol.def の MC のカラーテーブル番号 0~11 の間で、設定していないカラーテーブル番号がある場合、表 10. 1) (4) a) 標準処理の場合の MC のカラーテーブル番号 0~11 の欄を参照してください。それ以外は、ホワイトになります。

(5) 線種対応表 (DWG ⇒ 図面)

注) この設定は、gtlin.defが存在しない場合のみ、有効になります。gtlin.defの詳細は、10.4) (1) gtlin.defの設定を参照してください。

DWG 線種	MC 線種	
	線種	線幅
CONTINUOUS	実線	中線
DASHED	破線	中線
DASHED2	破線	中線
DASHDX2	破線	中線
HIDDEN	NC ライン	-
HIDDEN2	NC ライン	-
HIDDENX2	NC ライン	-
DOT	破線	中線
DOT2	破線	中線
DOTX2	破線	中線
CENTER	一点鎖線	細線
CENTER2	一点鎖線	細線
CENTERX2	一点鎖線	細線
DASHDOT	一点鎖線	細線
DASHDOT2	一点鎖線	細線
DASHDOTX2	一点鎖線	細線
BORDER	一点鎖線	細線
BORDER2	一点鎖線	細線
BORDERX2	一点鎖線	細線
PHANTOM	二点鎖線	細線
PHANTOM2	二点鎖線	細線
PHANTOMX2	二点鎖線	細線
DIVIDE	二点鎖線	細線
DIVIDE2	二点鎖線	細線
DIVIDEX2	二点鎖線	細線
上記以外	実線	中線
ダッシュの項目数 0	実線	中線
ダッシュの項目数 2	破線	中線
ダッシュの項目数 4	一点鎖線	細線
ダッシュの項目数 6	二点鎖線	細線
上記以外	実線	中線

(6) 線種対応表 (図面 ⇒ DWG)

注) この設定は、mclin.def が存在しない場合のみ、有効になります。mclin.def の詳細は、10.4) (2) mclin.def の設定を参照してください。

a) 線種 1

MC 線種・線幅		DWG 線種
線種	線幅	
実線	太線	CONTINUOUS
実線	中線	CONTINUOUS
実線	細線	CONTINUOUS
破線	中線	DASHED
破線	細線	DASHED
一点鎖線	細線	CENTER
二点鎖線	細線	PHANTOM
NC ライン	中線	HIDDEN
破断線	中線	CONTINUOUS
上記以外	-	CONTINUOUS

b) 線種 2

MC 線種	DWG 線種
実線	CONTINUOUS
破線 1	DASHED
破線 2	DASHED
破線 3	DASHED
破線 4	DASHED
破線 5	DASHED
破線 6	DASHED
一点鎖線 1	CENTER
一点鎖線 2	CENTER
一点鎖線 3	CENTER
一点鎖線 4	CENTER
一点鎖線 5	CENTER
二点鎖線 1	PHANTOM
二点鎖線 2	PHANTOM
二点鎖線 3	PHANTOM
セットバック 1	PHANTOM
セットバック 2	PHANTOM
マッチ	PHANTOM
ステッチ	DASHED
破線 ^{注1)}	DASHED
跳び破線 ^{注1)}	DASHED
点線 ^{注1)}	DASHED
一点鎖線 ^{注1)}	CENTER
二点鎖線 ^{注1)}	PHANTOM
一点短鎖線 ^{注1)}	CENTER
二点短鎖線 ^{注1)}	PHANTOM
三点短鎖線 ^{注1)}	PHANTOM
一点長鎖線 ^{注1)}	CENTER
二点長鎖線 ^{注1)}	PHANTOM
三点長鎖線 ^{注1)}	PHANTOM
一点二短鎖線 ^{注1)}	CENTER
二点二短鎖線 ^{注1)}	PHANTOM
三点二短鎖線 ^{注1)}	PHANTOM
シグザグ線 ^{注1)}	CONTINUOUS
上記以外	CONTINUOUS

注 1) MC Helix V5R2 以上で対応します。

(7) 特殊記号変換表 (DWG ⇒ 図面)

DWG		MC
TEXT	MTEXT	
%%127、%%D、%%d	¥U+00B0	° (度)
%%129、%%190、%%C、%%c	¥U+2205	φ
%%128、%%P、%%p	¥U+00B1	±
%%%	%	%
%%U、%%u	-	_(アンダー・バー)
%%O、%%o	-	¯(アッパー・バー)
%%126	-	¯(アッパー・バー)

上記特殊文字は半角、全角ともサポート範囲です。

例) %%127と%%127は同じ結果として作成します。

(8) 特殊記号変換表 (図面 ⇒ DWG)

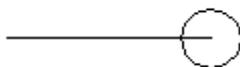
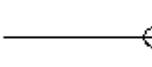
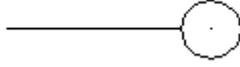
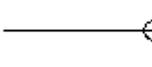
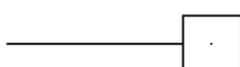
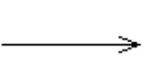
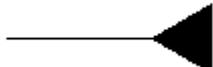
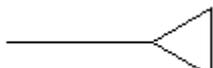
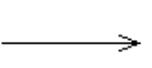
a) DWG タイプが R12J の場合

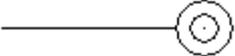
MC	DWG
° (度)	%%D
φ	%%C
±	%%P
%	%%%

b) DWG タイプが R13J~の場合

MC	DWG
° (度)	¥U+00B0
φ	¥U+2205
±	¥U+00B1
%	%

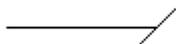
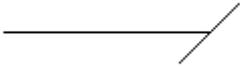
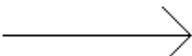
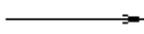
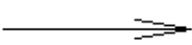
(9) 寸法矢印形状対応表 (DWG ⇒ 図面)

DWG	図面
 なし	 無印
 閉矢印	 矢印
 黒丸	 丸印
 塗り潰し矢印	 塗り潰し矢印
 空矢印	 矢印
 ティック	 斜線
 ティック(太)	 斜線
 開矢印	 10° 矢印
 白丸	 丸印
 直角矢印	 45° 矢印
 30度開矢印	 矢印
 空白丸	 丸印
 子黒丸	 丸印
 塗り潰し四角	 矢印
 空白四角	 矢印
 塗り潰しデータム	 矢印
 空白データム	 矢印
 波型	 斜線

DWG	図面
 白丸2	 丸印
 小空白丸	 丸印

注) この設定は、gtarw.def の設定を行っていない場合のみ、有効になります。

(10) 寸法矢印形状対応表 (図面 ⇒ DWG)

図面	DWG
 無印	 なし
 丸印	 黒丸
 丸印+	 黒丸
 斜線	 ティック
 斜線+	 ティック
 矢印	 30度開矢印
 45° 矢印	 直角矢印
 60° 矢印	 直角矢印
 10° 矢印	 開矢印
 塗潰し矢印	 塗り潰し矢印

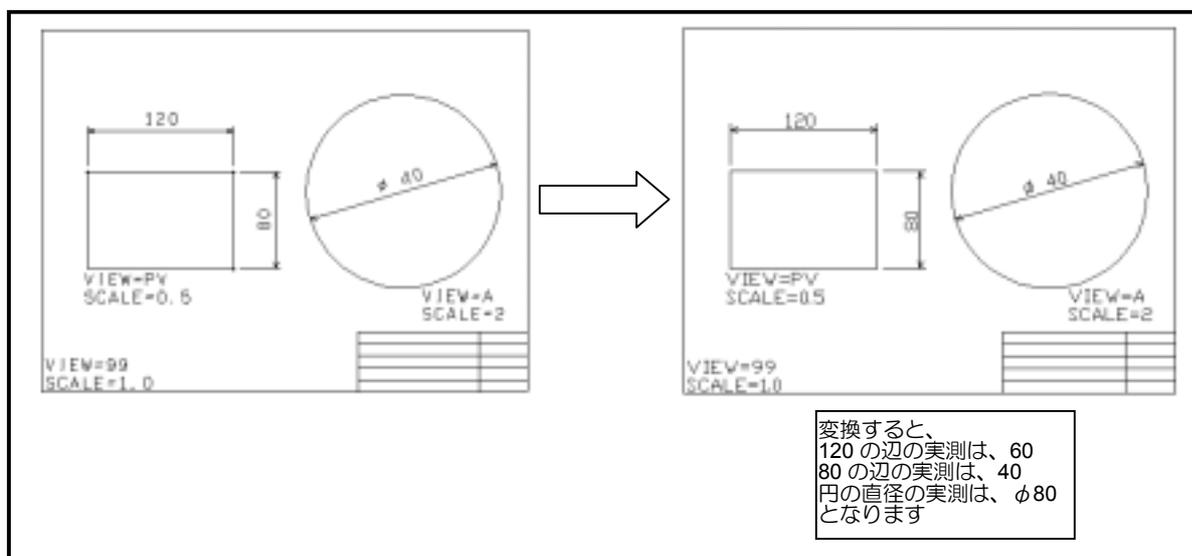
注) この設定は、mkarw.def の設定を行っていない場合のみ、有効になります。

(11) ビュースケール反映図 (図面 ⇒ DWG)

設定によりビュースケールの反映方法が変わります

a) 擬似図面で変換する場合

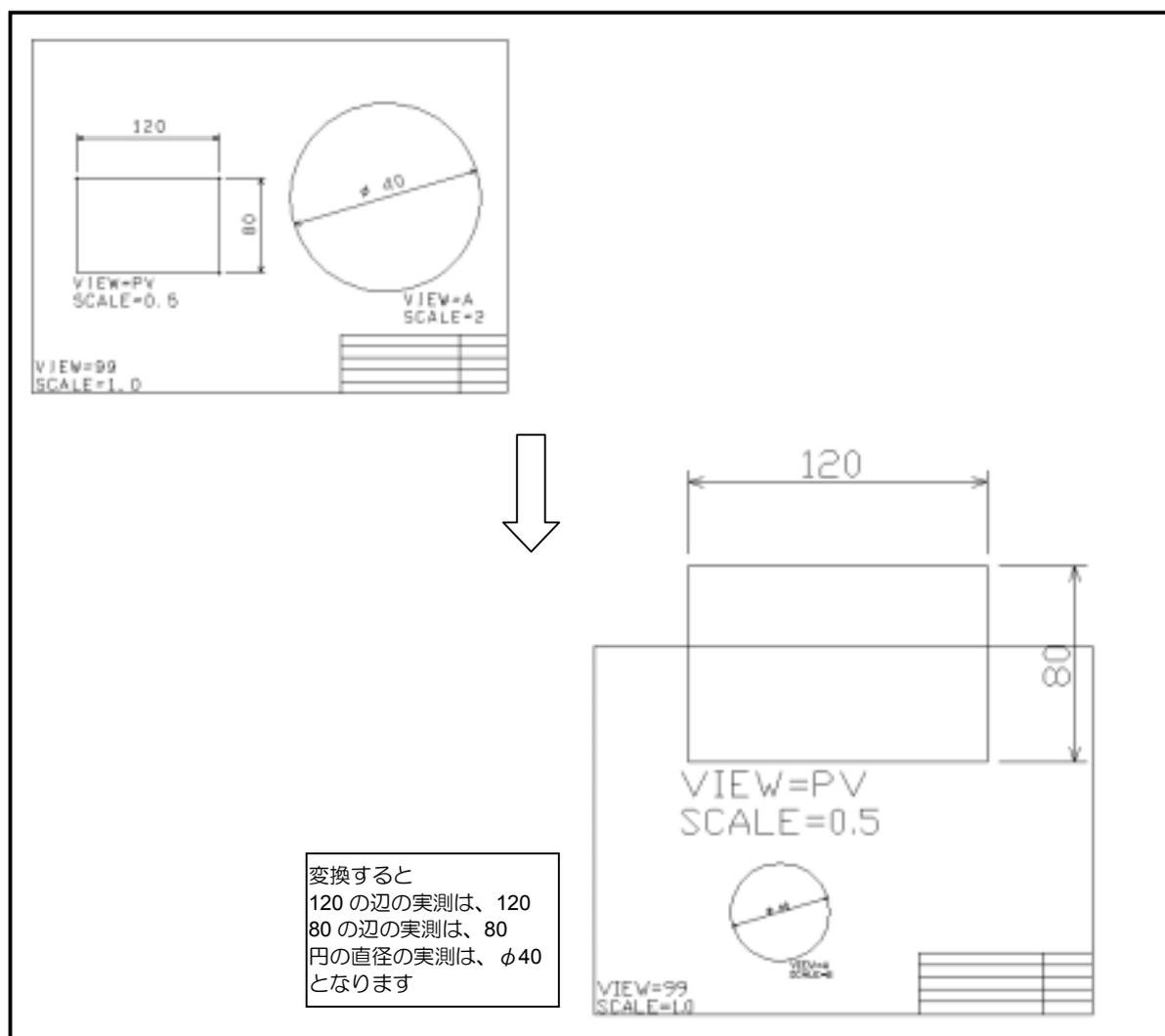
設定項目のビュースケールをペーパーに設定。



b) 実尺図面で変換する場合

設定項目のビュースケールをビューに設定。

注) ビューPVにスケールがかかっている場合は、PVのスケール分、他のビューの原点が移動します。

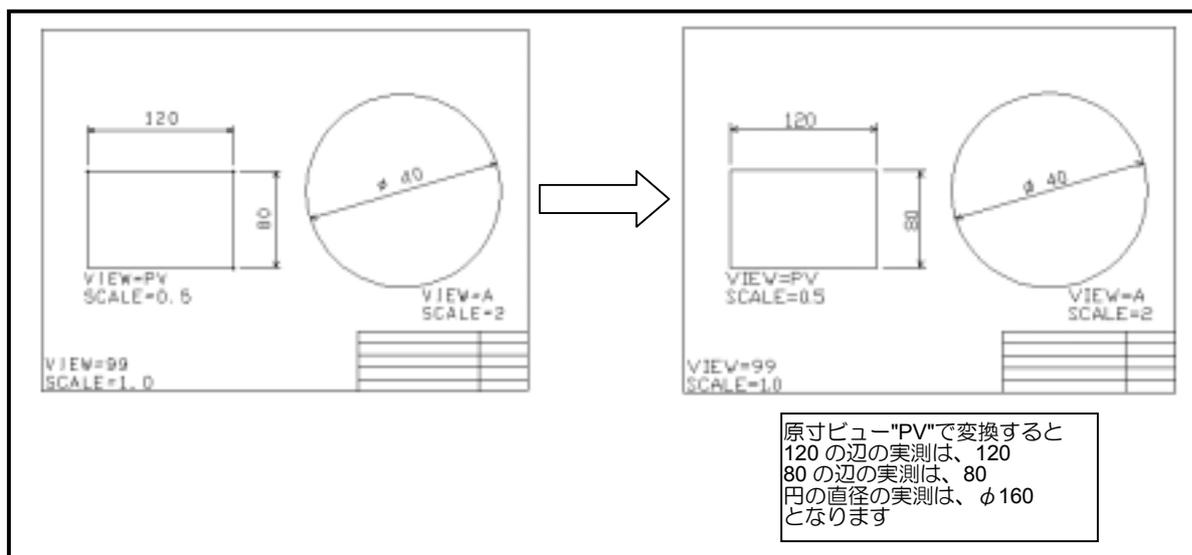


c) 実尺図面に変換する場合

 設定項目のビュースケールをペーパーに設定。

 ・ dwgenv.sys ファイル

REALSCALEVIEWNAME= 原寸ビュー名を設定



2) 制約事項

ここでは、DWG えもんの制約事項について説明します。
ターゲットとなるAutoCADのバージョンを下記の記号で項目の右側に提示しています。
ご使用のAutoCADのバージョンと同じ項目を参照してください。

★AutoCAD のバージョンとその記号

AutoCAD のバージョン	記号
R12J	Ⓘ12
R13J	Ⓘ13
R14	Ⓘ14
2000～	Ⓘ2000

(1) DWG ⇒ 図面変換

a) 元素要素

① CIRCLE

R12/R13/R14/2000

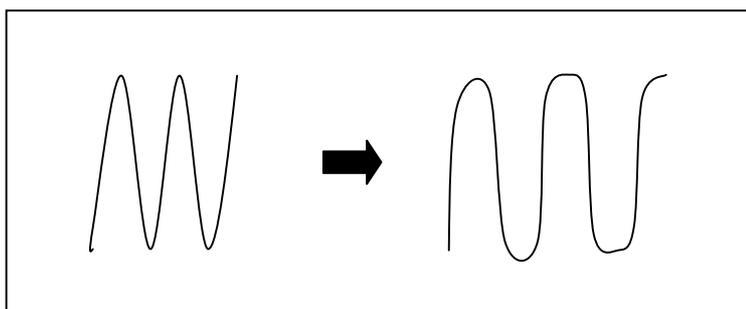
CIRCLE の始点角、終点角が同一の場合は、作成しません。

② POLYLINE

R12/R13/R14/2000

DWG えもんの設定項目の『POLYLINE』を以下のように指定します。

値	説明
スプライン	鋭利な形状の場合、下図のようになる。 また、2点の場合は、下の表の条件に従って、作成する。
円弧	見た目のままで作成する。



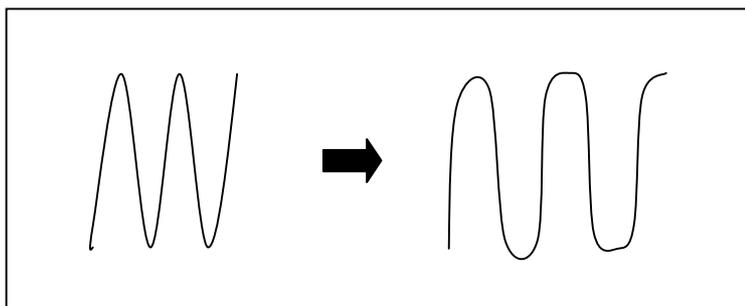
	膨らみあり	膨らみなし
閉じている	CIRCLE (ただし、BLOCK のデータで BLOCK 名が「DOT」、また は「_DOT」の場合は、 SYMBOL の小丸に作成)	LINE
開いている	ARC	LINE

③ LWPOLYLINE

R14 2000

DWG えもんの設定項目の『POLYLINE』を以下のように指定します。

値	説明
スプライン	鋭利な形状の場合、下図のようになる。 また、2点の場合は、下の表の条件に従って、作成する。
円弧	見た目のままで作成する。



	膨らみあり	膨らみなし
閉じている	CIRCLE (ただし、BLOCK のデータで BLOCK 名が「DOT」、または 「_DOT」の場合は、 SYMBOL の小丸に作成)	LINE
開いている	ARC	LINE

④ TEXT

R12 R13 R14 2000

DWG えもんの設定項目の『DWG タイプ』を以下のように指定します。

値	説明
AutoCAD	ポジションは両端揃え、フィットは左下に作成する。それ以外は元図と同じように作成する。
その他	ポジションは、全て左下に作成する。

⑤ MTEXT

R13 R14 2000

DWG えもんの設定項目の『**DWG タイプ**』を以下のように指定します。

値	説明
AutoCAD	ポジションは、元図と同じように作成する。
その他	ポジションは、全て左下に作成する。

1つの文字列の中で、幅・高さ・カラーを変更した場合は、変更毎に文字列を分割して作成します。

フォントの変更は、作成しません。

描画方向の「上から下」と「下から上」を使用した文字列は、水平に書かれた文字列として作成します。

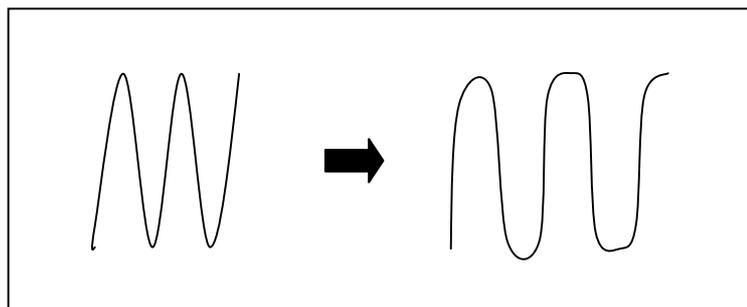
書式コードの「¥F」は、未サポートです。

また、描画方向(コード 72)の「3」と「4」も未サポートです。

⑥ SPLINE

R13 R14 2000

AutoCAD(R13J~)の SPLINE を MC に作成すると、鋭利な形状の場合、下図のようになります。



B-SPLINE(3次)は、作成できます。それ以外は、形状が変わります。

⑦ BLOCK

R12/R13/R14/2000

DWG えもんの設定項目の『BLOCK』を以下のように指定します。

値	説明
子図	子図として作成する。 カラーは、INSERT のカラーで作成する。
展開	INSERT しているレイヤーに要素展開して作成する。 カラーは、BLOCK 内の要素のカラーで作成する。

BLOCK 名は、KOZU1、KOZU2…になります。

MC の図面互換モードが、V2 単精度か V2 倍精度で、エラーメッセージが「ビュー、子図が 64 個を超えます」の場合、次の表の設定を参考にして『LAYER』を設定してください。

- ・ DWG => MC のペーパー空間の設定が『オフ』の場合

	ビュー毎	展開
子図	BLOCK 数+LAYER 数が 64 個以下は、作成可能。	BLOCK 数+LAYER 数が 64 個超でも作成可能な場合がある。 作成可能な例) BLOCK=60、LAYER=10
展開	BLOCK 数+LAYER 数が 64 個超でも作成可能な場合がある。 作成可能な例) BLOCK=60、LAYER=10	BLOCK 数+LAYER 数が 64 個超でも作成可能。 例) BLOCK=80、LAYER=80

BLOCK の配置スケールは、X 方向のスケールのみ参照します。

- ・ DWG => MC のペーパー空間の設定が『オン』の場合

MC の図面互換モードを、『V3 図面』にしてください。

⑧ DIMENSION

R12 R13 R14 2000

DWG えもんの設定項目の『寸法』を以下のように指定します。

値	説明
寸法	寸法として作成する。 ただし、寸法スタイル定義と BLOCK の要素の整合性が取れていない場合、および MC に存在していない形状の場合は、要素展開して作成する。
展開	DIMENSION が存在するレイヤーに要素展開して作成する。

注) MC ベースモジュールのバージョンが 2.* 対応の場合は、DWG タイプを AutoCAD で作成すると、寸法線が 2 本以上ある寸法の矢尻形状を無印として作成します。

DWG えもんの設定項目の『DWG タイプ』を以下のように指定します。

値	説明
AutoCAD	ブロック内の要素を、そのまま作成する。ただし、寸法タイプ(ISO、ANSI)が異なる場合は、要素展開して作成する。
その他	DIMENSION の定義点のみを基にして作成するので、形状が異なる場合がある。

⑨ TRACE

R12 R13 R14 2000

AREAFILL として作成します。

⑩ SOLID

R12 R13 R14 2000

AREAFILL として作成します。

⑪ ATTLIB

R12 R13 R14 2000

表示状態のものは、TEXT として作成します。
文字列の制約は、TEXT と同様です

⑫ LAYER

R12 R13 R14 2000

DWG えもんの設定項目の『LAYER』を以下のように指定します。

注) オプションの『ペーパー空間サポート』を追加されている場合は、DWG => MC のペーパー空間の設定が『オフ』の場合のみ、有効となります。

値	説明
ビュー毎	AutoCAD のレイヤーを MC のビューに 1 つずつ対応させて作成する。 (表 1 を参照)
対話モード版の場合	
展開	カレント図面に追加する場合は、カレント図面にビューを 1 つ追加して、全てのレイヤー要素を追加したビューに作成する。(表 2 を参照) 上記以外は、全てのレイヤー要素をビューPV に作成する。(表 3 を参照)
バッチモード版の場合	
展開	全てのレイヤー要素をビューPV に作成する。

表 1

LAYER	ビュー
0 or DEFPOINTS	PV
その他	A1、A2…

表 2

LAYER	ビュー
	PV…
0 or DEFPOINTS or その他	A1

表 3

LAYER	ビュー
0 or DEFPOINTS or その他	PV

⑬ 線種

R12 R13 R14 2000

10. 1) (5) 線種対応表 (DWG ⇒ 図面) を参照してください。

- ⑭ 線幅** R12 R13 R14 2000
- 線幅を付加した要素は、開始幅の値で線幅を付加して作成します。
文字フォントの幅は、作成しません。
また、カラーテーブルを使用して作成する場合は、カラーテーブルの設定に従います。
AutoCAD2000 から、各要素にコード 370 で線幅が付加できます。この線幅がある場合は、この線幅値を優先します。
DIMENSION の線幅は、未サポートです。
- ⑮ カラー** R12 R13 R14 2000
- カラーテーブルを使用して作成する場合は、カラーテーブルの設定に従います。この場合は、256 色まで対応します。
- ⑯ HATCH** R12 R13
- AutoCAD(～R13J)の HATCH の場合は、DWG に BLOCK として作成します。そのため、BLOCK の項目と同様の制約になります。
- ⑰ LEADER** R13 R14 2000
- ARROW-1 と MULTILINE、または ARROW-1 と SPLINE として作成します。
- ⑱ XLINE** R13 R14 2000
- 無限直線(508000mm)として作成します。
- ⑲ RAY** R13 R14 2000
- 半無限線(254000mm)として作成します。
- ⑳ 図面範囲** R12 R13 R14 2000
- \$LIMMIN、\$LIMMAX が存在する場合は、この値をプロットデータとして作成します。\$LIMMIN、\$LIMMAX が存在しない場合は、\$EXTMIN、\$EXTMAX の値を使用します。どちらも存在しない場合は、プロットデータなしとして作成します。

⑳ 3DFACE R12 R13 R14 2000

MULTILINE で作成します。面の概念は作成しません。

㉑ ATTDEF R12 R13 R14 2000

表示状態のものは、TEXT として作成します。BLOCK 内のものは、作成しません。文字列の制約は、TEXT と同様です。

㉒ REGION R13 R14 2000

未サポートです。

㉓ SHAPE R12 R13 R14 2000

未サポートです。

㉔ 3DSOLID R12 R13 R14 2000

XY 平面に表示している形状で作成します。3DSOLID を組み合わせた複雑な形状は、作成しません。

㉕ VIEWPORT R12 R13 R14 2000

未サポートです。

㉖ BODY R13 R14 2000

未サポートです。

㉗ ARCALIGNEDTEXT 2000

1 文字ずつ展開した TEXT として作成します。

注) AutoCAD2000 からのサポートです。

②9 RTEXT

2000

未サポートです。

③0 作図単位

R14, 2000

\$MEASUREMENT が存在する場合は、作図単位通りに作成します。

③1 MESH

2000

未サポートです。

(2) 図面 ⇒ DWG 変換

a) 元素要素

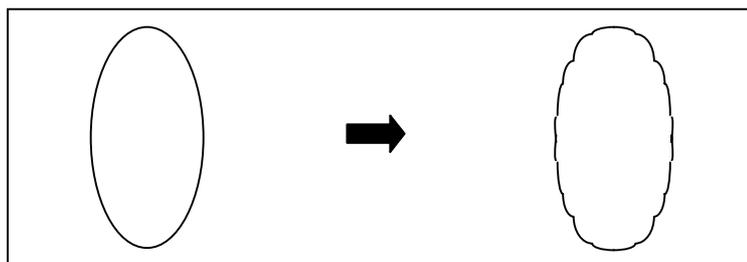
① 楕円

R12 R13 R14 2000

DWG えもんの設定項目の『**DWG タイプ**』を以下のように指定します。

値	説明
R12J	POLYLINE として作成する。
R13J	線幅付き楕円は、POLYLINE として作成する。
R14	線幅付き楕円は、LWPOLYLINE として作成する。
2000	
2004	
2007	
2010	
2013	

ただし、下図のように形状が、変わります。



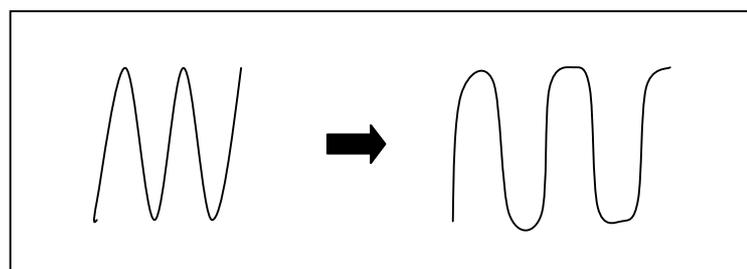
② スプライン

R12 R13 R14 2000

DWG えもんの設定項目の『**DWG タイプ**』を以下のように指定します。

値	説明
R12J	全て POLYLINE として作成する。
R13J	線幅付きスプラインは、POLYLINE として作成する。
R14	線幅付きスプラインは、LWPOLYLINE として作成する。
2000	
2004	
2007	
2013	

ただし、鋭利な形状の場合、下図のようになります。



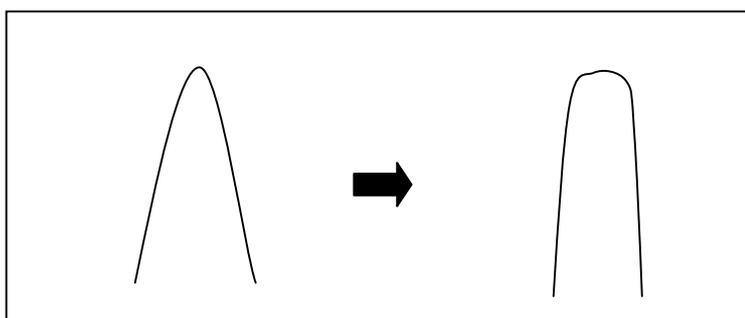
③ 円錐曲線

R12/R13/R14/2000

DWG えもんの設定項目の『**DWG タイプ**』を以下のように指定します。

値	説明
R12J	全て POLYLINE として作成する。
R13J	線幅付き円錐曲線は、POLYLINE として作成する。
R14	線幅付き円錐曲線は、LWPOLYLINE として作成する。
2000	
2004	
2007	
2013	

ただし、鋭利な形状の場合、下図のようになります。



④ 注記

R12/R13/R14/2000

DWG えもんの設定項目の『**DWG タイプ**』を以下のように指定します。

値	説明
R12J	全て TEXT として作成し、ポジションは左下になる。この場合、文字の基準点計算で補正計算を行う。 ただし、計算誤差のため、文字位置が多少変わる。
R13J	基本的には MTEXT として、ポジションは元図と同じように作成する。
R14	ただし、MC のポジションで、AutoCAD に無いものを使用した場合は、TEXT としてポジションも左下になる。ミラー文字の場合も TEXT として上記と同じように作成する。
2000	ポジションを元図と同じように作成した場合、CAD 間のポジションに誤差が生じるため、文字位置が多少変わる。
2004	
2007	
2010	
2013	

⑤ 寸法要素

R12 R13 R14 2000

DWG えもんの設定項目の『寸法』を以下のように指定します。

値	説明
寸法	DIMENSION として作成する。 ただし、AutoCAD に存在していない形状の場合は、BLOCK として作成し INSERT により配置する。 また、寸法引き出し線付きの場合は、DIMENSION と LEADER の 2 要素で作成する。
展開	その寸法が存在するビューに要素展開して作成する。

⑥ 子図

R12 R13 R14 2000

DWG えもんの設定項目の『子図』を以下のように指定します。

値	説明
BLOCK	BLOCK として作成する。 ただし、AutoCAD に存在していない形状の場合は、BLOCK として作成し INSERT により配置する。 カラーは、子図配置のカラーで作成する。
展開	子図配置しているビューに要素展開して作成する。 設定項目の寸法を【寸法】に設定した場合、子図内の寸法は展開する。 カラーは、子図内の要素のカラーで作成する。

BLOCK として作成する場合は、『子図名テンプレート』で設定した名称で作成します。子図名テンプレートは全体 8 桁で設定します。

前 4 桁	テンプレートを設定	半角英数で設定
後 4 桁	(10000-子図数)の値を設定	半角数字で設定

⑦ ユーザー・シンボル

R12 R13 R14 2000

DWG えもんの設定項目の『シンボル』を以下のように指定します。

値	説明
BLOCK	BLOCK として作成する。
展開	シンボル配置しているビューに要素展開して作成する。 設定項目の寸法を【寸法】に設定した場合、ユーザー・シンボル内の寸法は展開する。

BLOCK として作成する場合は、『子図名テンプレート』で設定した名称で作成します。子図名テンプレートは全体 8 桁で設定します。

前 4 桁	テンプレートを設定	半角英数で設定
後 4 桁	(10000-ユーザ・シンボル数)の値を設定	半角数字で設定

⑧ シンボル

R12/R13/R14/2000

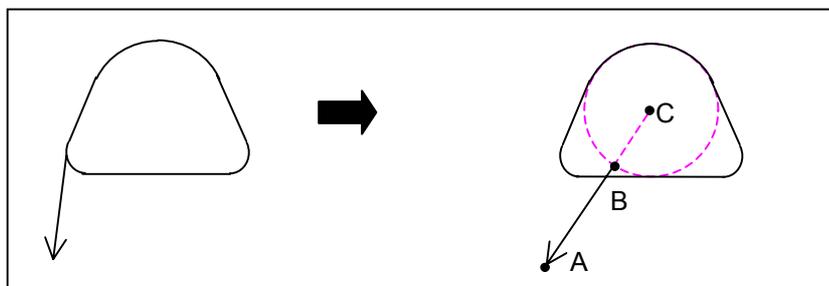
DWG えもんの設定項目の『シンボル』を以下のように指定します。

値	説明
BLOCK	BLOCK として作成する。
展開	シンボル配置しているビューに要素展開して作成する。

BLOCK として作成する場合は、『子図名テンプレート』で設定した名称で作成します。子図名テンプレートは全体 8 桁で設定します。

前 4 桁	テンプレートを設定	半角英数で設定
後 4 桁	(10000-シンボル数)の値を設定	半角数字で設定

ただし、MC の図面互換モードが、V3.0 倍精度の場合、デルタの矢印は、A を始点、B を終点とした形状になります。(下図参照)



- ・ A は、矢印の始点。
- ・ B は、A と C を結んだ直線と内接円との交点(矢印の終点)。
- ・ C は、デルタの内接円の中心。

⑨ パターン

R12/R13/R14/2000

DWG えもんの設定項目の『子図』を以下のように指定します。

値	説明
BLOCK	BLOCK として作成する。
展開	パターン配置しているビューに要素展開して作成する。

BLOCK として作成する場合は、『子図名テンプレート』で設定した名称で作成します。子図名テンプレートは全体 8 桁で設定します。

前 4 桁	テンプレートを設定	半角英数で設定
後 4 桁	(10000-パターン数)の値を設定	半角数字で設定

⑩ 部品

R12 R13 R14 2000

DWG えもんの設定項目の『部品』を以下のように指定します。

値	説明
BLOCK	BLOCK として作成する。
展開	部品配置しているビューに要素展開して作成する。 設定項目の寸法を【寸法】にした場合、部品内の寸法は展開する。

BLOCK として作成する場合は、『子図名テンプレート』で設定した名称で作成します。子図名テンプレートは全体 8 桁で設定します。

前 4 桁	テンプレートを設定	半角英数で設定
後 4 桁	(10000-部品数)の値を設定	半角数字で設定

⑪ 属性

R12 R13 R14 2000

未サポートです。

⑫ ビュー

R12 R13 R14 2000

DWG えもんの設定項目の『ビュー』を以下のように指定します。

値	説明
LAYER	MC のビューを AutoCAD のレイヤーに 1 つずつ対応させて作成する。 (下の表を参照)
無効	全てのビューの要素を LAYER 0 に作成する。 また、線種別カラーテーブルを使用して作成する場合は、線種別カラーテーブルの設定に従い、線種(太・中・細)とレイヤーを対応させ、レイヤー名もこちらの設定を使用して作成する。

ビュー	LAYER
PV	0
その他	1、2…

⑬ 線種

R12 R13 R14 2000

10. 1) (6) 線種対応表 (図面 ⇒ DWG) を参照してください。

⑭ 線幅 R12 R13 R14 2000

DWG えもんの設定項目の『**DWG タイプ**』を以下のように指定します。

値	説明
R12J R13J	線幅を付加した要素(文字線幅は除く)は、POLYLINE として作成する。
R14 2000 2004 2007 2010 2013	線幅を付加した要素(文字線幅は除く)は、LWPOLYLINE として作成する。

カラー・レイヤーテーブルを使用して作成する場合は、カラー・レイヤーテーブルの設定に従います。

⑮ カラー R12 R13 R14 2000

カラー・レイヤーテーブルを使用して作成する場合は、カラー・レイヤーテーブルの設定に従います。この場合は、256 色まで対応します。

⑯ プロットデータ R12 R13 R14 2000

プロットデータが存在する場合は、DWG のヘッダーセクションの下記の項目に作成します。

- ・ \$EXTMIN , \$EXTMAX
- ・ \$LIMMIN , \$LIMMAX
- ・ \$PLIMMIN , \$PLIMMAX

⑰ 単位 R14 2000

インチ・フィートは、DWG のインチ/フィートで作成します。また、ミリメートル・センチメートル・メートルは、DWG のメートルで作成します。

⑱ 副座標 R12 R13 R14 2000

未サポートです。
副座標は MC 表示上のみで有効となり、その情報を書き出すことはできません。

⑲ レイヤー R12 R13 R14 2000

未サポートです。
レイヤー分けを行いたい場合は、レイヤーテーブルを使用してください。

3) dwgenv.sys の設定

a) ファイル概要

このファイルは、MC図面⇒DWG、DWG⇒MC図面変換時に使用します。
変換についての詳細設定を行うことができます。

このファイルは、エディターにて編集してください。

注) メニュー【オプション】【dwgenv.sys】から編集できます。

b) ファイル設定内容

dwgenv.sys の 1 例を以下に示します。

DIMTAD=0	-----	①
UNITS=0	-----	②
PLINEARC=0	-----	③
MLINEEXP=0	-----	④
DEFPNTGT=0	-----	⑤
DIMTXTPOS=0	-----	⑥
GTSPACECHG=0	-----	⑦
GTPSVIEW=PV	-----	⑧
LWIDTHGT=0	-----	⑨
LENDGT=0	-----	⑩
LAYERNAME TO VIEWNAME=0	-----	⑪
BLOCKNAME TO DETAILNAME=0	-----	⑫
SPLNOT=0	-----	⑬
VWSCL=0	-----	⑭
TXACTYP=0	-----	⑮
MTXTAUTO=0	-----	⑯
TXTPITADJGT=0.0	-----	⑰
DWGNAME MAX=0	-----	⑱
DWGNAME TOP=0	-----	⑲
COLTBLCHG=0	-----	⑳
DIMGAP=0.0	-----	㉑
SPACECHG=0	-----	㉒
PSVIEW=PV	-----	㉓
PSPLTOUT=0	-----	㉔
PLTSTLNAME=	-----	㉕
DEFPNTMK=0	-----	㉖
DIMVALOVRWRT=0	-----	㉗
DIMDEC=9	-----	㉘
DRWSORT=0	-----	㉙
TXTOUPTYP=0	-----	㉚

LWIDTHMK=0	-----	31
DITANGCHG=1	-----	32
BRKLINCHG=0	-----	33
LTSCALE=0.0	-----	34
SPLOUTTYP=0	-----	35
ELPOUTTYP=0	-----	36
VIEWNAMETOLAYERNAME=0	-----	37
DETAILNAMETOBLOCKNAME=0	-----	38
SPLDIVNUM=0	-----	39
CNCDIVNUM=0	-----	40
FMTCNV=0	-----	41
FMTVOL=C:CAD,FORMAT	-----	42
FMTPTH=MCLOCAL:C:¥MCADA	-----	43
M¥CAD¥FORMAT	-----	44
ELPOSTCRV=1	-----	44
REALSCALEVIEWNAME=	-----	45
ARCOUTTYP=0	-----	46
TXTPIADJMK=0.0	-----	47
TXTSPAMK=0	-----	48
WAROFF=0	-----	49
ANGDIMADJTYP=0	-----	50

(a) 設定内容(半角文字で設定します)

・DWG ➔ 図面変換

① DIMTAD=【寸法タイプ】
寸法タイプを設定します。

値	説明
1	ISO 寸法で作成する。
2	ANSI 寸法で作成する。
上記以外	デフォルトで作成する。

② UNITS=【単位系】
図面の単位系を設定します。

値	説明
1	図面の単位系をインチで作成する。
2	図面の単位系をフィートで作成する。
3	図面の単位系をミリメートルで作成する。
4	図面の単位系をセンチメートルで作成する。
5	図面の単位系をメートルで作成する。
上記以外	デフォルトで作成する。

③ PLINEARC=【フラグ】

ポリラインの構成点が同一円周上にある場合、1つの円弧として作成するかどうかを設定します。

注) この設定は、変換条件設定の POLYLINE を '円弧' に設定している場合のみ、有効です。

値	説明
1	1つの円弧として作成する。
上記以外	構成点毎に円弧を作成する。

④ MLINEEXP=【フラグ】

マルチラインとして作成される要素^{注1)}を、セグメント毎に直線として作成するかどうかを設定します。

注1) 3DFACE, 3DSOLID の折れ線部分, MLINE, POLYLINE, LWPOLYLINE, LEADER の折れ線部分の要素。

値	説明
1	セグメント毎に直線として作成する。
上記以外	マルチラインとして作成する。

⑤ DEFPNTGT=【フラグ】

寸法要素の点を削除するかどうかを設定します。

注) この設定は、変換条件設定の寸法を '展開' に設定しているかまたは、特殊な寸法を変換する場合のみ、有効です。

値	説明
1	寸法要素の点を削除する。
上記以外	寸法要素の点を削除しない。

⑥ DIMTXTPOS=【フラグ】

文字位置合わせタイプが中央の場合に、文字位置を補正するかどうかを設定します。

注) この設定は、DWG タイプを AutoCAD に設定している場合のみ、有効です。

値	説明
1	文字位置を補正する。
上記以外	デフォルトで作成する。

⑦ GTSPACECHG=【フラグ】

ペーパー空間の見た目で変換するかどうかを設定します。

注) この設定は、オプションの『ペーパー空間サポート』を追加されている場合のみ、有効です。

値	説明
0	モデル空間の見た目で変換する。
1	ペーパー空間の見た目で変換する。

⑧ GTPSVIEW=【ビュー名】

ペーパー空間の要素を、設定したビュー名に変換します。

注) この設定は、オプションの『ペーパー空間サポート』を追加されている場合のみ、有効です。

⑨ LWIDTHGT=【フラグ】

線幅を無効にするかどうかを設定します。

値	説明
1	線幅を無効にする。
上記以外	線幅を有効にする。

⑩ LENDGT=【フラグ】

線幅付き要素の先端形状を設定します。

値	説明
0	ラウンドで作成する。
1	スクエアで作成する。
2	フラットで作成する。
上記以外	ラウンドで作成する。

⑪ LAYERNAMETOVIEWNAME=【フラグ】

レイヤー名を MC のビュー名に割り当てるかどうかを設定します。

注) レイヤー名全てが2バイト以内かつ半角英数文字の場合のみ有効です。それ以外のレイヤーが1つでも含まれる場合は、全て固定(PV,A1,A2.....)で変換されます。

値	説明
1	割り当てる。
上記以外	割り当てない(PV,それ以外は A1,A2...で変換)。

⑫ BLOCKNAMETODETAILNAME=【フラグ】

BLOCK 名を MC の子図名に割り当てるかどうかを設定します。

注) BLOCK 名が 8 バイト以内かつ半角文字の場合のみ有効です。それ以外の BLOCK については、子図名なしで変換されます。

値	説明
1	割り当てる。
上記以外	割り当てない(KOZU1,KOZU2...で変換)。

⑬ SPLNOT=0【フラグ】

スプラインを近似値計算して変換するかどうかを設定します。

値	説明
1	近似値計算する。
上記以外	構成点を参照する。

⑭ VWSCL=【ビュースケール】

作成される図面のビュースケールを設定します。

値	説明
0.0001～ 1.000.0	指定したビュースケールで作成する。
上記以外	ビュースケール 1.0 で作成する。

⑮ TXTACTYP=【フラグ】

文字位置をそのまま渡すか、左下補正するかを設定します。

値	説明
1	文字位置はそのままで作成する。
2	文字位置は左下補正して作成する。
上記以外	DWG タイプに依存する。

⑯ MTEXTAUTO=【フラグ】

MTEXT の自動改行処理をするかどうかを設定します。

値	説明
1	自動改行処理を行わない。
上記以外	自動改行処理を行う。

⑰ TXTPITADJGT=【文字幅比率】

文字の高さに対する文字幅比率を設定します。

値	説明
0.001 以上	設定した文字幅比率で補正し作成する。
上記以外	通常の文字幅補正で作成する。

50 ANGDIMADJTYP=【フラグ】

角度寸法を標準形状に近い形で変換するかどうかを設定します。

注) この設定は、DWG タイプをその他に設定している場合かつ寸法を寸法として変換する設定の場合のみ、有効です。

値	説明
1	角度寸法を標準形状に近い形で変換する。
上記以外	角度寸法を通常の自動調整で変換する。

・ 図面 ➔ DWG 変換

⑱ DWGNAMEMAX=【文字数】(バッチモード版のみ)

DWG 名の最大文字数を設定します。

値	説明
1~20	設定した文字数で DWG 名を表示する。
上記以外	デフォルトの文字数で DWG 名を表示する。

⑲ DWGNAMETOP=【先頭桁数】(バッチモード版のみ)

MC 図面名の先頭桁数を設定します。

値	説明
1~20	設定した先頭桁数以降の MC 図面名を DWG 名のデフォルトとして使用する。(例を参照)
上記以外	デフォルトの桁数で MC 図面名を DWG 名のデフォルトとして使用する。(例を参照)

例 1) DWGNAMETOP=3 と設定すると、次のようになります。

MC 図面名	DWG 名
1234567	34567.dwg

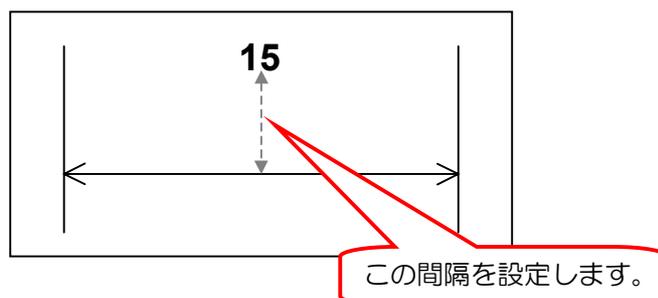
例 2) DWGNAMEMAX=2、DWGNAMETOP=3 と設定すると、次のようになります。

MC 図面名	DWG 名
1234567	34.dwg

- ⑳ COLTBLCHG=【フラグ】 《設定不可項目》
有効にするカラー・レイヤーテーブルを設定します。

- ㉑ DIMGAP=【間隔】
寸法線と寸法注記の間隔を設定します。(下図参照)
単位は、mm です。

注) この設定は、DWGタイプが12Jの場合は、無効です。



- ㉒ SPACECHG=【フラグ】
ペーパー空間の要素として変換するかどうかを設定します。

注) この設定は、オプションの『ペーパー空間サポート』を追加されている場合のみ、有効です。

値	説明
0	モデル空間の要素として、変換する。
1	ペーパー空間の要素として、変換する。

注) SPACECHG=1にした場合、AutoCAD 上ではペーパー空間で表示します。

- ㉓ PSVIEW=【ビュー名】
ペーパー空間の要素として変換するビュー名を設定します。

注) この設定は、オプションの『ペーパー空間サポート』を追加されている場合のみ、有効です。

設定しているビューの要素は、モデル空間の要素として変換しません。また、複数のビューを設定可能です。複数のビューを設定する場合は、カンマ(,)で区切ってください。

注) 図面に、プロットデータがある場合、プロットデータ内の要素は、ペーパー空間の要素として変換します。プロットデータ外の要素は、モデル空間の要素として変換します。

注) ビュー名を設定していない場合は、全てモデル空間の要素として変換します。

②4 PSPLTOUT=【フラグ】

プロット枠外の要素をペーパー空間の要素として変換するかどうかを設定します。

注) この設定は、オプションの『ペーパー空間サポート』を追加されている場合のみ、有効です。

値	説明
0	プロット枠内の要素のみペーパー空間の要素として変換する。
1	プロット枠外の要素もペーパー空間の要素として変換する。

注) この設定は、DWG タイプが 2000~の場合のみ有効です。

“PSVIEW” で設定したビューの要素を、ペーパー空間の要素として変換します。

②5 PLTSTLNAME=【印刷スタイルテーブル名】

AutoCAD の印刷スタイルテーブル名を設定します。

②6 DEFPNTMK=【フラグ】

寸法要素の点を削除するかどうかを設定します。

値	説明
1	寸法要素の点を削除する。
上記以外	寸法要素の点を削除しない。

②7 DIMVALOVRWRT=【フラグ】

寸法値を上書きして、固定するかどうかを設定します。

注) この設定は、変換条件設定の寸法タイプを‘擬尺’に設定している場合のみ、有効です。

値	説明
1	寸法値を固定する。
上記以外	寸法値を固定しない。

②8 DIMDEC=【桁数】

AutoCAD 側で、編集時に表示される寸法の小数点以下の桁数を設定します。

値	説明
0~8	設定した桁数で作成する。
上記以外	MCADAMX.SYS で指定した桁数で作成する。

②9 DRWSORT=【フラグ】（バッチモード版のみ）
MC 図面リストの表示順序を設定します。

注) V3.18、V4R1、V4R2 用は、DRWSORT=0,1,2 のみ有効となります。

値	説明
0	アクセスコアで取得した順番で表示する。
1	図面名の昇順で表示する。
2	図面名の降順で表示する。
3	作成日の昇順で表示する。
4	作成日の降順で表示する。
5	更新日の昇順で表示する。
6	更新日の降順で表示する。
上記以外	アクセスコアで取得した順番で表示する。

③0 TXTOUTTYP=【フラグ】
文字列を TEXT で作成するかどうかを設定します。

注) R12j 形式で変換する場合は、設定に関係なく TEXT になります。

値	説明
1	TEXT で作成する。
上記以外	MTEXT で作成する。

③1 LWIDTHMK=【フラグ】
線幅を無効にするかどうかを設定します。

値	説明
1	線幅を無効にする。
上記以外	線幅を有効にする。

③2 DITANGCHG=【フラグ】
子図の変換処理を切り替えます。

注) 子図が回転する現象が発生した場合は、現在登録している値を変更してください。0 の場合は 1 に、1 の場合は 0 にします。

値	説明
0	変換パターン1 で作成します。
1	変換パターン2 で作成します。

③③ BRKLINCHG=【フラグ】

破断線を LINE で作成するかどうかを設定します。

値	説明
1	LINE で作成する。
上記以外	POLYLINE で作成する。

③④ LTSCALE=【線種尺度】

線種尺度を設定します。

値	説明
正の実数	指定した線種尺度で作成する。
上記以外	線種尺度 1.0 で作成する。

③⑤ SPLOUTTYP=【フラグ】

スプラインをどの要素で作成するか設定します。

注) R12j 形式で変換する場合は、設定に関係なく POLYLINE になります。2 の場合は分解されません。

値	説明
1	POLYLINE で作成する。
2	ARC と LINE に分解する。
上記以外	SPLINE で作成する。

③⑥ ELPOUTTYP=【フラグ】

楕円をどの要素で作成するか設定します。

注) R12j 形式で変換する場合は、設定に関係なく POLYLINE になります。2 の場合は分解されません。

値	説明
1	POLYLINE で作成する。
2	ARC と LINE に分解する。
上記以外	ELLIPSE で作成する。

③⑦ VIEWNAMETOLAYERNAME=【フラグ】

MC のビュー名をレイヤー名に割り当てるかどうかを設定します。

値	説明
1	割り当てる。
上記以外	割り当てない(PV は 0、それ以外は 1,2... で変換)。

③⑧ DETAILNAMETOBLOCKNAME=【フラグ】

MCの子図名をBLOCK名に割り当てるかどうかを設定します。

注) 子図名がある子図のみ有効です。子図名がない子図については、子図名テンプレートを参照します。

値	説明
1	割り当てる。
上記以外	割り当てない(子図名テンプレートを参照する)。

③⑨ SPLDIVNUM=【分割数】

スプラインの分割数を設定します。

注) 構成点間の要素を1セグメントとします。分割数が奇数になる場合は、1を足した数を分割数とします。

値	説明
2~198	設定したセグメント数で分割する。
x2~ x198	元図のセグメント数の2~198倍で分割する。
上記以外	セグメントの3倍で分割する。

④⑩ CNCDIVNUM=【分割数】

円錐曲線の分割数を設定します。

値	説明
2~198	設定したセグメント数で分割する。
上記以外	13分割する。

④⑪ FMTCNV=【フラグ】

プロットデータで指定したフォーマット図面を変換するかどうかを設定します。

注) フォーマット図面を変換する場合は、④②もしくは④③の設定で、フォーマット図面格納先を指定してください。

値	説明
1	フォーマット図面を作成する。
上記以外	フォーマット図面を作成しない。

④2 FMTVOL=【区画:グループ,ユーザー】

MC図面形式のフォーマット図面を格納している区画:グループ,ユーザーを設定します。

値	説明
区画:グループ,ユーザー	設定した区画:グループ,ユーザーをフォーマット図面格納先とする。

④3 FMTPTH=【ディレクトリ】

OSファイル名形式のフォーマット図面を格納しているディレクトリを設定します。

値	説明
ディレクトリ	設定したディレクトリをフォーマット図面格納先とする。

④4 ELPOSTCRV=【フラグ】

楕円のオフセットスプラインを、曲線で作成するかどうかを設定します。

値	説明
1	曲線(SPLINE・POLYLINE)で作成する。
上記以外	楕円(ELLIPSE)で作成する。

④5 REALSCALEVIEWNAME=【ビュー名】

原寸で変換するビュー名を設定します。

注) この設定は、変換条件設定のビュースケールを‘ペーパー’にした場合のみ、有効となります。

注) 詳細は、10. 1) (11) ビュースケール反映図(図面 ⇒ DWG)を参照してください。

値	説明
ビュー名	指定した原寸ビューの要素を 1/1 で変換し、その他のビュー要素は原寸ビューに合わせてサイズを変更する。
上記以外	ビュースケールの設定により変換する。

46 ARCOUPTYP=【フラグ】

円弧を POLYLINE で作成するかどうかを設定します。

値	説明
1	POLYLINE で作成する。
上記以外	CIRCLE と ARC で作成する。

47 TXTPITADJMK=【文字幅比率】

文字の高さに対する文字幅比率を設定します。

値	説明
0.001 以上	設定した文字幅比率で補正し作成する。
上記以外	通常の文字幅補正で作成する。

48 TXTSPAMK=【フラグ】

文字間隔を無視するかどうかを設定します。

値	説明
1	文字間隔を無視して左詰めで作成する。
上記以外	文字間隔を判断して作成する。

・ 共通設定

49 WAROFF=【フラグ】

ACCESScore のワーニングメッセージを結果表示(ログ)に出力するかどうかを設定します。

値	説明
1	ワーニングメッセージを出力しない。
上記以外	ワーニングメッセージを出力する。

注) 必ずファイルは左詰めで入力し、途中でスペースは入力しないでください。

1 行に 1 項目のみ入力できます。

4) 線種について

(1) gtlin.def の設定

a) ファイル概要

このファイルは、DWG ➡ 図面変換時に使用します。gtlin.def の設定に従って、DWG の線種を MC の線種に対応させます。
このファイルは、エディターにて編集してください。

b) ファイル設定内容

gtlin.def の 1 例を以下に示します。

```
CONTINUOUS=0  
BORDER=21  
:  
GAS_LINE = 0  
ZIGZAG   = 40  
① ② ③
```

(a) 設定内容

DWG の線種に対する MC の線種 No. を設定してください。

① DWG の線種

DWG の線種を設定します。

注) DWG の線種は、10.4) (5) DWG 線種表を参照してください。

② イコール

区切り文字イコール(=)を設定します。

③ MC の線種 No.

MC の線種 No. を 0~218 で設定します。

注) MC の線種 No. は、10.4) (4) MC の線種 No. 表を参照してください。

注) ①~③は、半角文字で設定してください。

必ずファイルは左詰めで入力し、途中にスペースは入力しないでください。

1 行に 1 項目のみ入力できます。

(2) mclin.def の設定

a) ファイル概要

このファイルは、図面 ➡ DWG 変換時に使用します。mclin.def の設定に従って、MC の線種を DWG の線種に対応させます。
このファイルは、エディターにて編集してください。

b) ファイル設定内容

mclin.def の 1 例を以下に示します。

```
0=CONTINUOUS
1=CONTINUOUS
:
3115 = ACAD_ISO15W100
3116 = CONTINUOUS
① ② ③
```

(a) 設定内容

MC の線種 No. に対する DWG の線種を設定してください。

① MC の線種 No.

V3.18～V5R1 の場合は、MC の線種 No. を 0～218 で設定します。
V5R2 以上の場合は、MC の線種 No. を 0～3116 で設定します。

注) MC の線種 No. は、10.4) (4) MC の線種 No. 表を参照してください。

② イコール

区切り文字イコール(=)を設定します。

③ DWG の線種

DWG の線種を設定します。

注) DWG の線種は、10.4) (5) DWG 線種表を参照してください。

注) ①～③は、半角文字で設定してください。

必ずファイルは左詰めで入力し、途中にスペースは入力しないでください。

1 行に 1 項目のみ入力できます。

(3) ltyp.def、ltyp1314.def、ltyp12.def の設定

a) ファイル概要

このファイルは、図面 ➡ DWG 変換時に使用します。ltyp.def、ltyp1314.def、ltyp12.def で設定した LTYPE の内容を、DWG に変換します。また、このファイルは、DXF 形式で設定してください。

このファイルは、エディターにて編集してください。

注) ltyp.def は、DWG タイプが 2000~の場合に有効になります。ltyp1314.def は、DWG タイプが R13J、R14 の場合に有効になります。ltyp12.def は、DWG タイプが R12J の場合のみ、有効になります。

注) SXF 線種を使用する場合は、ltyp+ssf.def を ltyp.def に、ltyp1314+ssf.def を ltyp1314.def に、ltyp12+ssf.def を ltyp12.def に名称変更してお使いください。

b) ファイル設定内容

ltyp.def、ltyp1314.def の 1 例を以下に示します。

```

0
TABLE
  2
LTYPE
  5
25
100
AcDbSymbolTable
  70
    48
  :
ENDTAB

```

ltyp12.def の 1 例を以下に示します。

```

0
TABLE
  2
LTYPE
  70
    39
  :
ENDTAB

```

(a) ltyp.def、ltyp1314.def の設定内容

LTYPE のコード 5 のハンドル番号を、25～C7 の 16 進で設定します。

- ・線種のピッチなどを変更する場合
25～55 のハンドル番号のピッチを、変更してください。(下図参照)

0	
LTYPE	ハンドル番号
5	
29	
100	
AcDbSymbolTableRecord	
100	
AcDbLinetypeTableRecord	
2	
DASHED	
70	
64	
3	
Dashed	-----
72	
65	
73	
2	
40	
4.5	
49	
3.0	
74	
0	
49	
-1.5	
74	
0	

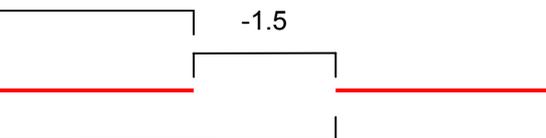
このピッチを変更する

ピッチについて補足説明

3.0

-1.5

4.5



- LTYPE を追加する場合
56～C7 のハンドル番号で、LTYPE の定義に従って追加してください。
(下図参照)

0	
LTYPE	
5	ハンドル番号
75	
330	
5	
100	
AcDbSymbolTableRecord	
100	
AcDbLinetypeTableRecord	
2	
ASA	
70	
0	
3	
ASA_LINE	
72	
65	
73	
3	
40	
24.13	
49	
12.7	
74	
0	
49	
-5.08	
74	
2	
75	
0	
340	
11	
46	
2.54	
50	
0.0	
44	
-2.54	
45	
-1.27	
9	
ASA	
49	
-6.349999999999999	
74	
0	

(b) ltyp12.def の設定内容

線種のピッチを変更してください。(下図参照)

0	
LTYPE	
2	
DASHED	
70	
64	
3	
Dashed	-----
72	
65	
73	
2	
40	
4.5	←
49	
3.0	←
49	
-1.5	←

このピッチを変更する

ピッチについて補足説明

3.0

-1.5

4.5

(4) MC の線種 No.表

a) 線種 1

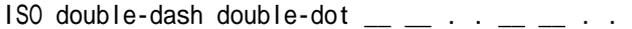
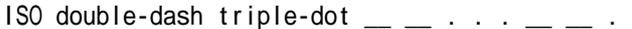
MC の線種 No.	MC 線種
0	実線(中)
1	実線(細)
2	実線(太)
10	破線(中)
11	破線(細)
21	一点鎖線
31	二点鎖線
40	破断線
100	NC ライン

b) 線種 2

MC の線種 No.	MC 線種
200	実線
201	破線 1
202	破線 2
203	破線 3
204	破線 4
205	破線 5
206	破線 6
207	二点鎖線 1
208	二点鎖線 2
209	二点鎖線 3
210	一点鎖線 1
211	一点鎖線 2
212	一点鎖線 3
213	一点鎖線 4
214	一点鎖線 5
215	セットバック 1
216	セットバック 2
217	マッチ
218	ステッチ
1000 ^{注1)}	ユーザー定義線種
1001 ^{注1)}	ユーザー定義線種
3102 ^{注1)}	破線
3103 ^{注1)}	跳び破線
3104 ^{注1)}	点線
3105 ^{注1)}	一点鎖線
3106 ^{注1)}	二点鎖線
3107 ^{注1)}	一点短鎖線
3108 ^{注1)}	二点短鎖線
3109 ^{注1)}	三点短鎖線
3110 ^{注1)}	一点長鎖線
3111 ^{注1)}	二点長鎖線
3112 ^{注1)}	三点長鎖線
3113 ^{注1)}	一点二短鎖線
3114 ^{注1)}	二点二短鎖線
3115 ^{注1)}	三点二短鎖線
3116 ^{注1)}	シグザグ線

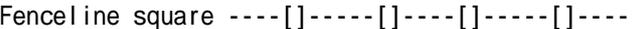
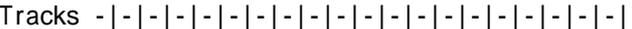
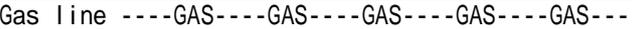
注 1) MC Helix V5R2 以上で対応します。

b) ISO 線種

DWG 線種名	説明 & 形状
ACAD_ISO02W100	ISO dash 
ACAD_ISO03W100	ISO dash space 
ACAD_ISO04W100	ISO long-dash dot 
ACAD_ISO05W100	ISO long-dash double-dot 
ACAD_ISO06W100	ISO long-dash triple-dot 
ACAD_ISO07W100	ISO dot 
ACAD_ISO08W100	ISO long-dash short-dash 
ACAD_ISO09W100	ISO long-dash double-short-dash 
ACAD_ISO10W100	ISO dash dot 
ACAD_ISO11W100	ISO double-dash dot 
ACAD_ISO12W100	ISO dash double-dot 
ACAD_ISO13W100	ISO double-dash double-dot 
ACAD_ISO14W100	ISO dash triple-dot 
ACAD_ISO15W100	ISO double-dash triple-dot 

c) 複雑な線種のサンプル

注) DWG タイプが R12J の場合は、未サポートです。

線種名	説明 & 形状
FENCELINE1	Fenceline circle 
FENCELINE2	Fenceline square 
TRACKS	Tracks 
BATTING	Batting 
HOT_WATER_SUPPLY	Hot water supply 
GAS_LINE	Gas line 
ZIGZAG	Zig zag 

5) 矢印について

(1) gtarw.def の設定

a) ファイル概要

このファイルは、DWG ➡ 図面変換時に使用します。gtarw.def の設定に従って、DWG の矢印を MC の矢印に対応させます。
このファイルは、エディターにて編集してください。

b) ファイル設定内容

gtarw.def の 1 例を以下に示します。

```
SOLID=17
_DOT=3
:
_ORIGIN2 = 3
_SMALL   = 3
 ①      ② ③
```

(a) 設定内容

DWG の矢印に対する MC の矢印 No. を設定してください。

- ① DWG の矢印
DWG の矢印を設定します。
- ② イコール
区切り文字イコール(=)を設定します。
- ③ MC の矢印 No.
MC の矢印 No. を設定します。

注) ①～③は、半角文字で設定してください。

必ずファイルは左詰めで入力し、途中でスペースは入力しないでください。

1 行に 1 項目のみ入力できます。

DWG の矢印および MC の矢印番号はサンプルファイル(gtarw.def)の 1～46 行目をご参照ください。

(2) mkarw.def の設定

a) ファイル概要

このファイルは、図面 ➡ DWG 変換時に使用します。mkarw.def の設定に従って、MC の矢印を DWG の矢印に対応させます。
このファイルは、エディターにて編集してください。

b) ファイル設定内容

mkarw.def の 1 例を以下に示します。

```
0=_NONE  
1=_OPEN30  
:  
31 = _OPEN  
32 = _OPEN  
① ② ③
```

(a) 設定内容

MC の矢印 No. に対する DWG の矢印を設定してください。

- ① MC の矢印 No.
MC の矢印 No. を設定します。
- ② イコール
区切り文字イコール(=)を設定します。
- ③ DWG の矢印
DWG の矢印を設定します。

注) ①～③は、半角文字で設定してください。

必ずファイルは左詰めで入力し、途中でスペースは入力しないでください。

1 行に 1 項目のみ入力できます。

MC の矢印 No. および DWG の矢印はサンプルファイル(mkarw.def)の 1～32 行目をご参照ください。

6) 要素の削除について

(1) gtdel.def の設定

a) ファイル概要

このファイルは、DWG ➡ 図面変換時に使用します。gtdel.def の設定に従って、不要な DWG 要素を削除して作成します。
このファイルは、エディターにて編集してください。

b) ファイル設定内容

gtdel.def の 1 例を以下に示します。

```
POINT=0  
LINE=0  
:  
SOLID    = 0  
3DSOLID  = 0  
    ①    ② ③
```

(a) 設定内容

DWG 要素に対して出力・削除のいずれかを設定してください。

① DWG 要素

DWG 要素を設定します。

② イコール

区切り文字イコール(=)を設定します。

③ フラグ

0(出力)もしくは 1(削除)を設定します。

注) ①～③は、半角文字で設定してください。

必ずファイルは左詰めで入力し、途中でスペースは入力しないでください。

1 行に 1 項目のみ入力できます。

(2) mkdel.def の設定

a) ファイル概要

このファイルは、DWG ➡ 図面変換時に使用します。mkdel.def の設定に従って、不要な MC 要素を削除して作成します。

このファイルは、エディターにて編集してください。

b) ファイル設定内容

mkdel.def の 1 例を以下に示します。

```
POINT=0
LINE=0
:
PARTS    = 0
PATERN  = 0
  ①    ② ③
```

(a) 設定内容

MC 要素に対して出力・削除のいずれかを設定してください。

① MC 要素

MC 要素を設定します。

② イコール

区切り文字イコール(=)を設定します。

③ フラグ

0(出力)もしくは 1(削除)を設定します。

注) ①～③は、半角文字で設定してください。

必ずファイルは左詰めで入力し、途中にスペースは入力しないでください。

1 行に 1 項目のみ入力できます。

7) asagaiji.tbl の設定

a) ファイル概要

このファイルは、MC 図面 ➡ DWG 変換時に使用します。asagaiji.tbl の設定に従って、MC 図面の外字を AutoCAD の文字列に対応させます。
このファイルは、エディターにて編集してください。

b) ファイル設定内容

asagaiji.tbl の 1 例を以下に示します。

F040	"¥f M S 明朝 b0 i0 c128 p50;¥U+2160¥f;"
F041	"¥f M S 明朝 b0 i0 c128 p50;¥U+2161¥f;"
F042	"¥f M S 明朝 b0 i0 c128 p50;¥U+2162¥f;"
⋮	
F061	"ろ"
F062	"g"
① ② ③	

(a) 設定内容

Helix 文字コードに対する AutoCAD 文字列を設定してください。

① Helix 文字コード

16 進数の Helix 文字コードを設定します。

② <TAB>

タブを設定します。

③ AutoCAD 文字列

AutoCAD 文字列を設定します。“” 内が有効文字となります。

8) ペーパー空間設定について

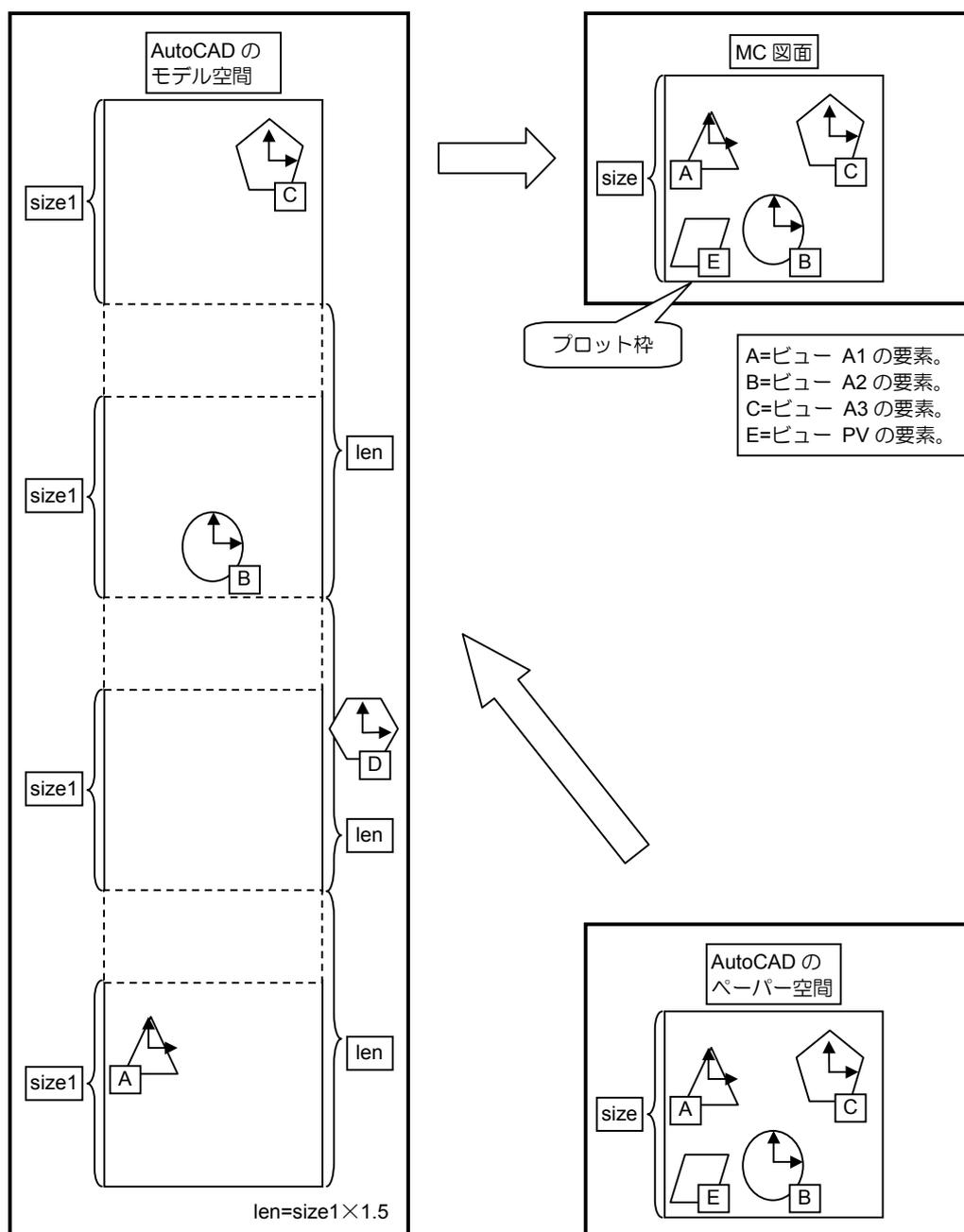
注) ペーパー空間設定は、オプションの『ペーパー空間サポート』を追加されている場合にご使用いただけます。

(1) DWG ⇒ 図面変換

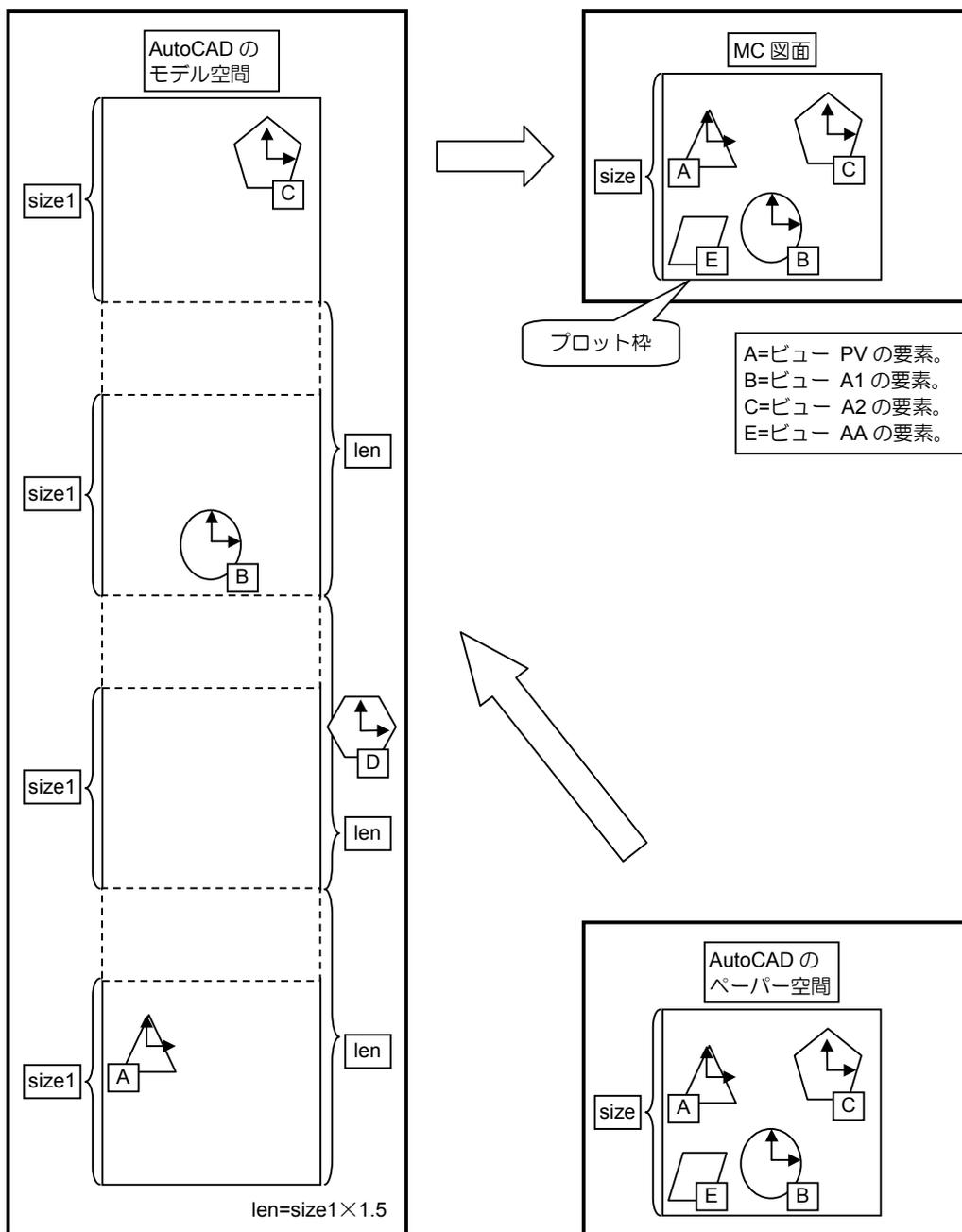
- ◆ ペーパー空間の要素が、全てモデル空間の2D要素として描かれているもののみ変換します。
- ◆ ビューポートから見えている全ての要素が、枠内にある要素のみ変換します。
- ◆ ビュー名を設定していない場合は、新規にビューを追加します。その追加したビューに、ペーパー空間の要素を変換します。
- ◆ ビュー名にA1、A2、A3…Z9を設定した場合は、図形の大きさ等が異なる場合があります。したがって、ペーパー空間上に表示されているビューポートの数がわからない場合は、使用しないでください。
- ◆ ペーパー空間上に表示されているビューポートの数が分かる場合は、(ビューポートの数 + 1)番目以降のビュー名を設定してください。

例) ペーパー空間上に表示されているビューポートの数が『5』の場合は、ビュー名に『A6』または『A7』または『A8』...または『Z9』が、設定可能です。

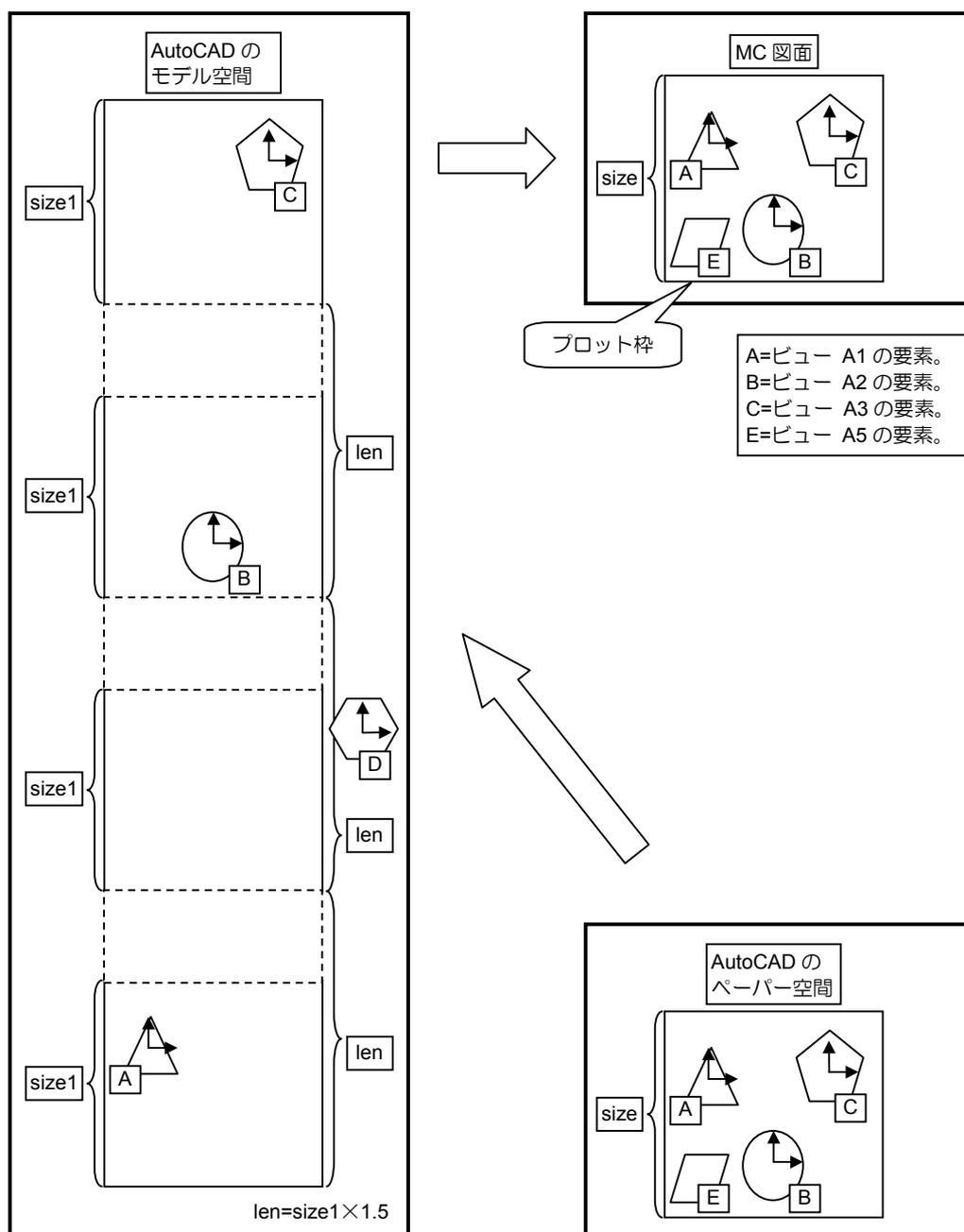
- ◆ ペーパー空間ビュー名を『PV』(GTPSVIEW=PV)と設定した場合、次のようになります。



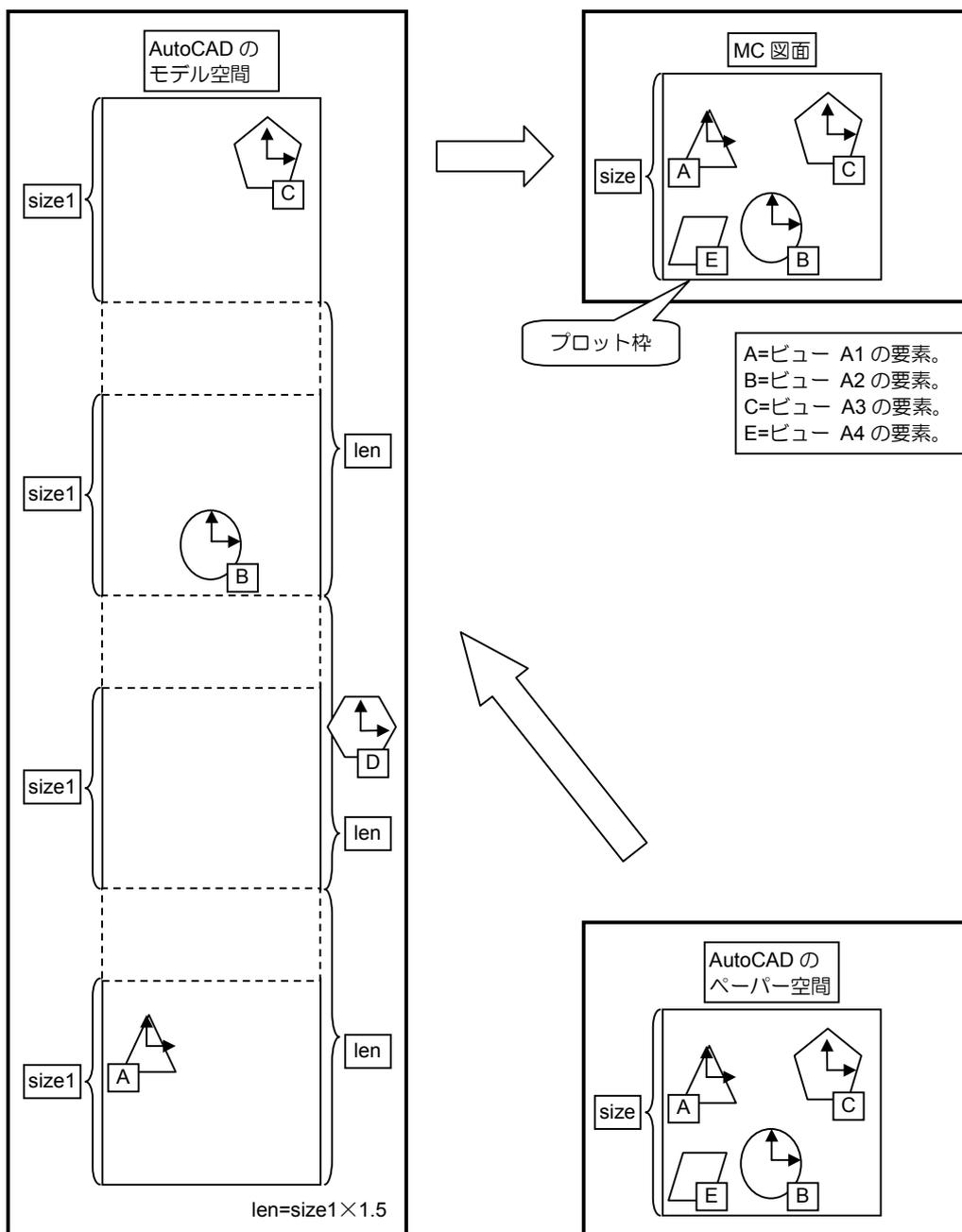
- ◆ ペーパー空間ビュー名を『AA』 (GTPSVIEW=AA)と設定した場合、次のようになります。



- ◆ ペーパー空間ビュー名を『A5』 (GTPSVIEW=A5)と設定した場合、次のようになります。



- ◆ ペーパー空間ビュー名を『 』 (GTPSVIEW=)と設定した場合、次のようになります。



(2) 図面 ⇒ DWG 変換

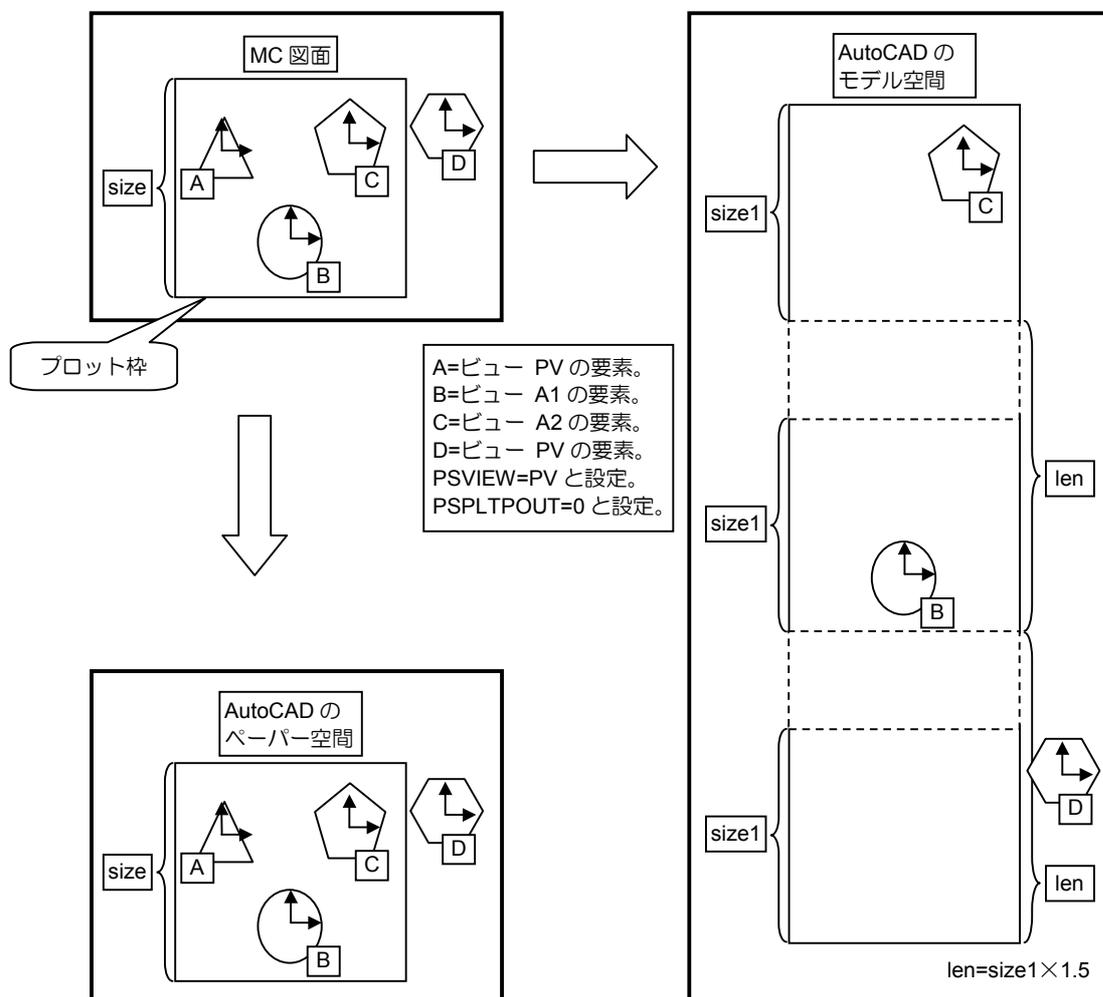
- ◆ 各ビュースケールは、ペーパー空間内の各ビューポートのスケールになります。
- ◆ プロットデータ範囲が、ペーパー空間の最大サイズになります。
プロットデータがない場合は、全要素の表示範囲が、ペーパー空間の最大サイズになります。

注) dwgenv.sys の設定で、“PSPLTOUT=0” の場合のみ。
- ◆ ペーパー空間内のビューポート枠の画層は、『VIEWPORTS』になります。

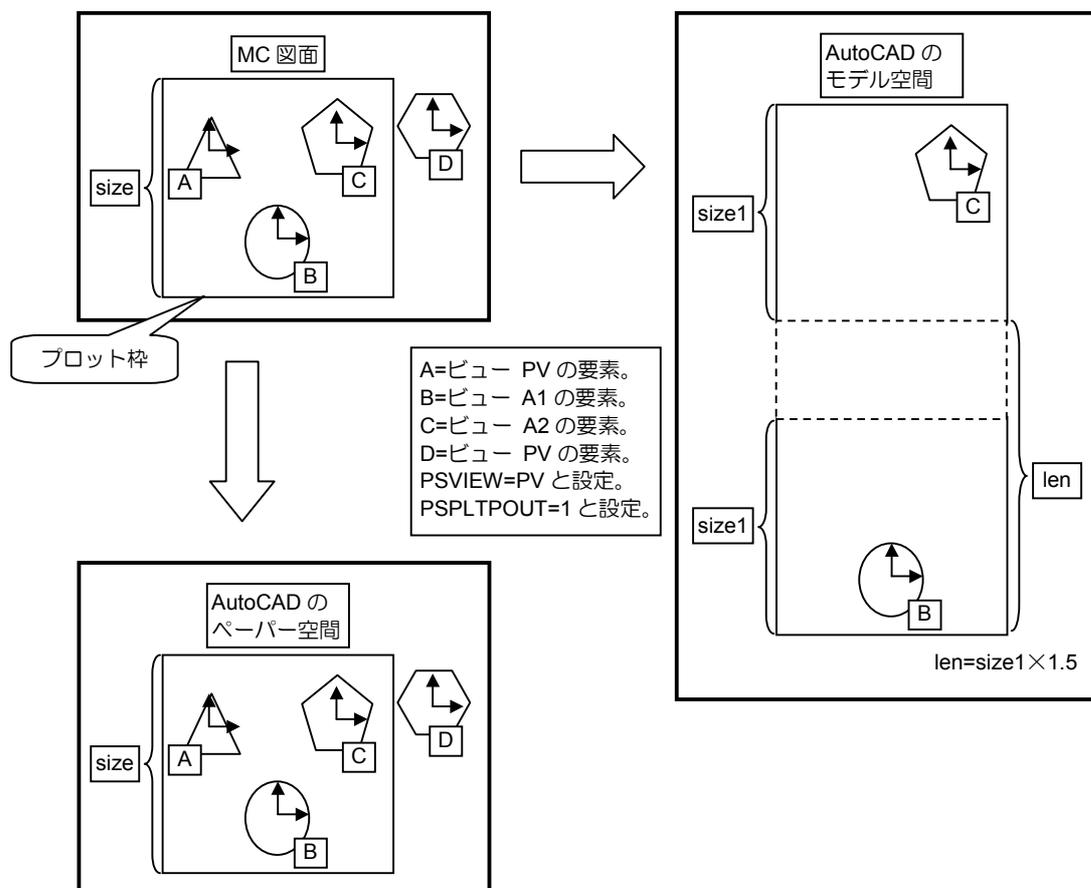
注) ビューポート枠は、不表示で変換します。ビューポート枠を表示する場合は、AutoCAD の画層管理で、画層『VIEWPORTS』を表示に設定してください。
- ◆ モデル空間として変換した要素は、全て実寸になります。

◆ モデル空間に変換した、各ビュー要素の位置は、次のようになります。

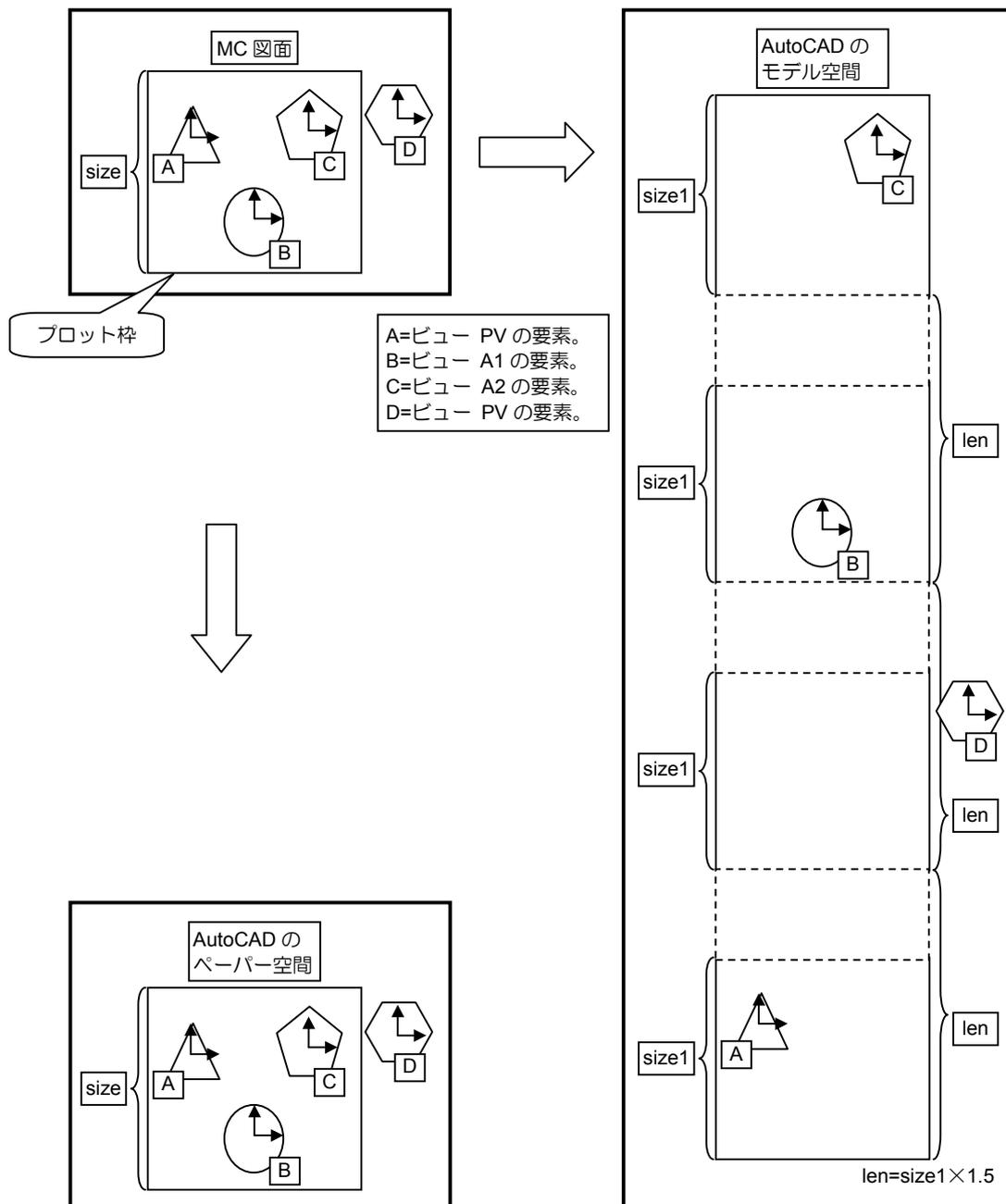
- ・ ペーパー空間ビュー名を『PV』 (PSVIEW=PV)、 PSPLTPOUT=0 と設定した場合は、次のようになります。



- ・ペーパー空間ビュー名を『PV』(PSVIEW=PV)、PSPLTPOUT=1 と設定した場合は、次のようになります。



- ・ペーパー空間ビュー名を『 』 (PSVIEW=) と設定した場合は、次のようになります。



9) 導入時の変換条件設定

ここでは、DWG えもん導入時の設定(変換条件)を明記しますので参照してください。

(1) DWG ⇒ 図面変換

設定項目	設定内容
区画(ドライブ)	C
グループ	CAD
ユーザー	TRAIN
ディレクトリー	C:¥MCADAM¥ASA
拡張子	dwg
DWG タイプ	その他
精度	自動
LAYER	ビュー毎
BLOCK	子図
寸法	寸法
寸法タイプ	擬尺
文字幅補正	無補正
変換要素	全要素
カラーテーブル	未使用
POLYLINE	スプライン
OS ファイルのパス	MCLOCAL:C:¥MCADAM¥CAD

(2) 図面 ⇒ DWG 変換

設定項目	設定内容
区画(ドライブ)	C
グループ	CAD
ユーザー	TRAIN
ディレクトリー	C:¥MCADAM¥ASA
拡張子	dwg
DWG タイプ	2000
子図名テンプレート	KOZU0001
使用フォント名	txt,BIGFONT
精度	自動
ビュースケール	ペーパー
ビュー	LAYER
子図	BLOCK
日本語	出力
寸法	寸法
寸法タイプ	擬尺
シンボル	BLOCK
部品	BLOCK
NC ライン	出力
1バイトカナ	1バイト
2バイトカナ	2バイト
文字幅補正	補正
変換要素	全要素
カラー・レイヤーテーブル	未使用
オーバーレイ	LAYER
OS ファイルのパス	MCLOCAL:C:¥MCADAM¥CAD

10) トラブル調査依頼について

DWG えもんの変換、インストールおよび操作におけるご質問、またはお問い合わせは、

〒804-0003

北九州市戸畑区中原新町 3-3

TEL : 093-882-0226

FAX : 093-882-0422

E-mail : cad@asasystems.co.jp

株式会社 エーエスエー・システムズ

サポートセンター 宛へ

トラブル調査をご依頼いただく場合は、お手数ですが以下の内容をお送りください。

- ・変換対象図面(MC 図面)
- ・変換対象データ(DWG)
- ・トラブルレポート^{注1)} (最終頁のレポートに記入してください)

注1) トラブルレポートは、Word98 形式で CD-ROM のルートディレクトリ下に存在します。

